

●ともに歩く女たちの雑誌

ねふ

wife NO.178.

特集 ● 女・からだの履歴書

- **特集投稿** 母に支配された私の性/悪夢の十七年間
- **座談会** 秋夜閑談・女の性を愉しむ
- **インタビュー** 教科書はどこへ行く/山住正己
- 宗教は政治の召使いか——優生保護法「改正」を考える

逐次刊行物

昭 57.10.13 和

国立婦人教育会館
情報図書室



筑摩書房

〒101 東京神田小川町2-8
☎03(291)7651

共同編集●樋口恵子・中島通子・向井承子

女が生きる職業

全3巻

女が男と平等に働きつづける条件を、女の生き方と重ねて探り、これから働きはじめる女性、働きつづけたい女性に贈る必読のシリーズ ●四六判・並製カバー装

Ⅳ 再就職 もうひとつの生き方

いま再就職を考える(向井承子) 再就職・その現実(桜井陽子) 私の再就職(柳本繪子・他) 主婦が歩いた再就職情報(原田静枝) 農村と工場のはざまに生きる(桜井きぬ子) こんなときどうする(和田好子) 社会保険と税金の知識(羽山孝子) 世界の女性・再就職の波(坂元良江/ヤンソン由実子/田中喜美子/寺崎あき子)他 1200円

Ⅰ 就職 働きはじめるあなたへ ●好評発売中

あふれる就職情報を、働く女性の立場から診断・間違った会社選びをしない為の手引。 1200円

Ⅱ 職場 働きつづけるあなたへ ●11月刊行予定

働きつづけようとする女性があふつかる職場での壁と、出産・育児などによる問題の解決法を示す。

駒尺喜美

四六判・1400円

魔女的文学論

文学には人間の生の具体的な姿がある。漱石、直哉らの作品を斬新な視点で解剖、男中心の愛のかたちをなで斬りにする新しい文学論。待望のラジカルな女性論の誕生。

なにを食べたらいいか

Ⅰ主食編・副食編 郡司篤孝

Ⅱ調味料編・飲料編 各650円

自分のいのち、子孫の繁栄を願うならば、何を食べるかは自分で決めねばならぬ。その決断への有効で適切なアドバイス。

あぶない化粧品

日本消費者連盟 正統 各650円

三一書房

東京都千代田区神田駿河台二一九
振替・東京9184160番

大月書店

東京都文京区本郷2-11
電話 03 (813) 4651 (代)

郷静子著 ●主婦作家の日々

女の生きかた

主婦として、作家としての
暮らしの日々を綴ったエッセイ集

芥川賞受賞後も、主婦として、
作家として、また一市民として
幅広い活動をつづけている著者の
暮らしの日々を
綴ったさわやかな
エッセイ集。

●目次 男と女のあいだ／
私の人生観／子育てを考える／
日々の暮らしから／生きのびたもの
の責任／回転木馬



私の横浜

郷静子著

46判・1,000円

女ざかり・仕事ざかり

佐野美津子著 四六判二〇八頁 九八〇円

結婚、離婚、子育て、未婚とその履歴はさまざま
だが、それぞれの道で魅力あふれる生き方をして
いる8人の女性達の仕事と人生の軌跡を綴る。情
熱をもって生き、それを行動で活かすことが、彼
女達の花をさかせた。

女が仕事に生きるとき

高橋瑞恵著 四六判二五四頁 一二〇〇円

働く多くの女性と語り合い、人間大好きという女
性経営コンサルタントが出合った、あなたの周り
や、どこかの職場にもいそうな27人の登壇者。女な
らではの問題を抱えながらも、それぞれの仕事に
自分なりの意味作りをしながら取組んでいる姿は、
仕事と生き方を考える読者に多くの示唆を与えず
にはおかない。

同友館

〒113 東京都文京区本郷5-32-6 ☎ 03(813)3966

●表紙絵・松本をさえ
 ●中扉・パウラ・モーダーゾーン＝ベッカー
 ●表紙・本文レイアウト・岡島三紀子
 ●装画・カット・早乙女光子・伊福部薫子・岡田正子・松本をさえ・鈴木昭宏

グラビア●自立する女たち

写真・文 野村路子

産後を助ける会

インタビュー●教科書はどこへ行く 山住正己

特集●女・からだの履歴書

《投稿》

母に支配された私の性 高辺芳子

生れかわるために 由紗文子

悪夢の十七年間 遠藤光子

座談会●秋夜閑談 女の性を愉しむ

出席者・板根百合・田河純子・瀬木明子・佐々木初枝・渡辺寿子

宗教は政治の召使いか 田中喜美子

——優生保護法「改正」を考える——

わたしのえらぶ画家⑨《野中環》 佃堅輔

コミックライブラリー

長くて暑い夏休み 子殺し寸前の巻 絵・西田淑子 案・山本彩子

4

10

19

20

31

35

42

56

66

70

わいふスクラップ帖 キリヌキ菌保菌者同盟

114

バリカンとウーマンリブ 橋本チエ子

73

《わいふ家庭科》

あなたの食卓診断④ 竹内富貴子

81

人形の家を出でて 木下律子

100

にわとり論議 Part II 善法寺保育園

89

——「ペットのにわとりなぜ殺す」に答えて——

楽しいかな家事 原田静枝

92

《読者のページ》

らうんど・てーぶる

119

■私の再就職■対話のページ■おしゃべり

情報コーナー

68

サークルだより

118

書評

112

投稿規定

142

投稿募集

143

編集だより

144



女たち

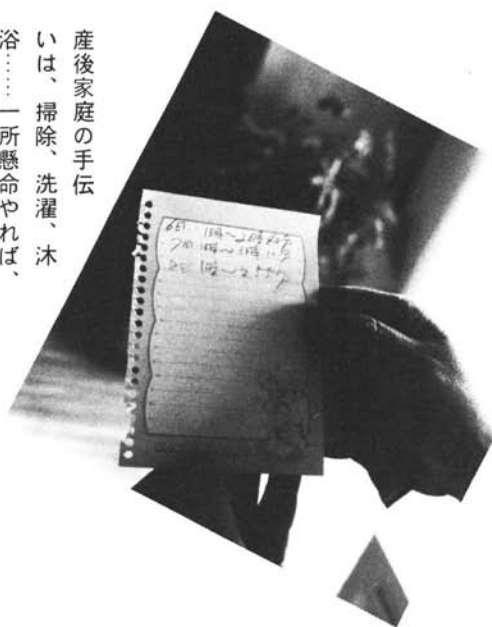
産後を助ける会

写真・文 野村路子

日本最大の団地として知られる多摩ニュータウン（東京都多摩市）の各家庭に、毎週配られる小さな情報紙。その片隅に、自転車談りますとか、子犬探していますなどという文字と並んで、産後のお手伝いをします サマリア会* という広告が時折掲載される。

「必ず一行でおさめて……」という小さな広告だが、出産を間近に控えて悩んでいた若夫婦はもちろん、共働きの家庭、母子家庭や父

産後家庭の手伝いは、掃除、洗濯、沐浴……一所懸命やれば、二時間足らずで終る。





自立する

子家庭など、さまざまな事情で、家事の手助けを求めている人から、問い合わせの電話が多いという。

「こんなにも困っている家庭が多いのかとびっくりするくらいです」

と、山田美千代さん(43歳)と、岡邦子さん(45歳)は顔を見合わせて言う。

一年三カ月ほどの間に二十数件の家庭を手伝ってきた。問い合わせの電話の中には、長期にわたって家事全般を頼みたいとか、毎日夕食の準備をなどという依頼もあるが、いわゆる家政婦会とちがいで、産婦を助けるのが主な目的だから、全部は引き受けられない。

二人が親しくなったのは、教会の信者仲間としてだった。教会への献金を、夫から貰う生活費の中から出していることに、何となくためらいを感じて、何ひとつライセンスを持っていない主婦が、子育てのキャリアをしごとと結びつけることはできないだろうかと考え始めたのがきっかけだった。

サマリア会の第一の目的は神への奉仕、それは今も変わっていない。だから、時給七円の収入の四分の一は神様のために貯める。



貯めておいた四分の一が十二万円ほどになり、第一回は、二人の属する教会に贈った。次回からは、牧師未亡人の老人ホームに贈ることも相談中とか。

「生まれてくる赤ちゃんを扱って得たお金を、お年寄りに役立てようかと思って……」

と二人は、掃除の手も休めずに話してくれる。

手際よく、二時間足らずのうちに、赤ちゃんの入浴から掃除洗濯、買い物、夕食づくりまでこなす。

手探りではじめた仕事だが思いがけないほど多くの人に感謝されたことが、何よりも二人の仕事を支えている。二人の手と心を求める人は、ますます多くなっていくのかも知れない。



優生保護法 — ばつすい —

昭和二十三年七月十三日公布・九月十一日施行

第一章 総則

(この法律の目的)

第一条 この法律は、優生上の見地から不良な子孫の出生を防止するとともに、母性の生命健康を保護することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律で優生手術とは、生殖腺を除去することなしに、生殖を不能にする手術で命令をもって定めるものをいう。

2 この法律で人工妊娠中絶とは、胎児が、母体外において、生命を継続することのできない時期に、人工的に、胎児及びその付属物を母体外に排出することをいう。

第二章 優生手術

(医師の認定による優生手術)

第三条 医師は、左の各号の一に該当する者に対して、本人の同意並びに配偶者(届出をしないが事実上婚姻関係と同様な事情に

ある者を含む。以下同じ)があるときはその同意を得て、優生手術を行うことができる。但し、未成年者、精神病者または精神薄弱者についてはこの限りでない。

第四条 医師は、診断の結果、別表に掲げる疾患に罹っていることを確認した場合において、その者に対し、その疾患の遺伝を防止するため優生手術を行うことが公益上必要であると認めるときは、都道府県優生保護審査会に優生手術を行うことの適否に関する審査を申請しなければならない。

第三章 母性保護

(医師の認定による人工妊娠中絶)

第十四条 都道府県の区域を単位として設立された社団法人たる医師会の指定する医師(以下指定医師という)は、左の各号の一に該当する者に対して、本人及び配偶者の同意を得て、人工妊娠中絶を行うことができる。

一 本人または配偶者が精神病、精神薄弱、精神病質、遺伝性身体疾患または遺伝性奇型を有しているもの。

二 本人または配偶者の四親等以内の血族

関係にある者が遺伝性精神病、遺伝性精神薄弱、遺伝性精神病質、遺伝性身体疾患または遺伝性奇型を有しているもの

三 本人または配偶者が癲疾に罹っているもの

四 妊娠の継続または分娩が身体的または経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのあるもの

五 暴行若しくは脅迫によってまたは抵抗若しくは拒絶することができない間に姦淫されて妊娠したもの

2 前項の同意は、配偶者が知れないとき若しくはその意思を表示することができないときまたは妊娠後に配偶者がなくなったときには本人の同意だけで足りる。

3 人工妊娠中絶の手術を受ける本人が精神病者または精神薄弱者であるときは、精神衛生法第二十条(中略)または同法第二十一条(市町村長が保護義務者となる場合)に規定する保護義務者の同意とみなすことができる。

わいふ

178号

愛すること

考えること

働くこと

育てること

楽しむこと

たたかうこと

それらの

どれかひとつではなく

どれも

大切だと思っている

あなたへ



インタビュー

山住正己

(教育学者)

教科書はどこへ行く

教科書が揺れている。二、三年前から検定の厳しさが問題になりだしたら、それがこの夏外交問題にまで発展して、政府や文部省は窮地に追いこまれた。

天皇の「死」は「没」にするなど、天皇に関する記述はすべて、敬愛の念を持つような書きかたをするよう修正を求め、明治憲法の民主的要素を書き加えろといい、第二次大戦中に日本軍がやったことの表現をもっと柔らかに

して、原爆の図や悲惨な写真はカットしろと要求する文部省。この一連の考えをつなぎ合わせてみると、戦争を体験した世代の誰もが、背すじの冷たくなるような恐ろしさを覚えるのではないだろうか。

だが、待てよ、戦争が終ったとき、それまでの教科書に墨を塗らせて、軍国主義的記述を一切葬り去ろうとしたもの、あれも確か文部省だった筈だ。

だとすると、あれは一体何だったのだ。信頼しきっていた教科書に、茫然と我が手で墨を塗らされた世代の人たちは、今また、子供たちの教科書の変化にとまどい、おののいている……。

こんな母親たちの気持ちを原点に、都立大学教授の山住正己氏にお話を伺いながら、教科書問題のゆくえを追ってみた。

教科書に再びスミを

——私は終戦の翌年小学校に入学して、一番いい教育を受け得た世代の一人じゃないかと思うんですが、少し年上の人たちは、今まで神様のように思ってきた教科書に、自分の手でスミを塗らなければならなかったわけですね。そのショックは未だに忘れられないと言っています。

ところが今また、逆戻りの方向にスミがぬられているんですね。

▼そう。今度は子どもや教師の手に渡る前にスミがぬられているのですから、もつと悪質かもしれませんね。

——ということは、終戦後スミを塗ったときに、本当に反省してその言葉を抹消したわけではなくて、戦争を起したような考え方がその底に温存されていて、それが今また顕著に頭をもたげてきた、ということなのでしょう。か。

▼そうですね。あのスミ塗りが、戦後

教育の出発点だといわれてるんだけど、あれはきわめて不完全な出発点だったと思うんです。各学校で先生たち自身が、戦前の教育を本当に反省して、自主的にあの作業が行なわれたのではなくて、文部省の指示によって決ったんですから。

去年なくなったアメリカの新聞記者のマーク・ゲインが、敗戦の年の暮に日本にやって来て、各地をとびまわっているいろいろ取材していますがね、東北のどこかの学校へ行ってみたところ、まだ戦時中の軍事訓練と同じような体操をやっていたんですね。

それを見て彼が「戦争が終ったのに、なぜこんなことやってるのか」と校長さんにきいたら、「東京から命令が来たら改める」と答えたというんです。(笑)この一言に彼はびっくりして、日本の教育がいかに中央集権的であったかがよくあらわれていると言ってます。

——その文部省自体も、どこかに命令

されてスミ塗りを指示したんでしょうか。

▼そのときは、占領軍の指示ではなくて、文部省は自主的に判断してやったんですよ。

——じゃあ、本当にいけないと思ったんでしょうか。これは絶対改めなくてはと……。

▼敗戦直後、文部大臣が変わって、リベラルな前田多門さんになったんですね。軍国主義的な内容だけはいくら何でも削除しなくては、新しい教育はできないという判断はあったわけですね。

しかし、天皇崇拜というような、超

田道間守(たじまもり)

古代の伝説上の人物。垂仁天皇の勅を奉じて、常世国まで橘を探しに行き、十年後に手に入れて帰ってきたが、その時にはすでに、天皇は亡くなっていた。彼は天皇の墓に橘を献じ、嘆き悲しんだあまり、ついに陵前で殉死したと伝えられる。

国家主義的な考えがわりに残ってたんですね。田道間守とか、養老の滝とかの教材は残りましたから。きわめて不完全なスミ塗りでもあったわけですよ。

きびしい検定は日本だけ

——でもまあ、それまでの軍国主義教育は一新されて、民主教育のスタートを切ったわけですね。ところが、数年後にはもう、それを押し止めるような動きが政府に出て来て、それ以後はいわゆる「逆コース」といわれるような政策が次つぎに打ち出されてきますね。教育委員を任命制にしたり、君が代斉唱を通達したり、日教組をつぶそうとしたり……。私も卒業後しばらく岐阜の高校に勤めていたことがあるんですが、そのとき組合弾圧の波をもろにかぶってとても苦しかったです。

▼そうですか。岐阜県はひどかったですからね。六十年代のいわゆる「正常化」というヤツ……。

——そして教科書の方も、一九五五年頃から検定が始まって、それが増々強化され、六十年代には家永教授による教科書裁判が起こされるわけですが、日本が今行っている検定制度的なものに、どうもおかしなところが多いようにですね。

▼根本の問題はそこだと思いますよ。外国の教科書にも、日本についてずいぶん分間違った記述をしているのがあるじゃないか、それなのに日本の政府が外国に対して文句をつけたことはないと言われたりしています。確かにひどい教科書はありますよ。さし絵一つとっても、江戸時代の風俗を現代としていたり、中国と日本を混同してたりね。だけどそれは、外交上の問題になることはあり得ないんです。外国では教科書は自由にいろいろ出されていますから、変なのを出している出版社や執筆者に、抗議をすればいいわけです。

ところが日本は検定制度をとっているし、しかもその検定が誤記誤植の修

家永三郎著「新日本史」

の修正例より

(1) 女性の地位に関する記述

△平安時代▽

……婦人の社会的地位は後世よりも一般に高かった。

しかし貴族の家庭では、妻が生産労働に従事する農民と違い、妻に社会的役割がなく、夫の愛情にすがるよりほかに生きる道のない弱い一面があったので、妻は夫の妻問いの絶えるのをいつも恐れていなければならなかった。

←（傍線部分を次のように）

……妻に社会的役割が乏しく、独立性がじゅうぶんでなかったことも一つの理由となつて……

△明治時代▽

……俸給生活者や賃金労働者の家庭でも、生活をささえる収入は夫の職業だけから得られ、妻はただ消費生活を管理するだけで、古代の農村女性や江戸時代の下層町人の主婦のような生産的役割を持っていなかったから、ここでも妻の地位を向上させる余地は少なかった。

正だけでなく、その内容に立ち入って、字句上の表現にまで及んでいるんですからね。事実上の検閲ですよ。こういう検定は国際的にも異例なものです。

——日本だけですか。世界広しといえども……。

▼こんなことやってるのは日本だけです。中国やソ連でも、社会主義国だから国定かといえ、そうじゃない。戦前の日本の国定制と同じだと思ったら、大間違いです。

ソ連では何人もの著者がそれぞれ出してコンクールのような方式をとっているし、中国では州や市ごとにさまざまなものを作っています。日本のように、政府がすみずみまで検定をして、それに合格したものだけ出しているなんていう国はないんです。だから、教科書の問題が外交上の問題になっちゃいますよ。

——そうですね。政府の責任でことになりますから……。



昭和十三年高等女学校
「修身」の検定教科書

▼それから外国で問題になったときにはじめ文部大臣は「直したのは民間の教科書会社だ」といって、責任転嫁をしたでしょう。そんなことを文部省が言えるのは、検定の過程が公開されていないからです。誰に最終的責任が

←（傍線部分を次のように）

生計が夫の俸給、賃金だけによってささえられていることも一つの理由になって、必ずしも妻の地位がいちじるしく高まったとはいえない面があった。

文部省が書き直しを命じた理由

「生徒が、経済的に自立しない女性は弱いものだ」という印象を受ける恐れがある。いつの時代でも愛情が主要で、経済的理由だけで女性の地位を決めることはできない」

(2) 古事記、日本書紀について

「古事記」も「日本書紀」も「神代」の物語から始まっている。「神代」の物語はもちろんのこと、神武天皇以後の最初の天皇数代の間の記事に至るまで、すべて皇室が日本を統一してのちに、皇室が日本を統治するいわれを正当化するために構想された物語であるが、その中には民間で語り伝えられた神話、伝説なども織りこまれており、古代の思想、芸術などを今日に伝える貴重な史料である。

あったのかわからないんですね。

——お互いに責任転嫁し合っているうちに、いつの間にかズルズル、とんでもない方向に行ってしまうって……。

▼そうですね。こんな密室の検定制度はやめて、教科書の発行や採択はできるだけ自由にして、国際間でも自由に批判や討論をし合って、教科書の内容を決めたり改めたりしていけるといいですね。

——ヨーロッパでは、そういうことをやってるんですね。

▼そうらしいですね。西ドイツとポーランドの間など……。

——アメリカでは、今までかなり自由だったのに、最近教科書の種類が減らされたり、内容に制限が加えられたりするようになったという話ですが……。

▼ええ、アメリカはレーガン政権になってから、非常に保守的になってきたようです。進化論を教えるはいけない、人類の起源は旧約聖書にある通りに教えるということを、州として決め

ているところがまた出てきたとか……。

——ひどいですね。でも日本でも似たような、神話から国のなりたちを決めたがる向きもありますね。(笑)

最近の急旋回

——新聞記事をたどってみますと、三年前までは難なく検定に通っていたものが、急に一昨年あたりからクレームがつきだして、それが年々厳しくなり、今年あたりはもう自己規制するようになったちゃったというような経過なんです……。

▼国語の場合を例にとると、高校用教科書に十年ほど前、ある出版社が初めて山本茂実さんの「ああ野麦峠」を入れたんです。そのとき文部省の調査官は「これはヒットですね」と言ったそうですよ。七十年代には一時、検定がゆるくなっていたんです。

——それは一九七〇年に出された、家永裁判の杉本判决の影響でしょうか。

傍線の部分をすべて削除。古事記、日本書紀の中には、……と統ける。

理由「古事記、日本書紀が、古代の文献として有する重要な価値が無視されている。また当時の為政者の気持ちを正しく伝えていない」

(3) 教育勅語について

教育勅語は、忠・孝その他の道徳上の徳目を示し、天皇の名によって国民にその順守を求めたものであった。

← (傍線部分を次のように)

……教えを説いたもので、のちには法令の上で、学校における修身教育の基準と定められた。

理由「勅語には『朕爾臣民ト俱ニ』とあるのに、この記述では、天皇が国民とともに遵守するという点が出ていない」

(4) 第二次大戦について

……国民は戦争についての真相を十分に知ることができず、無謀な戦争に熱心に協力するほかにない状態に置かれた。

←

▼そうですね。それともう一つは、民間の研究の成果が高くなり、国語でも検定教科書にのっている作品よりも、先生たちがプリントしたりして生徒に読ませている作品の方が、子どもたちにとって魅力あるものが多くて、七〇年代にはその中から教科書に選ばれるようになったのです。

「野麦峠」もその一つで、それ以後もずっと通ってきたものが、八十年代になってからは、「これは暗い作品だ」とか、女工さんたちのひざに血がにじむ描写があると「しぎやく的である」といったりする。一つの作品や、同じ文章に対する見方がまるで変わってくることもあるんです。

——それは、評価する人間が変わったということなのでしょうか。

▼人間が変わっていない場合でも、そういうことはあるんじゃないですか。それは単なる個人の問題ではなくて、検定を進める文部省の背後にある力だと思っていますね。民衆の苦しむようすを描

いたり、戦争と平和を扱ったりしたもののや、ロシアの民話などがやり玉に上ってくるのですから。「おおきなかぶ」や「かさこ地ぞう」も自民党から攻撃されたでしょう？

——ええ。するとこれは、政府が最近戦争に対して肯定的になってきて、教科書によって国民の意識を一つの方向に向けようとしているのでしょうか。

▼そうですね。特に八十年の衆参両院ダブル選挙での自民党の勝利のあと、教科書攻撃が目立ってきましたね。

検定制度を打ち崩すには

——こういう日本の検定制度は、もし家永さんの教科書裁判が最高裁で勝利をかちとったとしたら、やめさせることができるでしょうか。

▼もし最高裁で杉本判决と同じような判断が下されたら、そう、検定はやめざるを得ないでしょう。

家永裁判のような訴訟を、もう一つ

「無謀な」を削除
理由「日本だけに責を負わせるのは酷だ。教育的配慮を加味すると、ぜひ『無謀な』は削除する必要がある」

二つ起きてくれたらいいと思うんですが、それはちょっと難しいんですよ。教科書はほとんど複数の執筆者で書いてますからね。家永さんは一人で書いたんです。

——ああ、そうすると、全員の足なみがなかなか揃わないからですか。

▼そう、そこが難しいところですね。一人のために検定に合格しないと、他のみんなに迷惑かけるということで、自主規制しちゃったりすることもあるでしょうしね。

——まわりの人に迷惑を及ぼすからとか、全体の和を保つために、自分が正しいと思うことでも主張を折ってしまうのは、日本人の特徴みたいですね。

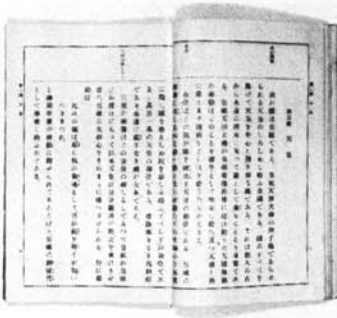
教科書会社の営業的側面もあるでしょうし。

▼それはもちろん大きいです。合格しないことには売れませんからね。中には、検定で直してもらえて有難いなんていってる会社もあるんですよ。

ええっ？ そんなに著者を信用してないのかしら。

▼それもあるでしょうが、編集者が自分の編集という仕事に自信や誇りがな

天皇の忠実な臣民としての 道徳を教える内容



いのでしょう。

複雑にからむ外交と国内問題

——この夏、外国で問題になり始めてから、文部省とか政府が急に弱腰になっちゃって、あれこれ対策を立ててみましたね。

▼二重に腹立たしいですね。二十年来国内で同じ批判をしつづけてきたのに、それに対しては耳を傾けようとしなかったんですから。逆に言ったら、僕達の力不足ということだね。まことに残念なんですよ。

——中国や韓国は、日本政府の説明に一応納得したようですが……。

▼しかし民衆は納得しないでしょう。これは、直接日本人から被害を受けた人々の、自発的な運動ですからね。

——私の夫がいま香港に赴任しているのですが、手紙によると、運動の主体をはじめは学生だけだったのが、最近では労働者も加わってきたとか、店に

教科書検定訴訟 杉本判決より

・現代国家の理念とするところは、人間の価値は本来多様であり、また多様であるべきであって、国家は人間の内面的価値に中立であり、個人の内面に干渉し価値判断を下すことをしない。すなわち国家の権能には限りがあり、人間のすべてを統制することはできない、とするにあるのであって、福祉国家もその本質は右の国家理念をふまえたうえでそれを実質的に十全ならしめるための措置を講ずべきことであるから、国家は教育のような人間の内面的価値にかかわる精神活動については、できるだけその自由を尊重してこれに介入するを避け、児童・生徒の心身の発達段階に応じ、必要かつ適切な教育を施し、教育の機会均等の確保と、教育水準の維持向上のための諸条件の整備確立に努むべきことこそ、福祉国家としての責務であると考えられる。

・教科書の内容は学問的成果に基づいた真理を包含するものであることが要請される。それゆえ、一般の国民より以上にすぐれた教科書の執筆が期待される学問の

よって「日本人おことわり」の貼り紙は前から見られたそうですが、最近ではタクシーの乗車拒否もボツボツ起きたり、連続ものの日本のフィルムでのテレビ放映を途中で中断したり、南京での日本軍の行為をつぶさに記録した写真集が発売されたり、映画館では反日映画が上映されたりと、だんだん広がりを見せているそうです。満州事変勃発の日当たる九月十八日には、日本品排斥の大キャンペーンが予定されていて、これは政府がこの問題を諒承した後も、中止どころか相当大規模な計画がされているそうです。

▼そうですか。香港でも……。

——外から見てみると、日本の文部省の国内での対応がともわかりにくいもので、中国と韓国の抗議によってようやく再改訂に動き出したという印象を与えていて、日本はアジアのことがわかっていないという感じをみんな持っているそうです。

▼嘆かわしいですね。

それから、政府は今すぐは直さないといってるでしょう？

——ええ、二年後にするとか……。

▼それはね、今はできないんですよ、政府としては……。教科書裁判では、家永さんが文章の修正を要求されて直した翌年、それをもとにもどして提出したら、不合格になったんです。それで訴えたんですね。つまり、たとえば「進出」を「侵略」に戻したら、不合格になったというようなことなんです。だから、もし文部省がいま字句の訂正をもとに戻したら、家永裁判の最高裁判決に決定的な影響を、自ら与えてしまうことになるんです。

——ああ、そうすると、文部省自身、家永さんの正当性を認めたという、大きな証拠ができちゃうんですね。

近・現代は

歴史教育のきらわれもの

▼高校の「現代社会」の教科書の検定

研究者に教科書執筆、出版の自由が保障されなければならないことは、けだし当然であるというべきである。

・教科書検定における審査は、教科書誤記、誤植その他の客観的に明らかな誤り、教科書の造本その他教科書についての技術的事項および教科書内容が教育課程の大綱的基準の枠内にあるかの諸点にとどめられるべきものであって、審査が右の限度を超えて、教科書の記述内容の当否にまで及ぶときには、検定は教育基本法一〇条に違反するといふべきである。

※教育基本法一〇条

教育は、不当な支配に服することなく国民全体に対し、直接に責任を負って行われるものである。

教育行政は、この自覚のもとに、教育の目的を遂行するのに必要な諸条件の整備確立を目標として、行わなければならない。

で歴史的背景をけずりたがるということですが、これは非常に困ったことです。歴史的背景を削っちゃったら、現

代社会の問題を理解させることはできませんからね。

——じゃあ、教科書には何が書いてあるんでしょう？

▼ただ表面的なできごとがズラリと並んでいて、戦争なんかも自然現象みたいに、ただ「起った」としてある。

——なんだか現在の私達だって、いつの間にか「戦争が勃発した」なんてことになリかねないですね。

それに歴史の授業では、近代や現代が教えられずに残りがちでしょう？

私の高校時代の世界史の授業も、最初の類人猿のところ、ピテカントロップスエレクトスだとか、シナントロップスペキネンシスだとか（笑）今でも覚えてるくらいですから、こんなの一ぱい暗記させられたのに、一番興味のある現代のところはそっくり残ってしまつて、「あとで各自読んでおきなさい」なんてことで終つてしまつたんです。

▼近・現代は教えたくないという教師が多いですね。複雑で厄介だというわ

けですが、複雑だからこそしっかり教えて、生徒に考えさせるべきです。現在に直接つながる一番大切なところですからね。

——それに、共通一次試験に出ないからっていうことですが、どうして出さないんでしょうか。

▼見方が分れるところもあったりして、採点が難しいこともあるんでしょうが、これはやっぱり出すべきでしょうね。

議論の分れるところは、それを全部示して、生徒に考えさせるとかして……。

——よく、歴史は多様な見方があるなんていわれますけど、本当に学問的に見て正しい歴史というのは、やはり決められるんでしょうね。

▼中には学説が分れる場合もあります。が、学問的に一致しているところは多いでしょう。

ところが文部省には、学問と教育とは違うという考えが、根強くのこつているんです。学問を各自が研究したり、大学で教えたりするのはいいが、小・

中・高校で学問の成果を教える必要はないんだと……。

そりゃ、学説そのままを小・中学校の教科書に載せることはないだろうが、たとえ小・中学生でも研究の成果はそのままわかりやすく教える必要はあるんですね。文部省や国が勝手に一つの解釈を、「教育」の名のもとに押しつけることはおかしいんですよ。歴史事実をそのまま子どもにも示して、子ども自身に何が正しいかを考えさせればいいんです。

子ども時代に教わつた歴史は、いつまでも心に残るものですからね。家永三郎さんは、中学時代に読んだ歴史の本によつて、それまで小学校などで教わつてきた歴史がいかに間違ひだったかを知つて、現在も尚、その治癒過程にあるということを書いておられました。が、私もそのとおりです。国民全部が正しい歴史を知る権利があると思いますよ。

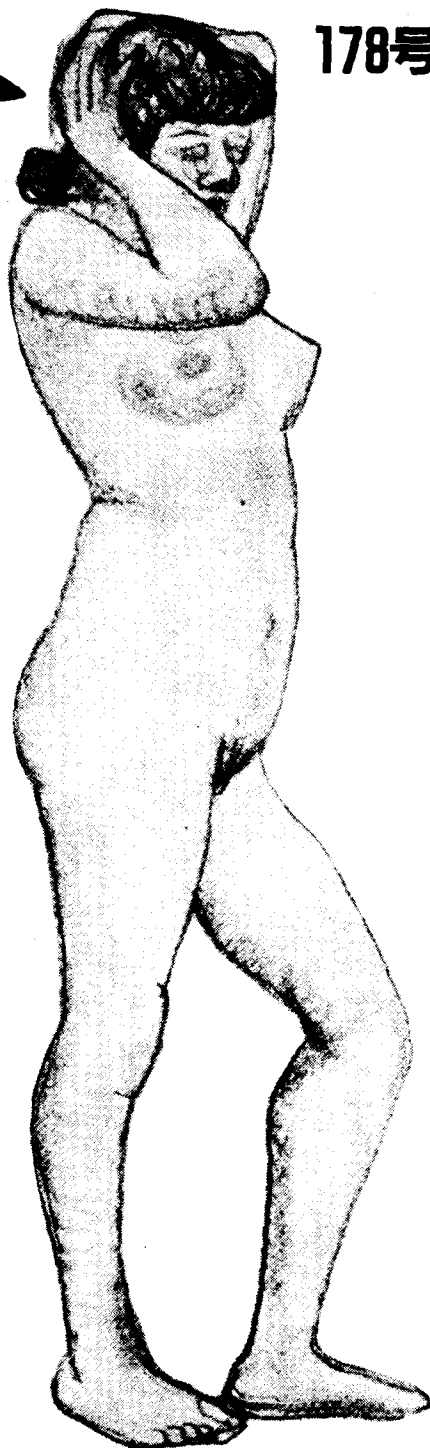
（ぎき手・まとめ

早川裕子）

女

からだの履歴書

178号特集

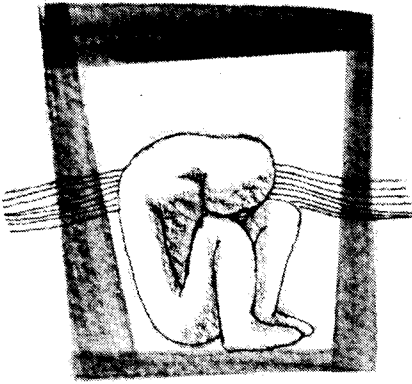


画・パウラ・モダーゾーン・ベッカー

母に支配された私の性

高辺芳子

(東京都練馬区)



月経^{ゲイ}の思い出

私が小学校を卒業したのは昭和二十六年でまだ戦後の混乱は続き、性教育などは叫ばれていない時代でした。卒業間近に保健の先生が、体の大きな女の子だけに生理とその手当を話されたことをあとで知り、一番のちびであった私は、自分の知らないところで級友達が集められ、女の体の秘密が話されたことに腹が立ち、いくら小さくても女である以上いつかは経験するのだから、体の大小にかかわりなく、一緒に話すべきではないかと思いました。

体の大きい子から聞いた月経の話は大変なおどろきで、女にはそんなものがあるのかと初めて知った秘密に、おそれと興味を持ち、母や姉にもあるはずなのに、人にはわからないようにしているのだと思いました。

中学一年の夏休みの朝、気持が悪くて目を覚ますとパンツが赤くなってい

特集投稿

ました。

ああ自分にも訪れたのだなと平静な気持ちで受け止め、母に報告すべきだと思つて夜そつと言うと、

「えっ、とせ始まったとか、小さか^ど体のくせに困ったもんじゃ、人には絶対に言うもんじゃなかとよ、あそこの娘は小さかくせに生理があるとわらわれるからナ」

当り前に思っていたことが、とんでもないこととわかり、体の小さい自分には早すぎた生理が、恥しくて恥しくて死にたいくらいでした。

二日目の夜、風呂上りで裸の私に股を開けと母が言ってきた、ぼろで作った手縫いのフンドシをしてくれました。

その中に当て布を二、三枚入れその上にパンツをはくのだと教えました。

「笑いのものになる」と言つた母が、私の為に生理帯を作ってくれたことで、心がなごみました。

学校では生理のある子を囲んで、話に花が咲きましたが、「笑いのものになる」と思い込んでいたので、私は小さいからまだないのだという顔でいました。

もし母の心ない言葉がなかったら、何の屈託もなく話ができ、何でも話合える友を得て友情の素晴らしさを知つたでしょうが、自分の心は絶対に外に出さぬ人間になっていたので心からの友はいませんでした。

毎月一回の生理はとても悩みました。母の作ってくれた丁字帯は、中に二、

三枚の布を入れただけではべとつき、黒のズロースまでべっとり浸みこみ、よくスカートの染まらなかつたと思うくらいです。たまにはガバガバなつたりもしましたが黒っぽいスカートなので、人にはわかりませんでした。

二年になって学校から「生理バンド」の注文取りがありました。皆の持っている「生理バンド」が欲しくても買ってくれとは言い出せず、フンドシを自

分なりに厚くしたり工夫していたのです。母は生理の事には二度とふれないし、私は生理などないような素振りをしていました。だから買ってくれとは思ひくと言えないことでしたが思ひくと言つて、母は黙っていました。あわてて「まこて月経^{ヅツ}のようなものがあるもんじゃから」と卑下したような、機嫌を取るような言い方をすると

「そげな風に言わんでもよか」とたしなめたので、月経のことを「ゲゲ」などと、卑屈な言い方をした自分を恥じました。

小さいくせに恥だ、と思わせた母は一方では、そんな言い方をするなど叱る母であり、その真意がわかりませんでした。

始めて手にした「生理バンド」は宝物のようで嬉しくて幸せな気分でした。

しかしやはりズロースにもれました。脱脂綿を買うには、小さいくせに、と店の人に思われそうで買いに行けないし、また買うからお金をくれとは言

えないことで、古着を適当に切って当
てていました。ほとんどが農家の子で、
脱脂綿を買う余裕はなく、同じよう
にぼろきれを、知恵を働かして探し出
していたと思います。

一回使った布は良く洗って干し、次
にまた使ったのです。洗う時、タライ
の中は、まっ赤になりました。家族に
わからないようにしていたのですが、
本当に貧しい時代でした。

町の高校に行くようになって始めて
脱脂綿を買いました。もう高校生なの
だから笑わないだろうと、勇気を出し
て入ったのですが、恥しさに引たく
るように受取りました。それでもぜい
たくには使えず、布と併用しました。

高校を出て勤め出し、自分の取った
お金で必要なだけ使えるようになった
時は、とてもうれしくて、豊かな思い
でした。今まで不潔な思いでいたのだ
ですが、まっ白なのを当てていばりたい
気分です。

その時、昭和三十二年、月給四千五

百円で、脱脂綿は四十円くらいだった
かと思っています。

ところが思わぬ弊害が出て来ました。

トイレの紙は、新聞紙を適当な大き
さに切ったのでお尻を拭き、拭いた紙
は箱に入れ、いっぱいになったら菜園
などで焼くのですが、新聞紙で巻いて
捨てた脱脂綿は水分を含んでいるので、
むき出しに焼け残っているのです。そ
れを見るのが恥しいので、便所の中に
投げ込むことにしました。そしたら、
肥溜から汲み上げて、畑にかける時、
綿はくさらないでそのままの形です。
捨てるなど父に言われ、こんどは裏山
に穴を掘って埋めることにしました。
生理綿一つにも苦労します。

姉はどうしているのか恥しくてきけ
ませんでした。そして昭和三十年代の
半ばに、「四十年間お待たせしました」
のキャッチフレーズでアンネがナプキ
ンを売り出した時は、衝撃的なおどろ
きでした。思いもよらぬ福音です。本
当にうれしくて、ありがたくて、よう

やく解放されたと思いました。

この頃から、日本女性の性意識は大
きく変化したのではないかと思います。

妊娠なんかさせられて

昭和三十九年に結婚で東京に来まし
た。一か月半でもしやと思ひ近くの医
者に行くところ「妊娠です。産みますか」
と聞かれました。正当な結婚による妊
娠なのにと不愉快な気持ちで「ええ産み
ます」と答えました。中絶するのは結
婚前に妊娠した人がやるものだと思っ
ていたのです。その後、そんな事を言
う産婦人科はいませんでした。

始めての妊娠に、感謝したり、喜ぶ
気持はありませんでした。それよりも
九州の実家からすぐ帰って来いと言っ
ていることの方が重大でした。私の母
が、夫の両親と仲人に腹を立てること
ができて、私を離婚させたいくらいの
怒りようだったのです。もちろん私も
同じように怒っていたのですが、離婚

特集投稿

して、父母のもとで、また娘の生活にもどることに気が進みませんでした。

というのは、●初潮を恥だ／＼と思わされたように、事ある毎に母の非難と小言と、嘲笑をあびせられていましたので、結婚で家を出られたことは天の助けにも似た気持だったのです。

小さい時から頭が鈍く、不器用で気が弱く、その裏返しとして、劣等感を隠すために軽薄な言動をしていましたので、いつもたしなめられていました。

何をしても、何を言っても頭ごなしに叱られるので、理不尽な小言や非難にどう立向うのか、口下手で社会性のない私にはわからず、非難される自分を恥じ、耐えるだけでした。私にとつての家庭は、針の筵にも等しいところでした。

父母の立腹を知らない夫に思いきって話すと、おどろいて、すぐ帰るよう切符を買って来ました。初めて飛行機に乗りました。

実家では、母は心配のあまり、すっかりやつれていました。私には針の筵でも、母には、他の四人と同じように、大事な子供だったのです。私の事で心痛んでいる母に妊娠をなかなか言い出せませんでした。

母の理不尽な小言を、腹立たしく思いつつも母が恐く、こんども言わなかったら、なぜ言わなかったと叱られそうな気がするのです。

母に心の中を話したことなどなく、相談や話し合いをすることもめったにないので、まともに向き合っては言えず町の婦りに話しました。

「(夫の)手紙に大事な体と書いてあったから、まさかとは思ったが、何とも言わんから安心しとったのに……」
やはり言って良かったと胸をなでおろしました。

ところが次の言葉が発せられた時、私の全人格は、粉々に打ちのめされました。

「あんな息子に妊娠なんかさせられて

まだきれいな身体かと思っちゃったとに……。いつかな、簡単に体を許すようなことはないと思っちゃったに……。向うの親と、仲人に知れたらどげん言われるかよ／＼偉そうな事を言ってきたから妊娠しちゃったとは、足もとを見すかされるとよ。一体お前はどんなつもりか……」

うなだれて歩きながら「妊娠させられた」という思いがけない言葉に、妊娠した自分が恥しくて、恥しくて、何という恥さらしな事をしたのだろうと、自分を責めに責めぬいていました。母の思わくばかりを気にする私にも思ってもよらぬ言葉でした。

いつものように、非難される度に我が身を恥じる私に、腹立たしそうな母の言葉は続きます。

——誰ちゃんは五年になるのにまだ子供を作らないで商売に精出している感心なことよとか、持たぬ子には泣かぬとは昔の人は良く言ったものよ、子供なんて苦労するだけで何にもならぬ、

居ない方がずっと良い。戦後、旅館で働いていた何とかさんが言っていたが、同僚の一人は小学生の男の子をかかえて、そりゃ大変な思いをしていたが、自分は子供が居なかったので良かったと……子供さえいなけりゃどうにでもなるが、子供がいると何にもできぬ……、自分では五人の子供を産んでいながら、初めて妊娠した娘に、子供の居ないことの幸せ、いることの不幸を次々と話すのです。鈍感な私も、産まぬことを母が望んでいるのがわかりました。

母から非難される度に傷つき、いやな思いをしながら、持ち前の気の弱さからたちまち母に迎合する態度に出るのです。

母の機嫌をそこねることが何より恐く、おどおどびくびく顔色ばかりうかがっているような卑屈な私を、今考えると何といやな人間だろうと思います。この時もさっそく母の氣に入るように、「中絶できるかしら？」と言っ

てしまいました。自分が中絶する女になろうとは思ひもしないことだったのに、母に言われたら、もう何の不思議もない自然なことになりました。



私の言葉を聞くと母はとても満足したようでした。急にやさしくなって、中絶なんて少しもこわくないこと、誰さんも、誰々さんも、ほとんどの人が四番目五番目を墮していること、二、三時間ですみ、歩いて帰って次の日は仕事のできることを話しました。

結婚した人は避妊するので中絶はないと思っていたが、そんなに皆がやっていることなのかと驚くと同時に、咎められることない気楽なことだと安心しました。

次の日から、薪取りや畑仕事に精出しました。それは重労働をすれば、自然流産するかもしれないと言う母の意見で、仕事の合間には土手から飛び下りたり、山の急斜面を駆け上ったり、駆け下りたり無茶苦茶に体を使いました。それでも変化は現われず、かえって食欲が増して元氣そのものです。

まもなく夫の両親と仲人が来るので、対面または対決の場に妊娠していたのでは強いとも言えぬのでその前に墮

特集投稿

さねばと母につれられて町の婦人科に行きました。

母がかかったり、姉がお産をした医者なので、受付に出た医者、つわりがひどくて堕したいと母が言う、うなずいて、三千円の料金を受け取ると、すぐ始めると言いました。余りのあつけなさにびっくりしました。優生保護法できびしく規制されているものでもないらしい。

不安も、恐怖も、後悔も、罪の意識も何一つありませんでした。唯足をひるげる羞恥心だけがありました。何も知らないのは幸せなことで、今考えとぞっとします。

何の記憶もないまま、気づいた時は、殺風景なコンクリートの、手術室の壁にくっつけた台の上に、ころがされていました。しばらくは、どうしてここにいるのかわかりませんでした。ようやく手術したことに思い至りました。

それにしては、医者もいないし、看護婦もいない、母もいない、もったも受付の時から医者だけだったので看護婦は休みなのでしょうか、一月の末のことで寒くて冷え冷えしたコンクリートの手術室に毛布もかけずにまさに転がされているとしか言いようのない自分を、わびしくて、悲しく感じました。不当に冷遇されているような思いでした。

大変に寒く、毛布一枚かければ暖まりそうでした。それを頼むべき母も居ないことは、私を不安にしました。どのくらいだったでしょうか。両手にいっぱい買物を持った母が「目が覚めたか」と入って来ました。

麻酔がされるまでの間に買物に行ってきたのです。それを聞いてとても悲しく思いました。心配しすぎてつき添ってくれるものと思っていたのです。反面、その必要もない気軽な事に思っている母に対して、ちょっと思いすぎている自分を恥しく思いました。どこま

で自分を恥じたら気がすむのでしょうか。「そろそろ帰らないと暗くなる」とあいさつもせずに出ました。目が覚めたら帰って良いと言われたのだそうです。一回も姿を見せぬ医者、手術した患者は見たくないものだろうと思いました。

二十分も歩いては帰れないような思いでいたので、タクシーで帰ろうと母が言ったときはとてもうれしかったです。

その夜は、ズキンズキンする痛さに、微菌でも入ったのではと思いました。二、三日は痛むかもしれない薬をもらっていました。この痛さは「二、三日ではまず一週間続きました。」「こんなに痛いものかしら」と言うと、「じっと寝ていれば、そのうち良くなつてよ」と少しも気にせず言うのでした。事実、じっと寝ていたら、一週間目に痛みはとれたのです。

夫の母と仲人が来たのですが、父母は口程には強いことも言えず、うやむやのうちに、帰ってゆきました。

私は父母の離婚させたい意向に同調しながらも、再び父母のもとで暮すことには耐えられない思いでいましたら、父母としても、良く考えてみると下に三人の弟妹がいて、出戻り娘をかかえるよりは、親には腹が立つが、息子は良い子なので、結婚させた以上は、別れさせないで、一緒にさせ、力を合わせて生活設計を立てさせた方が得策だと言うようになり、離婚しないですみました。

再び東京に戻り、夫には飛行機などのせいで流産したと言うと、大変に残念がり、「おいしいことをした。おいしいことをした」と言いました。そう思うのが当り前なのに、自分達親子は変わっていると思いました。本当は夫を恐れるべきはずなのです。母はあのあと、「本当に堕して良かったよ、安月給で、六畳一間のアパート生活で、どうして子育てができるものかよ、狭い所で子育てをしていると思うと私の方がたまらない」と言いました。

水子供養などの言われている今の時代に比べると、平気なものでした。

七転八倒の苦しみ

今度は避妊を夫に約束させて、共働きを始めました。

四十三年の九月会社に着いてまもなく腹痛がして、早引きしました。そのうち直るだろうと寝ていたのですが、はき気までするようになり、今までにないことで、用心のため近くの内科に行くと、お腹をおさえたりしましたが、わからないと言い、私が便秘が続いていることを言うと、そのせいだろうと言って、薬をくれました。

寝ていれば良くなると思っていたのに、痛みはひどくなる一方で、八時頃になると、どうしようもない痛さです。二階の妹を下から呼んでも返事がありません。

丁度土曜日で、夫は会社の慰安旅行に行っており、妹と二人でした。二年

前に小さな建売住宅を買い、大学に行っている私の妹を下宿させて二階の部屋を与えていたのです。

寝ても痛い、起きても痛い、お腹の中に何かぶら下っていて、ゆらゆら動いている感じで、ちょん切ったら直るような気持ちでした。

その頃はまだ電話はなく、隣の電話を借りて救急車を呼ぶことを考えていながら、夜おそく電話を借りに行くのは迷惑ではないかと、こんなことで救急車を呼ぶのは不謹慎ではないかと、救急車の音で隣近所の目を覚まし、人に見られることは恥しい、そんな気持ちの方が先に立って、妹が気づかないか、早く朝になれば良いとそればかりを望んで、一晚中部屋の中をのたうち回りました。

腸捻転は七転八倒の苦しみと言いますが、正に七転八倒の激痛なのです。朝が来て医者に行きさえすれば良くなるのだからそれまでのがまんだと自分に言いきかせて、部屋の中を転げ回り

特集投稿

ながら、朝までの辛抱だ、朝までのがまんだと耐えることしか考えませんでした。

こんな激痛なのだから、救急車を呼ぼうとしないところが小さい時から、苦しさ、痛さにがまんをし、耐えて来た私の性格なのでした。

激痛にのたうち回りながら、死、のことは少しも思わず、朝が来て医者に行きさえすれば直るのだと信じこんでいました。

しらじらと夜が明けてきてもまだ四時半、時計の針はのろくて、数時間たったと思ってもまだ五時、もうこれ以上がまんできない。がまんしたら気を失いそうな気がしたので、階段をはい上りながら妹を起こしに行きました。

歩くこともできず、転げ回るしか体を動かすことはできないのに、いざという時は不思議なもので、妹の肩につきまわりながら、途中何度も、し

ゃがんだり、人のいないところでは四つんばいに這ったりしてようやく昨日の病院にたどりつきました。たった七分の所が、何時間もかかったような気がしました。

七時すぎ頃でしたが、医者はすぐに出てきて、内科の病院ではないと、婦人科のある救急病院を紹介してくれました。遠方なので、通りに出てタクシーをひろい、書いてもらった地図を見ながら行きました。

日曜日だったので、運よく婦人科の医者が宿直だったので、すぐ診察してそのまま病室に運ばれました。内診をしたただけであればどの激痛が、うすれてきました。

医者に行きさえすれば痛みはとれると信じたのは当りました。

医者が病室に説明に来て、「左の卵巣が腫れていて、挙大こぶしになっっている。しばらく入院して様子を見させて欲しい、その上で、手術するかを決めたい」と言いました。あの激痛はどうしてか

と聞くと、「ふくらんだ卵巣のぶら下っている根もとの茎がねじれて痛かった」ということです。痛みがとれたのは内診でねじれがとれたせいだったのだらうと思いました。

それにしてもねじれた痛さは腸捻転にも匹敵するはげしいもので、よく気絶もせず、一晩もがまんしたもので、今にして思えば氣違いの沙汰です。

四日目に卵巣のう腫の手術をしました。医者を信頼していましたので、少しの不安も心配ありませんでした。

卵巣は一つあれば、何人でも子供は産めるし、私の二十九歳という年を考えてか、いつ妊娠しても良いと言ってくれました。だが、まだ子を産む気は全然ありません。

父の退職金を借りて建売を買ったので、借金も返さないうちに子供なんか作ってと言われかねませんので、三週間で退院してすぐ勤めに出ました。一年くらいして、生理にしては量が多いし、固りがあるので近くの婦人科に行

くと流産でした。切実に子供を欲しいとは思っていなかったの、悲しみはありませんでした。その後、度々胃の調子が悪くて胃腸透視をしました。白い液を飲んで、一、二時間おきくらいに、三、四回レントゲンをかけたと思います。ところが後になって妊娠していたことがわかりました。妊娠するかもしれない時期に、お腹にレントゲンをかけるなんて、まったく無知なことでした。医者は奇形が生れるとは限らない、万が一ということもあるということで、夫と何日も話し合った結果中絶することにしました。

卵巣の時の医者によってもらうことにし、こんどは入院させてくれるよう頼みました。

手術台にのぼり、気づいた時は病室に運ばれていて、側には夫がいました。痛みは全然ありません。最初の時は、一週間もズキンズキンと痛んだのに医者者の技術の違いでしょうか、良い医者にめぐり合ったと感謝しました。

まっ白なふかふかの布団に病人として取り扱われ、側には夫がつき添い、医者は、気分はどうだとわざわざ来てくれ、前回のわびしかったのに比べ、今回は大事にされ、始めて自分の人格が尊重された思いで涙が出ました。一日で退院し、勤めは一週間休みました。

晴れて出産

そしてこんどは本格的に子供を作ることにして、すぐ妊娠したのを機に勤めをやめました。親への借金も返し、何を言われる心配もなくなった今、妊娠を喜び、出産を待ち望み、日ましに大きくなるお腹を、誇りと、うれしさで、なでまわしていたのです。

六月に男の子を産みました。陣痛の苦しさは、卵巣の時の激痛に比べれば、どうってことはありませんでした。

私はもう三十二歳になっており、結婚七年目の初産でした。子供は二人の

予定でしたので、本当は五歳違いくらいが良かったのですが、年が年なので一歳になった時次の妊娠をすることにしました。妊娠可能の一週間というものの、失敗してはならじと、毎晩夫に催促するものだから、もう俺は逃げ出したいと悲鳴を上げましたが、大事な子種を一滴たりとものがしてなるものかとがんばりました。

その甲斐あってめでたく妊娠し、予定日より十日早い夜明けに破水して、すぐ医者につけつくと、日曜日であるかける予定があるので、母校である大学病院を紹介してくれました。三人の妊婦が、分娩台に足をひろげています。私はまん中で、左の人は大声でわめき通します。私も陣痛がおそって来ますが、もっともっとひどいのが来ますからと、じっと耐えていました。助産婦は一人です。その一人と見習いを含めた医師団三人が、わめいている人につききりで、私と右の人ははったらかしです。ようやく産み終って静かになり

特集投稿

ました。

その始末の途中私をのぞいた助産婦が、「あつ、頭が出ている、消毒するからまだ産んじやだめよ」あわてて、産み落してはならぬと息を吸い込みました。「はい、産んで良いですよ」と言うが早いか、ちよつと力んだだけでするすると出ました。

二度目のお産なのに陣痛の加減もわからず、まだまだがまんと思っていたのですから情ないことおびただしい。

こんどは女の子でした。上と二歳違いです。母は、子供なんて厄介者だと言いましたが、二人の子供はとても可愛くて、幸せを与える存在でした。

この子も九歳になりました。その間一回の避妊の失敗もありません。用心深い私のこと、これから失敗はしないでしょう。

初潮、妊娠、中絶、流産、卵巣手術、出産と、女だけの体の経験色々、人並に経てきました。これから、更



年期障害、閉経といった、種々の事を経験するでしょう。

こうして書いてみると、「女・体の履歴書」すなわち「女・心の履歴書」となります。何事にも、精神とのかかわり合いなしにはあり得ないということとでしようか。

気の小さい私が、中絶、卵巣手術で「子供を産めぬ体になりはせぬか」と心配しなかったのが不思議です。いつでも産めると絶対的な自信を持っていたようです。

卵巣の時、もし子宮外妊娠だとしたら、一晩もがまんしたことによって命はなくなっていたでしょう。

また二番目の出産の時、助産婦の気付くのがおそかったら、コンクリートの上に産み落して、赤ん坊は死んだでしょう。

耐えること、我慢することも限度を越えると命を落すことになりかねません。

私のように、小心で、意志薄弱で、

自分を恥じ、自分を責めて育ってきた人間は、どんな悲しみ、苦しみ、痛さにも、じっと我慢し、じっと耐えることでしか、生きる道を見出し得なかったのです。

初潮、妊娠と女性の体の発達段階においての母の心ない言葉が、私の精神を大きくゆがめました。私は強くて、烈しい母にはんろうされながら生きてきたのです。

自分の意見も持たず、意志も表わせなかった私は四十をすぎてようやく母の影響から脱し、自我らしきものを持つようになることができました。三歳違いの秀才だった姉は、私と同じに育てられながら、母をはね返す力があり、何を言われても気にせず、言いたいことを言い、やりたいことをやって、思いどおりにすごしました。性格の違いでしょう。もし、素直で従順で、それ故に気が弱く社会性のない私の性質をしつかり見きわめる目を持った母の子に生れたら、このような悲惨さはな

かったらうと思います。

また、おとなしくて、気の弱い父が、母に追隨することなく、私の側に立ってくれたら、少しは救われたでしょう。

しかし、私の母から生れたことによって私の存在価値は定義づけられこの母を持つことが私には必要であり、ふさわしかったのです。「妊娠なんかさせられて」と言われて、自分を恥じた頃、評論家の桐島洋子さんは結婚しないで子を産み、未婚の母として強い生き方をなさったのです。同じ年代でありながら、どうしてあのような強さを持ち得たのかと、思っています。

今、小学校四年の娘は、胸のふくらみ出した級友達を見て、私のおっぱいどうしてふくらまないのだろうと言っています。

この娘にもやがて初潮が始まるでしょう。その時は赤飯を炊いて、家族みんなで喜んであげようと思います。

自分の意見も、意思も持たなかった母としては、娘がしっかりと自我を持

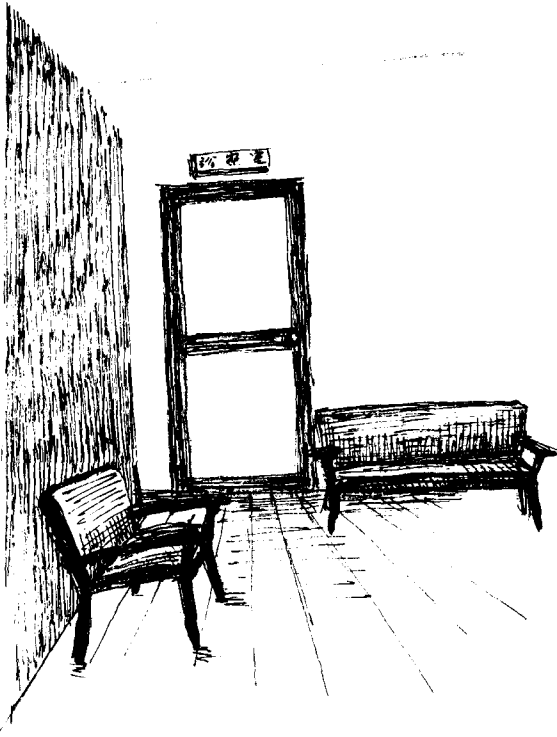
った女性になるよう見守ってゆきたい
と思います。



生れかわるために

由砂文子

(東京都板橋区)



婦人科外来待合室

ドアを開けると、M子がさっと立って、「大丈夫？ どうだった？ それで何だった？」まるでたたみかけるように問いかけてきた。「うん、大丈夫よ、子宮筋腫、切るんだって」「ねえっ、ちょっと腰掛けたら。ずい分長かったけど、そう一時間以上よ」。採血採尿、レントゲン、心電図、自分のだんだん重病人になって行くような気がした。M子の顔を見たとたん急に疲れを感じ、長いすにへたり込んだ。白い壁に、母親学級や、離乳食講習会、ガンの検診のお知らせ、粉ミルクやベビー用品のポスターが無造作に貼りつけてある。たった今、聞いたばかりの医者の声がまるでテープレコーダーの声のように語りかけてくる。

あなたの場合、子宮ごとそっくり取らないといけないですね。今は、鳩の

卵くらいの大きさなんです。まあ、

今日、明日どうということではありませんが一日でも早い方がいいでしょう。

お子さんお産みになる予定もないのなら、まあ変な言い方かも知れないけど、

どちらでもいいんじゃないですか、手術したってSEXには何の変りもあり

りませんしね、避妊の手法ははぶけるし、第一子宮ガンには絶対ならない。

それにこのままはっとく訳にはいかな

いでしょ、出血が続くとその分身体が弱ってくる。判りますね。御主人

とよく話し合つて。いいですね、まだ若いんだからすぐ元氣になりますよ。

「ねえ、気分でも悪いの？」

M子がいちわる口調で言った。

私は声も出さず小さくかぶりを振った。

「つわりですか？」

前の椅子に親子らしい二人連れがかけていたが母親と見える中年の婦人が遠慮がちに声をかけてきた。

「ええ、まあ」M子が曖昧に答えた。

「この人もやっとこの頃になつておち

ついてきましたね」

若い妊婦がほえんだ時救急車の音が聞こえた。廊下を行き交う足音にま

じつて、第一分娩室……と誰かが叫ぶように言った。

やがて静けさを取り戻すと、インターホンが呼んだ。

「次の方どうぞ」

若い妊婦はゆっくりと立ち上がると会釈して診察室に入つて行つた。

うすいピンクのマタニティドレスの衿や袖口がレースやフリルで飾られ

つき出たお腹をかかえた白い指にピンクのマニキュアが愛らしかった。まだ

幼い面影を全身に残しているように見えた。

「ねえ、帰ろう」

M子は一人言のように言った。

私はうなずくと立ち上つた。

「どうぞお大事に」

「お先に失礼します。どうぞ元氣な赤ちゃんお産みになりますように」

M子と中年の婦人はいいいな挨拶

を交していた。

待合室を出るとさっきの救急車が赤いランプを点滅させたまま止っていた。

「急に産気付いたのかもね」

「そうかもね」

若い看護婦が奥の方へ走って行く後姿がちらつと眼に映つた。

突然の宣言

病院から歩いて五、六分で商店街に出る。工場のブロックベイからはみ出すように咲いているきょうちくとうの

赤い花が血の色に見えて、悲しかった。真夏を思わせる陽の光に日傘が作るう

すい影の中を私とM子は黙って歩いた。もう一週間もすれば梅雨に入るであら

う月曜日の午後であった。

今、病院の玄関前に止っていた救急車がゆっくりと私達を追い越し、交差点を曲つて視界から消えた。

二人が交差点についた時、横断歩道の青信号が点滅していてすぐ赤信号に

特集投稿

なった。

「冷めたい物でもどう」

小さな声で言った。

「そうね」

私も短かく答えた。

鉛を飲み込んだような心はどうにもならなかった。こんなはずじゃあなかったんだ。

昨日M子に自分の身体の異常を話した時だって、ほんの軽い気持だった。

「どうってことない」のが前提だった。
「ねえ、聞いて、少し変なのよ、あれね、一週間も早く来ちゃってね、量も何だか多い感じがするのよ、終わったと思ったらまだでしょう？ 嫌になっちゃうわ、今思うとね先月も長かったよ
うな気がするのよ」

「あーそれでー、機嫌が悪い」
左の親指をピンと立てるとM子はクスッと笑った。

「イヤネー」。

「長年女やってるんだし、調子が狂う事だあってあると思う」

けど、気になるんだったら病院に行ったら、どうってことないと思うけどね」

「でもねー」

「デモも、ストライキもないでしょ、病院で何でもないって言ってもらえば気が楽になるんだから、そうでしょう。そうだ、明日、明日行こう」

「他人事だと思ってー明日行くのー、あれが一寸狂ったくらいで？」

「何言ってるのよ、そういうことのために婦人科があって医者がいるんですよ」

「そうなんだけどね」

「明日お昼前に迎えに来るから、大丈夫、一諸に行つてあげるからね」

医者はこういうはずであった。

「別に異常はありませんよ、気にすることは何もありません。二、三日、ゆっくりするといいですね」

それが、何ということになったのだ。

「どうかしたの？ 行こう」

M子の声を耳の近くで聞いた。

歩行者の信号が青に変わっていた。

娘を産む時も、乳児の健康診断、子宮ガンの検診と幾度もこの病院を訪れた。受付の奥の方に分娩室、検査室などが並び、その奥を左に行けば産科病棟、右に行けば婦人科病棟、売店や自動販売機の場所も知っている。が、その病院にこんなことで入院しなければならぬとは、まったく青天のへきれきというはかはなかった。

M子は何も言わないが私を見る眼は、やさしさと同情に溢れていた。

手術を受けよう

病院で筋腫による子宮摘出手術の宣告を受けてから、手術までの二カ月以上の日々をどんな思いで暮らしていたとか。

出血量は多かったり少なかったりであつたが断続的に続いていた。

入院する二週間くらい前から出血量もぐっと増し、それがずっと続き、身体中の血液が全部流れ出してしまふよ

うな錯覚に陥っていた。

むし暑さからくる不眠、食欲不振、
が加わり貧血状態となり、時折眩暈の
発作におそわれた。自分の内に一触即
発の爆弾を抱え込んでいる感じで、ど
うしてもしなくてはならない家事以外
寝たり起きたりの有様だった。

それでも家の中では、自分の病気の
こと、手術をしなければならぬこと
など、いっさい言わずに通した。友人
のM子が時々様子を見に来てくれたり
夕食のおかずなど作って持って来てく
れたりして、それとなく世話をしてく
れていたが何も言わなかった。一度さ
も不満そうに言ったことがあった。

「ねえーまだ何も言っていないの？ ど
うしてなの？ 少しは心配させてやれ
ばいいのにー」

「あの人はね、女房が病気になるなん
て信じてないのよ、今までだって具合
が悪い時があったわよ、でもね、どう
したの、大丈夫？ なんてやさしい問
いかけをしてくれたことなんて一度も

なかった。

何もしたくないから寝てるんだらう
とか、仮病つかってるんだらうとかね、
それから何も言わないことにしたの。
もしも私が死んでいたら『おいめし
にしてくれっ』なんてゆり起す人なの
よ」

「そんなー」

「いいのよ、毎日一緒にいてね、女房
がどんなことになってるか、知らぬは
何とかばかりなり、って楽しいじゃな
い？」

顔は笑っていたが心は地獄を感じて
いた。夫や息子の不機嫌さもさること
ながら、幼い娘が哀れであった。夏休
みをどんなに楽しみにしているか知れ
ない。

日増に強くなる倦怠感、自分の身体
に対する嫌悪感をどうすることもでき
なくなっていた。一日も早く何とかし
なければ、こんな状態を何時まで続け
ていることは不可能である。

今は自分の身体のことだけを考えよ。

それが自分のためであり、子供達のた
めになる。手術の不安におびえている
時ではない。

「まだ若い、じきに元気になりますよ」

医者言葉の言葉を信じよう。

私は決心した。

手術を受けよう。

乳房を半分切り取った中年婦人。

小さな命を保育器にゆだねた若い母

親。

子宮ガン患者のうめき声。

女性だけがなめなくてはならない苦
さが充満した婦人科病棟は、あの日の
ように暮れ、あの日のように朝を迎え
ているに違いない。

同室の患者が後になって言った。

「ずい分長くかかりましたよ。手術時
間、今までで一番長かったみたいです
ね」

入院〓七月三十一日(日)・午前十一時
手術日〓八月一日(月)・午後二時開始

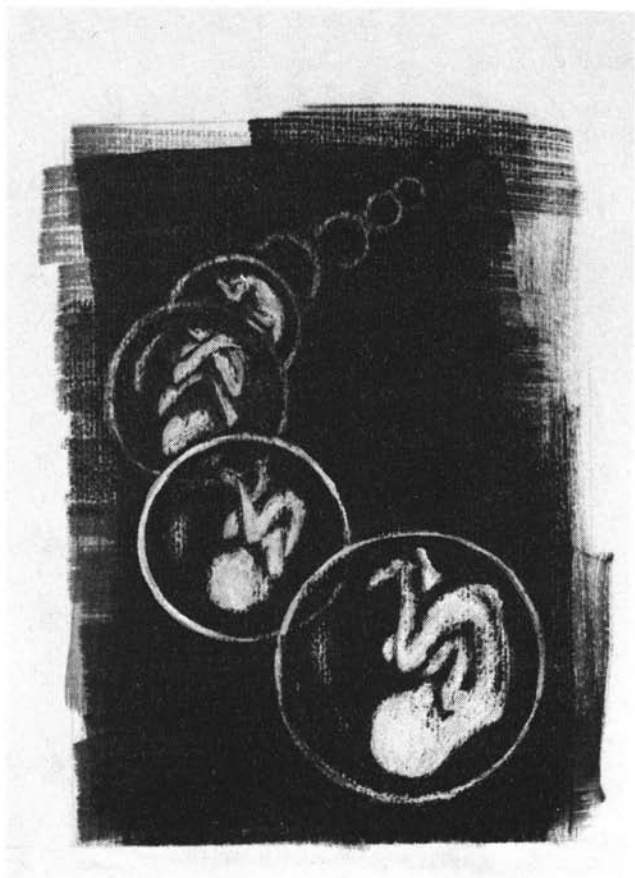
予定

退院〓八月十五日

悪夢の十七年間

遠藤光子

(千葉県市原市)



はじめての中絶

私は多産系の母に似て子宮が良く、夫との結婚生活では随分苦労しました。昭和初期から第二次大戦終結までは生めよふやせよと国家が奨励してたので、母は二年か一年置きに十二人生んでしまった。昭和二十年急に産児制限の時代になり映画を上映して広められた。

私は訳あって上京したくて、結婚という形で主人二十三歳、私二十歳の若さで、空襲で亡くなった主人の母親代りに、主人の父弟妹達の許へ嫁ぎました。翌年一月二十七日女兒出産。今まで暗かった家の中も明るくなり、母乳ですくすくと育ちましたが、五ヶ月頃から乳児の便が緑便に変わりました。若い私は気にもかけないでいること一週間、乳児はますます悪くなり乳を吐いてしまうまでになってしまい、近くの医院からも「大きな病院に行きなさい」と言われ、主人が勤めてる会社の

病院に行きました。

小児科の先生が「お母さん妊娠してますね。妊娠した母乳を飲ませてますと赤ちゃんは消化不良にかかってしまうのです。生まれてる赤ちゃんを死なすかお腹の赤ちゃんを死なすか、どちらかにして下さい。生まれた赤ちゃんを助けるにはお腹の児を中絶するよりほかないのです」といわれ、私の今の立場は母親の役割りをしているので先生が言われる通り中絶することにしました。

あの頃は優生保護法に基づく中絶同意書という用紙があり、かたちばかりの家庭の事情を書いて主人と私の名前を書き、別々の印を押して産婦人科の受付に出して処置して頂くという決まりでした。世帯主である義父には相談せずにことを運んでしまったのです。あの頃は大事を取って前の日に入院し、翌朝食事無し番茶を少し飲み、ハダ着下着全部ぬがされ手術着をきせられ手術台に乗せられてから全身麻酔を背骨

にしました。今考えますと大分大かりでした。始めての中絶で恐れと不安と恥ずかしさで一杯でした。我が子を殺す罪の心は無かったと思います。

白い帽子をかぶり白い手術服の先生がゴム手袋をハメ「ひとつふたひとつ」と数をかぞえなさいと言われ、四つめ頃から意識がもうろうとしてしまい、遠くの方でカチカチとハサミの音がしました。しばらくして看護婦さんが「もう済みましたよ」と言って優しく私を抱いて病室まで運んでくれました。この時が一番人の親切が有り難かったと思います。済んだ後もお腹がキリキリと痛み、生きるべき命を絶てしまったのですものこの痛みに甘んじようと思いました。二日後家へ帰りました。義父は私をすぐく叱りつけました。私は叱りつけた義父の心がよくわかりました。

三年後家庭の事情で主人と私子供は別れて暮らすことになりました。主人は家族寮が空くまで独身寮に入り、私

は、福島の実家へ子供と共に世話になること丸二年の間、主人は子供に逢いたいのと私の体を求める為に土曜に来て日曜に東京に帰るという生活で、若い愛情がほとばしるまま肉体の結合もより一層強いものでしたから妊娠してしまいました。もう二回目でしたのでT字帯をつくり脱脂綿を揃え、おろおろする母を尻目にさっさと医院に行つて処置しました。実家なのでゆっくり寝ましたが、母が心配そうに二階へ上つて来て「近所の若い奥さん達の間にも中絶が流行して中絶した為に失敗して死んでしまう例があるからもうこれで中絶はやめなさい」と言われま

子宮が良すぎる

その後家族寮が空いたとのことで主人が迎えに来て杉並区高円寺北の会社寮に落着いた。その寮は九軒長屋で一と聞きりでした。便所台所洗たく場すべて共同でした。二十四時間中人の目や耳を気に

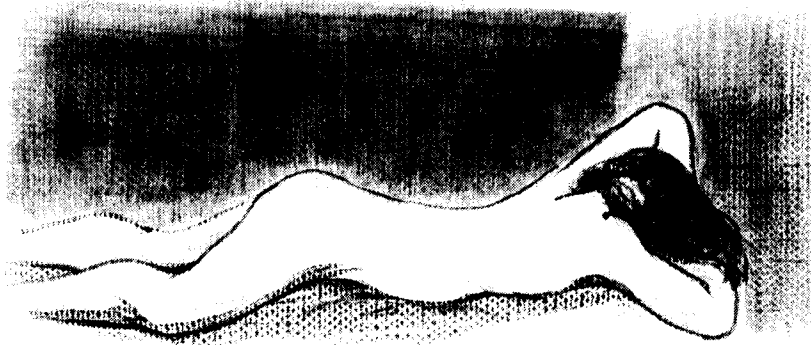
特集投稿

する生活でした。二年ぶりで親子三人水入らずの生活でしたから当然妊娠しました。主人は「長女もお前の手が離れたし産みなさい」と言ってくれ、一年後長男誕生。主人は嬉しさの余り、寮の人達全部に聞こえるくらいに「男の子ですよ」と言って、喜んで長男をよく可愛がってくれました。

私の子宮回復は早く、長男が生れて二カ月くらいに主人はもう夜私の体を求めるのでした。私も長女の時の母乳のことなど忘れて男盛りの主人を受け入れてしまうのでした。普通の若妻でしたら授乳中に夫との夫婦生活をして、も妊娠はしないものでしたが、子宮が良すぎる私には通用しません。長男五

カ月頃また妊娠です。

私の体の変調は二カ月にならないうちにわかってしまうのです。すぐ会社の病院に行き長男が小さいからと用紙に書き、主人に子供のお守りを頼み午後中絶する時間に合わ



せて家を出て、高円寺から病院まで行くのに電車やバスで一時間半はかかりました。処置が済み二時間くらい寝て近くで即席の惣ざいを買い、何くわぬ顔で家に帰って夕飯の支度食事と動き、次の日主人を会社へ送り出して近所の人へは「お腹をこわしてしまったので」と言って一日中寝ていても、太陽の光と世間の目が恐かったものでした。

長男一歳半の時朝起きて朝食の仕度も途中で急性盲腸炎にかかり、また会社の病院の世話になってしまい、退院後体に無理をしたのか病気の為か、一週間後に血のおりものがあり、急いで病院に行きましたら「子宮外妊娠です早く病院に来て良かったです。手おくれになると体になくってはならない血まで流れて命を落とす所でした。早くて良かったですね」と言って、先生は優しくして下さいました。私はすっかり妊娠恐怖症になってしまい、自分の子宮が悪魔のように思えて自分の性がいやでたまりませんでした。そして主人

避妊してくれぬ夫

もう会社の病院はどうしても行きた

ぎ、四十五歳ぐらいの先生はとても上手でした。中絶ずれしてしまった私は、先生が上手か下手かすぐわかりました。

なのか、私が着くと主人は「どうした」というように顔を見たが、私は冷たくあしらって無言で床に就き、どうして女だけがこんな苦しみをしなくてはいけないのかと涙がとめどなく流れてしまふのでした。もう今度こそは絶対に体を寄せつけないと思いました。

自然流産を試みる

今のように各家庭に風呂場がなく、

特集投稿

台所へタライに冷水を入れしばらくその中に入っていたり、縄飛びを夜したりお腹を思い切りたたいたりしました。それも共同生活では限りがありました。体は何でもなくいいよツワリがひどくなるばかりでした。

長男も三歳になり、もう一人で外で遊ぶようになったし、産むより仕方がないと思ひ会社の病院へ行き中絶をお願いする時は、下うつむいて細い声で、「中絶をお願いします」と言っていたのですが、先生の顔を正面から見て「産みますからよろしくお願いします」と言いました。

この時代はこの家庭も子供は一人多くて二人の家庭でしたので、私の大きいお腹を見て「三人の子持さんで大変ネ」と言われたものでした。もうお腹の中で手や足を動かしているらしく「ポコンポコン」と音がすると、沢山の兄や姉達の生まれ代りが一人になって生まれて

くるのだからさぞ頭の良い子が生れるであろう、と私は母性本能の心が湧いて来るのでした。昭和三十二年三月十九日お彼岸の日でした。月満ちて女兒出産した私二十八歳でした。

知らせをきいて病室へ入って来た主人は入るなり「何だ女の子か!! 子供産むのはこれで終りだよ」と言って早に立ち去りました。私はこの時はど主人がにくく思われたことはなかった。女一人で子供はつくれるものでなく、みな男が性欲を満たす為に女は受け身になりながら、人間ですもの男性と同等に結合の喜びを分かち合ったばかりに妊娠・中絶・出産とくり返さなくてはいけない、私はくやし涙を流していたら主人の妹が来てくれ、話したら「お姉さんこの子が一番親孝行してくれるかもよ。大事に育てたら」と言ってくれました。

上の子二人と違って利口で可愛いくて家中の者より可愛がられてすくすくと育ちました。この二年間が一番幸福

であったかも知れない。

もう責任は持てません

やがて主人に転勤の命令があり温暖の地静岡へ皆で赴任しました。地方での宿舎暮らしはきびしいものでした。地方都市特有のよそ者を批判する心、地元の宿舎の人達と仲好くして居れば何とないのですが、ひと度何かが生じますと工場での主人の仕事にも悪影響を及ぼすのでした。「誰かさんの奥さんが妊娠中絶をしたんだと」と三百世帯に知れ渡ってしまうのでした。

主人と一緒に始めて赴任してらしたAさんの奥さんは高齢妊娠され、二人子持ちで産む状態でなく心配の余り神経衰弱になり、昼と言わず夜と言わず高い声でわめき散らして宿舎の人達に笑われました。私は人事でなくとても笑えなく、次は私にもこの日が……?と心配でたまりませんでした。

仕事を終って工場から山の中程にあ

る宿舍へ帰ってもテレビだけの楽しみ
しかなく、結局夫婦慰め合って体の結
合しかありませんでした。

遂にそれが私にも来たのです。次女
が三歳の時でした。私もう三十一歳で
す。次女を生んだ時主人から「もうこ
れで終り」と言われてますし、毎日家
に閉じこもって考えました。「誰か赤
ちゃんを育てて下さい。よい子を産み
ますから」と新聞広告に出そうとまで
思いつめました。

一日おくれるとお腹の胎児が大き
くなってしまふ、早く病院へと近所の宿
舎の奥さん達に見つからぬように、静
岡市内の名の通った病院に行きました。
産婦人科外来控室には中絶すると思わ
れる若い婦人が数人居りまして、私は
最年長かなと思いました。

順番が来て診察、先生「妊娠二カ月
ですお産みになりますか」か細い声で
私「中絶をお願いします」先生静かに
「今までに何回中絶しました」私二回
へらして「五回です」先生の顔が陰し

く私の顔を正面から見ても「遠藤さん五
回もしてまた中絶すると危険です。術
後の安全は保証できません」私は泣き
たくなり心の中で先生がおっしゃるま
でもなくよく心得てます。ですが「子
供が三人います。もう産めません。よ
ろしくお願いします」と頭を下げて居
りました。

そして中絶する日主人に会社を休ん
で頂き人目をさけて病院へ。地方の病
院は簡単なものでした。私服で下パキ
を取るくらいで、この頃は局部マスイ
でした。腕に注射をし何人もの女性が
乗せられたであろう血の跡がある台に
乗り、私はよい年をしてこんなことを、
と身も心もこちこちと、そして子供達
三人の名を呼び、最後の方は「ゴメン
ネ、ゴメンネ」と流された胎児達にわ
びていたのでした。幸い宿舎の人達に
は知られずに済みました。

赴任五年後に都内の宿舎に越しまし
た。丁度玄関が向かい合った人は十年
前に或る宿舎で一一緒に暮らし、子供も

わいふバックナンバー

* 159 同居か別居か

* 165 夫の貞操

* 166 なぜ女ばかりが家事をする

167 主婦の近所づきあい

168 悪妻

169 母親が働きたるとき子育ては？

170 変貌する夫たち

171 ただの女の防衛論議

172 夫の成功は妻次第？

173 女とお金

誌代は167号まで三五〇円・168号～171号
四五〇円。送料は一冊二〇〇円・二冊
二五〇円・三冊～五冊三〇〇円・六冊
～九まで三五〇円です。*印の残部は
僅少です。ご注文は編集部へお電話で
どうぞ。(03) 二六〇・四七七

特集投稿

同じくらいでしたので親しくしてた友人でした。日を過ぎる毎に仲好しになり、奥さんの叔父はお医者さんとのことでショッキングな打ち合け話に、妊娠初期二カ月くらいまでの時に生イカを酢漬けにして一と晩置きそれを食べると胎児はきれいに流れてしまうとのことです。試してみたかったのですが四十五歳くらいに月経はもうきれいに上がってしまっていました。

そして主人も四十歳後半に「俺はもう子種が無くなってしまった。これから何回夫婦生活しても妊娠はしない。若しお前が妊娠したらそれはお前が浮気をしたことになる」と言われて、私は「ああこれで安心した。もうあの苦しみをしなくても良いなんて嬉しい。何で浮気などしませんでしたか」と言いました。

二十一歳より三十八歳まで若くて面白いことがある時代なのに、私は胎児殺しに明け暮れていました。悪夢の十七

年間でした。

娘たちに責められて

私の体は更年期の頃は主人の義父を三年間看病中でしたので丈夫で助かりました。今も元気です。地方に住んでる長女が子供の春休みで里帰りした時、「お母さんが中絶をしたからその水子の霊が子供の私達についてわざわいをしてる」と言うのです。実際娘の所では悪いことが続きました。でも義父が生前に信心してたお寺に水子供養塔が建立され、義父も私の為に供養してくれたとの話をきいておりました。娘からこんな風に言われるのは意外でした。

長男が結婚したその年に、次女が或る男性と共に来年どうしても結婚したい、と申します。主人と私は経済的に無理だし少しのばして欲しい、と言ったら「もう妊娠してるから急いでる、許してくれない時は二人でかけ落ちしても一緒にいる」と固い決心でした。

私は大切に育てた娘がこんなふしだらな娘になってしまったと悲しみ、どうしても許したくなく、まだ年が二十三歳若いのだから中絶をさして二年待つように、と言ってしまうました。でも明くる年二人の愛に負けて泣く泣く式を挙げました。

その年月満ちて女子出産した。可愛い子でした。彼の両親は二人共教師でした。同居で仲好く暮らして居ります。

次女は妊娠中絶大反対でした。私と同じように「子宮がとても良い。何千人に一人」と婚家の親戚である産婦人科の医師にはめられたくらいです。私は悲しみます。次女も私と同じ道をたどって行くことを。孫が満一歳を過ぎました。もうそろそろ「お母さん妊娠してしまった」と言ってくるでしょう。その時私は今までのことを次女に告白しようと思う。こんなことを二度とくり返させない為にも……。そして早く水子地藏尊にお参りします。

(え・早乙女光子)

座談会

女の性を愉しむ

●出席者

板根 百合 昭和26年生

田河 純子 昭和23年生

瀬木 明子 昭和20年生

佐々木初枝 昭和4年生

渡辺 寿子 昭和8年生

●司会

編集部 田中喜美子

司会 今回の特集は、いわば女のキタ・セクスアリスなんですけど、舞いこんできた投稿がどれもこれもほんとに憂鬱な話ばかりなんですよね。女は性の被害者、ただ受身に「生まされる」一方、中絶も避妊も受身一方。

編集部一同、まったく暗然としちゃって、いまだに女の性とはこんなものなのか。いや、若い世代にはもっと積極的に性を自律的にとらえ、愉しんでいる人たちがいるんじゃないか、年長の世代だって、人によってはもっと明るい性生活を送った人もいるんじゃないか、ということ、この座談会を企画したわけです。

今日御出席の方は、そんなわけで、自律的、自覚的に性生活を送った、という自信(?)のある方ばかりですから、どうか思う存分、ホンネで語っていただきたい。ただし匿名ですから、お話の内容はどれが誰、ということは一切口にしないようにしましょう。編集部にも口の軽いひとがいますから(笑)。

談閑夜秋

男女席を同じうせず

の青春

佐々木　まず私の、少女時代の、皆さんが聞いて驚くような話からしましょうか。

女学校に行ってた。その学校は山の途中にあり、山のてっぺんの方に中学校（男子校）があった。ところが私はそんなところに中学校があるってことつい最近まで知らなかったのよ。なぜかというと、通る路をべつべつにされていたわけ。学校が双方話し合って、通学路を分けてしまっていた。私達は一直線に上へ上がったんだけど、男の子達はずーっと迂回して上がらなきゃならなかったの。（笑）彼らは私達のことを知っていてね、一緒の道を通りたい、近道もしたいと思ってたんだけど、それをやれば停学か退学になっちゃうから（笑）できないわけよ。でいまだにその同窓会では残念だったなあという話が出るそうよ。ところが私達

のほうはそんな連中のいること知りもしない、声も聞こえなかったし。（笑）戦争中に勤労働員されて、工場に行ったときは男の学生がいた。一緒に働いていたのよね。しかしそれとは口を利いてはいけないうちになつていった。（笑）

私の学校はわりと寛容だったけど、

男子のほうはいわゆる名門校でうるさい。それが電車の中で、うちの生徒としゃべったというのでまず男の子が捕まり、正式に申入れが来たのでこっちも処分しないわけにいかなくて、一週間の停学になった友達がいた。（笑）

いつわかったか

性の真相

佐々木　そういう時代だから、性に関しては全くの無知で、私はその頃、学校の図書館で、大宅壮一訳の千夜一夜物語を読みふけていたけれども、どうしてもそれが分からなかった、もっとも伏字といって、エロティックなと

ころは全部×××××となっていた。
〔笑〕それでも夢中になって読んでも
んよ。

ところがある日、登校してみると教
室中大騒ぎで、皆の机の中からいやら
しい絵が出て来たという。あわてて自
分の机を開けたら、もう、そのものズ
バリの春画——手描きの、すごく上手
な絵……が入っていて、アッと驚いた
んだけど、とたんにわかつたのよ。千夜
一夜が——。〔笑〕それは今でいえば
中学の二年生ですよ、十四歳……。
そんな程度の体験でした。お若い方
はまったく違うでしょう。

渡辺 皆さん性行為ということをし、は
っきり知ったのはいくつくらい？

板根 私は十一のとき母に聞いた。

瀬木 私は中一か中二だったわね。私
のところは田舎だったから、友達は何
キスをするかと妊娠すると思っていた。

〔笑〕ところがたまたま、親戚が医
者さんだつて子がいて、それが九人く
らい集まってバレーボールの練習して

たときに、こういうことなのよ、と教
えてくれたのね。もう皆はじめて聞い
てびっくりしちゃって……。皆青ざめ
ちゃった。

佐々木 だけどあの机の中の春画は誰
が書いたんだろう。

田河 クラス中の数を手描きでやつた
んだからすごい執念ね。

佐々木 さわいであるところへ若い独身
のお裁縫の先生が来た。先生大変です
と皆でその絵を差し出したら先生はま
っ赤になって〔笑〕全部胸に抱えて職
員室へ持ってってしまつたけど、その
後どうなったかは知らない。われわれ
の間では、とてもいやらしい理科の先
生がいたので、その人のしわざという
ことになつたのだ。〔笑〕最近学校へ
行つて先生方にその話をしたら大笑い、
例の理科の先生はもう死んでいて、弁
解するチャンスを失つた、つて〔笑〕。
でもあれ非常にいい性教育じゃなかつ
たかしら。その前に本をたくさん読ん
でたのが、その絵であざやかに理解さ

れて……。両方必要だと思うけど。
板根 いきなり絵を見てもわかんない。
うちの母もお話を付けて、春画を見せ
て教えてくれた。

性との幸運な出会い

不運な出会い

瀬木 私は性行為を知る前に、中学の
とき通学途中で、男性が、要するにマ
スターベーションしてるペニスをばつ
と見せられたの。エレクトした状態の
を見たのはそれが初めて……。今でも
覚えているけど二〇センチくらいに見
えた。〔笑〕こーんなに大きく。

板根 それじゃ三〇センチくらいじゃ
ない？〔笑〕

瀬木 いきなり目の前に出されたので
それを見たときに私の男性の体——ペ
ニス——に対する感じが、汚いものと
して固定してしまつたのね。強制され
た形で見せられて、とてもきれいには
見えなかったから。

板根 それはショックだと思うよ。

瀬木 ショックだった。ずーっとショックで、最近までペニスが汚く思われた。あのイメージがはびこって……。

司会 不運だったわね。

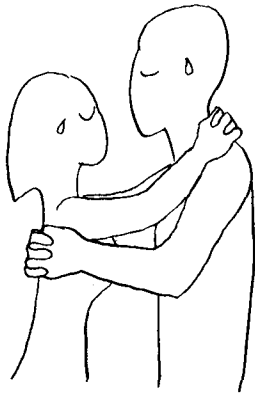
田河 私たちも知った年としてはあまり変らないですね。中学三年のときに男と女がこういうふうにするんだと言いついた子がいて、女の子達がエー、ホント、ホント？ というんでパニックに陥ったことがありました。

佐々木 言い出した子、女の子？

田河 女の子です。だから年代としては変らない。でも雰囲気としてはストリップの写真なんか見えていますけどね。私の場合には六年生のとき、兄が入れるんだということを説明したのね。それで分かった。ああ、合体するらしいというところまではね。でもそれが大きくなくて固くなるというところまでは知らないわけ。中学一年で、ちょうど婦人雑誌が衝撃の附録を付けはじめ、それを読んで分かったわけ。でも中には知らない子もいて、中学の三年で話

聞いてエー、ホント、ホント？と騒いだりしたわけ。

板根 私は六年生のときに、高校生のいとことキスしてたのバレちゃったのね。それで母があわてて、生理もないのにそんなことになっちゃ大変だということ、生理のこと教えてくれてね。医学全書を持ってきた、声を出して読みなさいというのね。子宮というのが読めなくて、コミヤと読んだ。(笑)



で、中学は電車を通っていたんだけど、やっぱり痴漢がいるのね。さっきの話みたいにマスターベーションして精液をカバンにくっ付けたりするの。それで家へ帰って母にそう言ったら、こういうことなのよって教えてくれた。一同 お母さん、ずいぶんえらいわねえー。

板根 それから学校でハッキリ教えられた。高校一年のとき。聖路加の先生を呼んで話聞かせて、それから映画見せた。「性の神秘」っていうの。私知ってるからつまんないから寝てた。

佐々木 あなたの場合親がえらいわ。

板根 生理のときもちっともこわくなかった。汚いもんじゃないとちゃんと教えられていたしね。

渡辺 いとことキスしてたときに教えられたって、それは、そういうことしちゃいけないとか、気をつけないさとか言われたの？

板根 いやちっともそうじゃなかった。

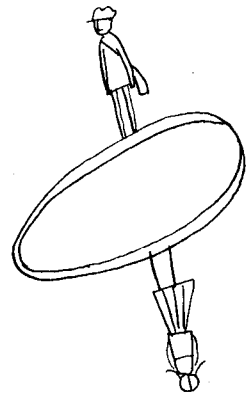
佐々木 おたくのお母さんで、どういう人なのかしらね。

板根 結婚前にはたくさんボーイ・フレンドがいたんですって。

田河 貞淑なる母親だと娘は余計な苦勞をするわけよ。私なんか結婚前にお腹が大きくなっちゃいけないということは、五年生から言われたわけ。(笑)そこで何をすれば大きくなるんですかと聞いたけれども、夜暗い道を歩いちやいけないとか何とか、ぜんぜん要領を得ない。(笑)

私たちの年代は母親がだいたいひどいのね。生理の手当だって古いゴムみたいな生理帯に脱脂綿というやり方でプリシラなんて出てくると新しいものの好きの祖母さんは買ってくれる。うちのはきらいで買ってくれない、高いからと言って……。

ドクトル・チエコという人がいたでしょう、キノ・トールの奥さん。中一コースなんて雑誌の附録に彼女が書いていて、「健康なしるしです、しあわせなものです」というふうに、父親や母親が教え込む、陰湿なイメージを一生懸命ふり払うために孤軍奮闘してたって感じ。



板根 あの人は私達の年代にはとても影響のある人よね。

司会 性に関してどんなイメージを身近な人から植えつけられるかで、性生活の方向がきまるような気がするわね。
瀬木 性交の何たるかを知ったのは大学一年。(笑) それまではね、中学の

ときそういう行為があることは知っていたけど、とくにいやらしい人だけがするのかと思ってた。(笑) 好きな人とはしないものだ。(笑) プラトニックスよ。性交は汚いものという考えでした。でも中学一年くらいからマスターベーションを覚えたのね。それはもちろん親にかくれてするんだけど、だから性欲というものは自然に知ってたの

ね。それなのに性行為とは結び付かなかった。

渡辺 私の友達でもいたわよ。性交は何かおかしい人間がやるもので、マトモな人はしないんだと思ってる人。(笑) 拒否反応が強くて、知らせられていながら潜在意識でそれを無視しようと思うのね。

瀬木 性と出会うときどんな出会い方をするか、不幸な出会い方をすると後に残るわね。

佐々木 親の影響、親がどういう態度を取ってるかが、かなり効くんじやないのかな。

田河 親が色っぽくないんですよね、うちなんか。私が物心付いてから両親は一度も関係してないんじゃないかと思う。

佐々木 うそばかり。(笑)

田河 ほんとなの。そういう感じがするわけ。ぜんぜんしてる様子がないしね。私気管支炎でしょっちゅう目が覚めるのよね、ずーっと高校までそうだ

ったのに、その間一度も怪しげな気配がなかった。(笑)

佐々木 そりゃあうまくやってるのよ。うちだって大学生の娘が、「絶対見てやる」(笑) なんていうけど、一ぺんだって見付かりゃしない。(笑) こっちはちゃんと分かっているのよ、娘がいつぐっすり寝るか。(笑) あなたもだまされているのよ。

田河 よく両親が寝てる部屋のふすまが開いていて……。

佐々木 うちの子もそういうが(笑) こっちはちゃんとして子供が寝るのを見計らっているんだから。(笑)

田河 もう少し注意すべきだったか。

女にもレッキとして

ある性欲

田河 私一年だけ女子高校にいたんですが、女子だけというのは男に対してただ性だけの興味を持ってしまうようなところがありますね。共学だと男子を自分の同類というか、人間として見

られるんだけど、女子ばかりのときは非常に陰微な、性という部分だけで相手を考えてしまう。私は自分に性欲があること、やりたいというような感じを自覚してましたが、それを健康に育てるには、やはり共学でないとだめだと思いましたね。

渡辺 私は女子校で、しかも宗教教育のしつけの厳しいところだったのね。まったく田河さんのいうとおりで、中学三年のころは毎日々々セックスのことにきいて話していたの、三年くらいおきにそれが分かった、誰かが言い出しでクラス中にまんえんしたのよね。人



間も動物と同じで交尾するらしい、交尾だ交尾だって、(笑) するとその言葉は違わんじやないかというのもいたりしてね、興味津々なわけよ。

板根 その年頃なら正常なことよね。

渡辺 正常よ。それから性欲はあったわね、たしかに。何かそれらしき話を聞くと、パッと下の方へ引かれるような気がするの。皆いつてた、そういう話を聞くとあすこのところがゾッとするような感じがするって。友達で下のほうにズーンと引かれるような感じがするって言ったのもいた。あれはやっぱり性欲よ。だけどね、女ばかりで男を知らないでしょ、だからへんに興味が局所にだけ集中していくようなのよね。人間対人間という関係じゃないのよ。男もそれはあるでしょうね、男子校だと……。

瀬木 私は中学のときマスターベーションなんか覚えたから、夢の中でね、これはいやらしいことだと思いつながら何となくそれを想像してるわけ。具体

的な男の輪郭的なものは何もないのよ
ね。でも誰かと……というのがあるの。

渡辺 私ね、今思うとあれサカリがつ
いていたんだと思うけどね、(笑) ま
ったくそんな感じ。高校二年の時病氣
になって長期入院したのね。隣の部屋
に男の学生が入っていた。私は十七歳
隣の学生は二十一。そこへ男の友達が
遊びに来てガヤガヤしゃべっている、
その声が何ともいえずなつかしいの。
(笑) 魅かれる感じで、体の中でむら
むらとするものがあるの、その男の声
で。あれはサカリのついた雌でしょ
うね。(笑)

佐々木 あなたは聴覚型だな。私は視
覚型だ。

刺激への個人差は

田河 もっと前に、小学校二、三年の
ころ、漫画とか映画などで人が縛られ
ているのを見ると、赤銅鈴之助が縛ら
れているのなんか見ると、ゾクゾクと
いう感じがしたのね。

板根 それ、あるね。

田河 中山千夏が書いてるのは、三蔵
法師が縛られて、お尻をむき出しにさ
れているのを見て、妙な感じを味わっ
たという……それと同じで人間が自由
を奪われている姿を見ると何か感じる。
あとで考えるとあれがはじまり……。

渡辺 今どう？ 縛られてるの見て。

田河 今でも少しあるけど、比べ物に
ならないほど薄くなってる。

瀬木 私は視覚がすごいね。ポルノ
映画見るとワックとオーガズム感じる。

渡辺 私はポルノ見ても感じない、ど
うも自分の中にマゾヒズムがあるんじ
やないかと思う。私は男が縛られて
るのは感じなくて、女がいじめられて
いると感じる。やっぱり本能的なものだ
と思うわね。

田河 私は男がいじめられているんじ
やない、感じない。

板根 私はストレスがたまるといじめ
られたい。ゆつたりしたときはいじめ
てやりたい。

渡辺 はあー。(笑) 三島由紀夫の劇

でね、縛^{いまし}められた筋骨りゅうりゅうの
男が、腰元に寄ってたかって刺し殺さ
れる場面があるの。ああいうの見ても
まったく感じない、ただイヤなだけ。
だから型があるんでしょね。女だから
マゾがいいってものじゃないらしいわ
ね。

佐々木 マスターベーションの体験は
どう？

田河 ありますね、中学生くらいから。
板根 私も中一くらいからかな。

佐々木 あれがない人ってだめなんだ
ってね。感じないんだって。

渡辺 私は五歳のときから始めた。
佐々木 私も小さいときからある。

瀬木 私はあのオーガズムと、セック
スのオーガズムと、同じだってこと分
からなかったの。

佐々木 そりゃ小さいときは分から
ないわね。

渡辺 私ね、何にも分からなかったけ
ど小さいときマスターベーションして

て……手でやるんじゃないくて、足をこ
う、きゅっきゅっとやるの。それで本
を読んだと、その本の内容が火花が
散ったように美しくなるの。すばらし
い虹を見るような感じ。それが味わい
たくて本を読むときやってたの。

板根 やり方は私も渡辺さんと同じだ
ね。私は男と寝るときは目を開いてて
平気なんだけど、マスターベーション
のときは目をつぶってないとダメなの。
それである時座敷で目をつぶってやっ
てて、ふと見たら母が立ってた。入っ
て来たの分からなかったわけ。双方ギ
ャッ。(笑)

佐々木 今の思春期の子のお母さんて
何歳くらいかしら。四十代？ そのへ
んの人、何だかだめみたいじゃない？
渡辺 だめかどうか分からないわよ、
ここにいないんだから。

佐々木 でも今の中・高生で母親から
ちゃんと教えてもらってたって子、あま
りないみたいじゃない？ というの
は母親が経験が乏しいということだし

よう。

瀬木 男の子のマスターベーション見
て驚いたとか、母子相姦とか……。

板根 男の子のペニスが大きくなって
きて、大人っぽくなってくるのが耐え
られないとか、そういうお母さんとい
るのよね。

司会 一体に性に関して罪悪感を持っ
ている人が多すぎるんじゃないかしら。
性欲は恥ずべきことと思いきんでき
て……ここにいる人、べつに特別な人
間でなくて、ただ社会通念に捉われて



いない人ばかりでしょ。性ばかりで
なく、どんなことでも捉われない、自
由な目でもって見ることを、男ばかりで
なく女の性欲もたじろがないで見つめ
ていかないと、自分の子どもの性生活
も歪んだものになってしまう。

初体験さまでま

板根 私の初体験、十六のときのね。
あれ強姦なんだろうね。パーティへ行
って酔っ払って、大学生、慶応の子
だけどサ、連れ込まれてやられちゃっ
たのね。帰って母に話したら、母が怒
って、最初はきちんとやってもらうち
んだ、酔っ払ってなんてだめだ。あし
たシラフでやってもらって来い、(笑)
というのでいいに行ったわけよ、私。
(笑) ママがちゃんとやってもらえ
て言ってるって行ったら、やり直して
くれたよ、その子。

佐々木 それは絶対やるわよ。

板根 うちの母はその子が逃げちゃっ
て、私がかかり傷ついて帰ってくる

思ってたらしい。ちゃんとやってくれたと言ったら、ああよかったね。(笑)これからつき合う、つき合わないは以前の勝手だからって。

渡辺 すごくお母さんね。そのとき避妊のことは言わなかった？

板根 言ったけど、オギノ式しか教えてなかった。学校でクラブやってたし、そんなに頻繁にやるとは思ってなかったらしい。で、十八のとき妊娠しちゃったのね。誰なの？って母が聞くので分かりません……ほんとに分からなかったから。そうしたら今生んでもしょうがないしおろしてらっしゃい、ということで知ってる医者連れて行ってくれたのね。

渡辺 あなたその時、妊娠でこと分かっ
ってなかったの。

板根 やればできるということは知ってたよ。でもやりたい、やりたいで妊娠のことなんか考えなかったんだね。
司会 今の子ども同じだろうなア……。
板根 それからは避妊は徹底的にする

ようになった。でもあのころはあんまり効果的な方法がなくてね。

佐々木 ピルはなしリングも許可されてないから……。

板根 だからオギノ式ってことになっちゃって、その後も一ぺん、通経剤メスコンのお世話になったことがある。

渡辺 何人ぐらいたったの。

板根 分からないねえ。いいと思うとパッとやっちゃうから。私はやってみないと男は分からないと思ってる。

佐々木 それは男側もうわね。女は寝てみないと分からないって。

渡辺 その場合、女は男と違って一度寝ると相手に愛着するっていうけれど、うそでしょう？

板根 そうそう。

渡辺 ちょっと握手したくらいの感じでしょう。

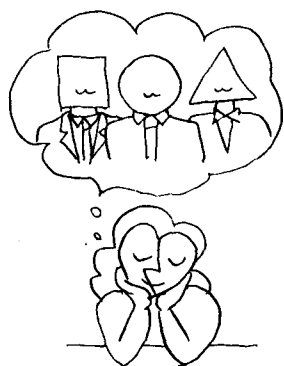
板根 うん、でも一生懸命、一度寝たからって男を追かけてる女の子もいたけどね。あの人と寝たから結婚せねばならぬ、みたいなものもいたけど。

司会 板根さんは要するにフリー・セックスの実践者だけど、一度男と寝ると女はメロメロになってその人を忘れられない、みたいなこといわれているけど、ごく淡白にそういうことの出来る人もいるわけよね。これは全くの個人差だと思うの。処女性とか、愛情とか、先人観なしに性そのものを見つめれば、実は女も男と同じぐらいフリーな人もいるわけですよ。

無知からくる劣等感

田河 私の場合を言いますとね、私はもう少し慎重派で、学生時代いろいろ付き合っている人がいて、だんだん接触が進むにつれてとてもモタないなという感じになってきたのね。だから私は基礎体温計買ってきて四カ月くらいきちっとつけたわけ。整然たる曲線になったんで、で、それによって経験したんです。だからぜんぜん望まない妊娠をしたことはなく、体の歴史としてはしあわせだったのね。

瀬木 私はね、今考えると最初の恋愛の相手が貧しかったから、性として……だから結婚して三十になるまでのそれは非常に暗いわけよ。なぜ貧しかったか、最初にさかのぼるとさっき言ったように少女時代に性に対する忌避感があったということもあるんだけど、その最初の彼っていうのは大学の先輩なのね。そしてすでに学生結婚をしてた人なの。で、ベッティングをしたとき、なんかそれが軟体動物みたいで……（笑）私は例の二十センチくらいあるのを見てから（笑）ペニスに忌避感があったためなの、男のペニスが固くなるってことも分からなくて、ほんとにこう、ぐにやぐにやって感じよね。さわってくれとか言われたってさわりようがない。（笑）はじめてモーターみたいなところへ行ったら、固くなったのを見たけれどこれもまた……（笑）私はどうしてもプラトニックのほうから入りたいのに、彼は順序を飛び越えちゃっていきなりベッティング



……セックスとなったから……で、インサートするけどこっちは緊張してるから入らないわけよ。彼も一生懸命やってみて入らないから、今度はなめるなんて言う。（笑）そんな汚いものなめられない……（笑）で、しまいに彼は私の手を添えて、手でなんとかアレしたんだけど、だから最初の経験がまったくうまく行かなかったの。その上に、じつは私は子供のときからマスターベーションのやり過ぎで、なんか自分の色が黒いんじゃないかとか、変形してるんじゃないかとか、思ってた

のね。そうしたら彼が、君のはなんか垂れ下ってるしひらいている、とか言ったのね。言葉の暴力だと思うんだけど、そのときにすごいショックだった。佐々木 そういうことは良くないわね。瀬木 その後また言われた。今度は亭主にね。ドクトル・チエコさんとこへよっぽど相談に行こうかと思った、性器が異常じゃないかって。

そういうどうも貧しい体験で……もともとは自分の無知があるんだけど、そういう相手の言葉に左右されて、私の二十代は暗いトンネルだったの。現在の彼にめぐりあって、トンネルからぬけられたわけ。

板根 体のことを男がどうたらこうたら言うのは暴力よね。

田河 私もそういう経験ある。入れて何も感じないっていうの。最初の人よ、二十歳のときの。あとの経験でいうと感じないわけがない、並であるというか、伸縮自在でね。でも最初のころは分からないから、操作できないで

しょう。男のほうもただこう、芸もなしという感じで……。 (笑) それだけのことなんだけど、その時は太平洋にゴボウだなんて言うでしょ、やはり悩んだ。だからあのころはもう一つ明るくなりきれなくて、義務でやっていると、儀式みたいな感じで……。夫婦の義理とはまた違うけど。だから別れたときにはすごく自由を感じた。がつくりきてる面とすごくウキウキしてる面とあってね……。

セックスは練習が

佐々木 私の場合皆さんとは年代が違う。そのころは女は婚前交渉なんてぜったいにいけないという時代ですから、男のほうも今と違って慎重でしたよ。うっかりしたことやったら大変だと思わうわけ、まじめな男であればあるほどね。下劣な男ならばヤリタイってただそれだけだろうけれど、あるレベル以上の男ならばだいたい軽卒にやらないわけよ。

板根 赤線もあったしね。

佐々木 そうねえ。でも私の知る限りでは、私の付き合った連中はそんなとこへいく勇気もなく、まじめ一方が多かったと思う。私の亭主は、結婚したとき多分私が処女ではなかったと思っているわ。私にリードされたからね。 (笑) 彼は童貞だった。私より二つ下で、二十六よ。私が二十八でした。でも私は処女だった、厳密な意味においては。 (笑) ただその寸前までの経験があったのよ。何度か……。結局その寸前まで行っただけで、できないことであるのね、男の人って。やっぱりここでヤッたらあとが大変だという、心理的なものが引っかかっちゃうんだわね。その寸前までいくとダメになっちゃう。

田河 社会的な圧力で……？

佐々木 そうなのね。相手が処女であり年も若い。これはやればあとで大変なんじゃないか、相当な覚悟が要るぞと思うから、最後のところでダメなの

よ。で、私はその経験からして、これはリードしないとなかなか男ってものはできないもんだな、という感じがあって、 (笑) 結婚したら何とかせねばといういろ……。 (笑)。彼のほうはまったく未経験だと思う。付き合ってる女はたくさんいた人だけど、そんな世の中だからそこまで行かなかったのね。でも結婚後はとてうまく行きました、だから私はあれは練習だと思う。 (笑) 板根 両方が参加しなきゃだめなんだよね、セックスというのは。

大切なお互いの関係

佐々木 でも性について心理的な抵抗感というのがあって、結婚後いつまでも良くなならない、そういう人もかなりいるみたいね。

板根 それは話し合いをきちっとしてないんだと思うのね。

佐々木 話し合いかなあ。

瀬木 セックスそのものの合い性が悪いんじゃない？

佐々木 そういうこと、あると思う？
板根 あると思う。

瀬木 部分的な機械的なものじゃなく
て全体的にあると思う。それが大事で
ね。でも普通結婚するときに、そんな
ことまで打診しないから……。

佐々木 でも女のほうが積極的に、男
のセックス・アピールを感じて結ばれ
るということはないかしら。私の場合
二十一のときに、ある男性を見て、そ
の人のそこがえらい気になった。はっ
きりその人と寝たい、と思ったの覚え
ている。あのとき私は女性として本当
に成熟したんだと思うの。それが結婚
につながればいいんじゃないだろうか。
私は男に好かれてもだめで、こっちが
好きになるというほうなのよね。
板根 私もそうだ。好きになったら寝
ちゃう。
佐々木 残念ながら私はチャンスを失
った。(笑)
板根 でもやっぱり、何回やってもタ
イミングの合わない人っているわよ。

私はわりと早い方なのに、むこうがの
んびりしてて飽きちゃったり、二度も
三度もいくこともあるけど、それは余
程高まってるときでさ、普通は悪いけ
どたいくつしちゃうのね。もしそうい
う人と結婚してたら、双方不幸だと思
うのね。

佐々木 練習である程度いくとしても
(笑) ほんとに合わないということも
あるんじゃないかな。

板根 あるよ。幾度やっても同じこと
でね、双方へとへたになっちゃうのね。
疲労もすぐ大きくて、あとで悪いこ



としちゃったんじゃないかな、と思う
のね。

佐々木 しかし男性の心理というのは
皆そうだと思うのだけど、ペニスのよ
うな、さっきの瀬木さんの話のように、
女から見れば最初は醜態にしか見えな
いものを、非常に良く見てもらいたい
好きになってもらいたい。そのモノを
よ。(笑) そういうことなのね。

板根 一点豪華主義じゃないけど、そ
れが男の生甲斐みたいな感じで(笑)。
佐々木 女が好きになるの当り前だと
思ってるふし、あるでしょ？ 自分に
とつてもものすごく大事なもので、
それを喜んでもらいたいんでしょうね。
板根 やっぱり一点豪華主義だよ。

男と女のスレ

田河 とにかくヤッてしまいたい、と
いうのが男の人はあるわけね。こちら
としては十分コミュニケーションして
からでないとそうする気になれないの
が、むこうはとにかくワッっていう

感じになつてゐる。とてもコミュニケーションのゆとりがない。(笑)

板根 パツとやってパツと帰っちゃったり。それでは女はかえつてストレスになっちゃうんだよね。充実感も何もないセックスってあのこと……。やっぱりセックスするときは、夫婦もそうだけどよく話し合うことが必要なのね。こうして欲しいとか、ここが欲しいとか……。

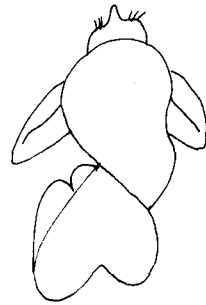
佐々木 ああ、そういうことね。それは無かつたらだめよ。それは大事。

板根 尿道口とクリトリスとまちがえてるのがいてね。そこ違う、こっち、というのにぼく間違つてない、って。(笑)

田河 本人が言つてゐるのに。(笑)

佐々木 やっぱりに性に目覚めてから、それを積極的に育てるようなチャンスに恵まれた人は、結婚後もうまくいくみたいね。

瀬木 私なんか離婚して、今のと一緒にになったからよかったけど、そうでな



かつたら聞だつたわよ。前の人とは合わなかつた。それは性器が合わないということじゃなくて、トータルなものだけど、まず性に関してイメーτζがずれてたわね。だからほんとに、何人かの人と体験して、そしていちばんいい人とめぐり合う、というのがいいんだろうけど、一回だけで結婚というのはどうも……。

田河 それはまったくそうね。

佐々木 皆さんはお若いけれど、いたい女のセックスって、いつごろの年代がいちばんいいと思う？

板根 私は三十……今私三十代だけど佐々木 二十代なんてだめよね。とても残念だと思ふのは、若いときは、チ

ャンスがあるのに実はあまりよくなくて、年取つてからはどうしても見た目がきれいでなくなつて(笑) チャンスがないうちに良くなる。(笑) だから皆さん亭主って大事よ。(笑)

田河 そうすると夫婦というのは、老人の性の福祉というか、最小限の性生活を保障するという……(笑)

佐々木 結局最後にはそういうことになるわね。夫は妻の若いときのことを覚えてゐるわけよ。だからそんな変な感じじゃないのよね、年取つた妻と寝ても。突然そのばあさん見た場合とは違う。(笑) だから年取ればだんだん亭主がありがたくなってくるわよ。

じっさいに女にとってセックスが面白いのか、ということになると、私は四十代後半からがずっと良くなって来たという感じがする。三十代のときにもとても良いと思つたが、それより良くなる。ただ一時更年期のときにわるくなつた。いやになつちゃつて、欲望がなくなつた時期がありました。やつ

た翌日必ず頭が痛くなった。もう止めなさいといわんばかりで……。(笑)

えらい悲観しちゃったが、このごろ直ったのね。だから皆何食わぬ顔をしてるけど、閉経後というのが案外いいんじゃないかしらね。

板根 妊娠の心配がないから……。

佐々木 体温取ってみるとずっともう排卵がないのよね。無排卵性月経なのだからやっぱり気が楽ね。どうも女性の性というのは、案外長持ちするものじゃないかと思う。

結婚生活に必要な

男友だち

田河 私はね、夫とよい関係を持つためには男友だちが絶対に必要だと思うの。でも同世代の話を聞いてみると、男の友だちを持つて人って、ほんと少ないのね。勤めてる人でも少ない。三十代というのはかなり男ひでり状態ね。

佐々木 全体に今、日本の女性はそう

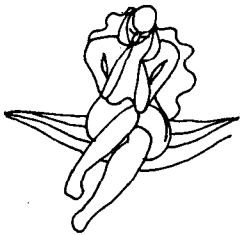
じゃない？ この間ある講演会を聞きに行ったところが、大学の助教授で若いかわいらしい男が講師で出たのよね。そうしたら聞きに来てる奥さん連……奥さんばかりなんだけどね、来てるのは……その目付きの異様なこと。いやらしいというか、その雰囲気のもの悪さ。

板根 分かる分かる。

田河 ふだん口利く男といたらセールスマンくらいだから……。

佐々木 やはりもう少し男女の付き合いってものが要ね。

田河 私の夫は大学のときの同級生で、友達結婚でしょ。何でもしゃべり合え



てとてもいい関係なんだけど、そのいい関係を持続するためにも、夫だけしか男の話し相手がいけないという生活になってしまったらダメだと思うの。そういう生活になってしまくと、夫のよき話し相手にもなれないばかりか、つまらない男性の言葉でも非常にありがたく拝聴して動かされることになると思うのね。

結婚していても、共学で培った、男と女が入りまじって自由に話し合う雰囲気を持ちつづけていたいわけ。

佐々木 でも友だちといっても、やはり性的な感じはするでしょ。

田河 あります。もちろんある。けどすぐ寝るというのではなくて、状況が変わったらそういうこともあり得るだろう、という人で、人間的にかなり相性があって、好みにあう、そういう人が周囲に二、三人あって、夫は夫で置いとく、そういう状態が好きなのね。

男友だちってすぐく大事じゃないかしら、よい結婚を続けるためには。

(え・松本をきえ)

優生保護法「改正」を考える

宗教は政治の召使いか

田中喜美子

戦後、私たち女が手に入れた自由の中で最大のもの、それはおそらく、「子どもを生まないでもすむ自由」であろう。

戦前、一人の女性が一生のうちに生む子供の数は、ほぼ五人。

戦後その数は年々減り、いまや一・七人といわれている。

どの家庭をみても、ハンで押したように二人の子持ち。一人っ子家庭も目立ちはじめた。

三人、四人、五人、六人と生みつづ

け、いや生まされつづけ、はては九人、十人と生まざるを得なかった戦前の私たちの暮しと、現在の私たちの暮しとの間には、気が遠くなるほどの大きな差がある。

人口爆発に悩んでいる発展途上国からは、人口抑制に成功した国、として羨望されているこの現実の背後には、しかし「中絶天国」と称される、無数の妊娠中絶が存在していることを知らぬ者は、誰一人いない。

最近、この現実には歯止めをかけ、中

絶の自由を大幅に制限しようという政治的なうごきが目立ってきた。

「優生保護法」改正のうごきである。

女たちはいつもツンボさじき

「優生保護法」ということばは耳にしているても、その内容を正確に知っている人はそんなにいないだろう。

昭和二十三年に制定されたこの法律は一口にいって、明治四十年に制定された墮胎罪を骨ぬきにし、中絶を自由

化した法律である。とくに昭和二十四年の改正によってつけ加えられた、

「妊娠の継続又は分娩が身体的又は経済的理由により母体の健康を著しく害する虞のあるもの」(傍点筆者)という一項は、中絶自由化のおスミつきとなった。

「経済的理由により母体の健康を著しく害す」かどうかなどということとは、産婦人科の医者にはわかりつこない。

結局、妊娠の診断を下すと、ごく事務的に患者?にむかって、

「どうですか、生みますか」ときくことになる。

新しい生命が胎内に芽ばえたということは、大きな出来ごとである。そのことが感動をもって受けとめられない社会的風潮を、優生保護法のこの項目が作り出してしまったということとは否定できない。

欧米では、妊娠中絶がみとめられるまでに長年月にわたる、火を吹くような論争があった。その結果、七十年代

半ばに、アメリカ、フランス、イタリア、さまざまの条件つきながら次々に妊娠中絶が合法化されている。しかしこの自由は、生命尊重という重たい宗教的伝統との鋭い緊張関係の中から、ようやく生れ出たものだった。

日本の「優生保護法」はこれに反し、敗戦後の人口増加と飢えの恐怖の中から、「ある日突然」誕生した。人口過剰を何とかして食いとめたいという一念から、オカミが主導権を取って、いわば敗戦のドサクサまぎれに実にお手軽に作られたのである。

中絶をあまりにも安易に受けとめる現代日本の風潮は、こうした法律成立の経緯と無縁ではない。

そしていま、かつて私たちと関係のないところで作られた優生保護法が、再び政治の手で改正されようとしている。ぼんやりしていれば、女の生活にもっとも関係の深い妊娠中絶の問題が、またしても女たちを棚上げにしたまま決められてしまうのだ。

うち出されるいのちの尊重

優生保護法はこれまですでに二回、改正の試みを受けているが、二回とも不成立に終わっている。三度目の試みである今回は、宗教団体「生長の家」を母体として選出された自民党の参院議員、村上正邦氏によって口火を切られた。村上氏の主張は、妊娠中絶を可能にする優生保護法の「身体的、経済的」理由の中から、経済的理由を削除せよというものである。

三月十五日の予算委員会でのやりとりを抜粋してみよう。

委員長(植木光教君)これより村上正邦君の総括質問を行います。村上君。

村上正邦君 総理初め閣僚の皆様、ぜひ聞いていただきたい歌がございます。お手元にその歌詞を配りますからお聞きいただきたいと思います。

ママノ ママノ

ボクは、生れそこねた子供です

おいしいお乳も知らず
暖かい胸も知らず

ひとりぼっちで捨てられた
人になれない子供です

ママノ ママノ

ボクの声は 届いているの

ここはとても寒いの

ひとりでもとても怖いの

ママのそばに行きたい

ボクは 生れそこねた子供です

これはその一節でございますが、
総理、どのような御感想をお持ちに
なれましたか、お聞かせいただき
たいと思います。

国務大臣（鈴木善幸君） 生命の尊

さと申しますか、特に、幼い生命に
ついての切々たる叫び、そういうも
のを私はこの詩から感じるわけでござ
いまして、生命の尊厳というものを
大事に考えなければならぬと、
こういう感じでございます。

村上正邦君 厚生大臣、御感想をお
聞かせいただけます。

国務大臣（森下元晴君） 生命のと

うとさを切に歌いあげた、まことに
切々たる内容のものでございます。

人命は地球より重いということを言
われておりますけれども、それ以前
に、やはり生命の倫理と申しますか、
あるいは生命の科学ということが最
近叫ばれておる状況下で、生れてき
た者の生命、また受胎した生命も合
わせまして認識を深めていこう、生
命のとうとさというものをいまこそ
認識すべき問題であると、こういう
まことに示唆に富んだ、内容の深い
歌であり詩であると私は思っております。

（中略）

村上正邦君（中略）この際総理の生
命観とでも申しましょいか、宗教観
とでも申しましょいか、そういった
ものをお聞かせいただければありが
たいと思います。

国務大臣（鈴木善幸君） 人間の生
命は受胎に始まると、こう申してお

ります。受胎をして、生命が宿った
ときからわれわれはその人間の生命
というものを尊重し、これを守って
いかなければならないと、このよう
に考えるものでございます。

与党議員と閣僚との間の、こんなふ
うなやりとりの間に、胎児の生命を守
ることが政治家の責務であることがま
ず確認され、最終的に現代日本の物質
的豊かさの中で、「経済的理由」によ
る妊娠中絶を公認することは国辱であ
る、という方向に話が展開し、森下厚
生大臣が次のように答えている。

国務大臣（森下元晴君） 経済的理

由につきましては、ほとんどその意
義は失っております。（中略）した
がって、この優生保護法の改正問題
につきましては、厚生省としてもよ
く検討いたしましたして早急にこれを出
したいという前向き、私の個人的
な実感は考えでございますけれども、
明言をいたしたいと思っております。

今回私は、優生保護法改正を考えるために、はじめて国会の議事録というものをよくよく読んでみたのだけれど、これがびっくりするほど面白いものだということを知った。日本の国会論議は卑俗で低調だといわれているけれど、低調は低調なりに、卑俗は卑俗なりに（ここに引用したやりとりについていろいろなことではない——念のため）、しく面白いのである。

このやりとりでもよくわかるように、村上氏は、生命の尊重ということ至上の大義名分として、妊娠中絶の禁止を打出している。

人間のいのちは何よりも尊い、ということを否定できる人はいない。そして胎児も一個の生命であり、人間の生命として生きる権利を持っている、ということ否定する人も少いだろう。フランスでは妊娠八週間以前の中絶はみとめられているが、八週間以前はいいちでなく、八週間以後はいいちであ

るなどと決めることが誰にできるのか。八週間というボーダーラインを、母体への影響とか手術の難易度によって決めるのならばいざ知らず、胎児のいのちをめどにしているならば奇怪きわまることといわなければならない。

いのちの問題を考えるとき、私たちは心情的に、妊娠中絶を否定したくない。七月二十三日の毎日新聞に掲載された村上正邦氏対中山千夏議員の論争も「安易な中絶許せない」という村上氏の明快な主張に対して、「生命と生存権は別だ」と、胎児の生存権を云々する中山氏の主張は、どうひいき目に見ても理解しにくいものであった。村上氏の主張は心情に訴え、中山氏のそれは理知に訴えるものであるからである。

人間は理屈だけでは動かない。現在のいわゆる「革新」派の主張が、とかく私たちふつうの市民の耳に入りにくいのは、いわば彼らが理屈ばかりふりまわしていて、人間の心情に訴えるこ

とを忘れているからだ。そして日本人は、とりわけ心情的にものごとを判断しがちな国民なのである。

心情は「中絶」を否定する

「生長の家」のメンバーである高校生たちが、埼玉県の高校の文化祭で配布している「生命の尊厳」というパンフレットにも、この問題に関する心情的アピールがふんだんに盛りこまれている。

頁をめくると、まずある看護婦さんの実話として、八か月の赤ちゃんが中絶を受け、生きたままで取り出され、死ぬ、いや殺されるまでの経過が克明にリポートされている。酸鼻な物語である。

次に胎児の成長過程。ものではなく、妊娠初期からすではっきりと示される、生命としての動き。

十代の性の乱れによる中絶件数の激増。そして敗戦のドサクサまぎれに作

衛生保護法の改正

反对

贊成

「愛知と福岡は三泊四日のだから、中絶は殺人というのだから、中絶は殺人の中身だ」として論議の中心が

「生命が大切」というのは、だれにいわれなくてもあたりまえ、女性にだけってまで中絶するわけではありませんが、これは人間として正しい、でも、なぜ愛知の側面からなのか、合理的な側面は見いだせませう。宗教的な側面は見いだせませう」として論議する、間違った

中山千夏議員



「改定案をどうしたい」と語った。と、軍士達の中にも「改定案は、今のままがいい」という主張が、この法律の改定に阻む働きを始めているという。

家庭

改正のおもな理由は、明治十四年で定めた「刑罰法案」が中絶をむかふところである人の条件に合致している「狂気の

「私の主張は、物質も一つの生命体である、だから全力をあげて守らなければならない、というものです。これを宗教的な事といわれるなら、それもちつとよ。」

—— 組織的に中絶を禁止して、ヤ三中絶がすすむだけという見方は？

「修正正法の中に太陽の光を」



村 上 正 邦 議 員

安易な中絶許せない

[illegible]

生命と生存権は別だ

[illegible][illegible]

の像と「おむね」はほぼ一致した。『おむね』は、大正四、五年に東京の「大正」新聞で連載された。『おむね』は、このころの文壇の流行である。『おむね』は、このころの文壇の流行である。『おむね』は、このころの文壇の流行である。

[illegible]

安易な中絶許せない

[illegible]

方法を教えるべきです」
——いったん商業になった彼
正義が再浮上したのは？
「ハイトさん（「ハイト・レ
ポート」の著者）が先日したと
き政府が有権化する、必ず女
性の権利にかかわる問題が反動
を見せ始める、と意見が一致し

最小の理解感すらも無い、個人
々々がバラバラの「アト」社会、
それでも呼ぶべき気が出て
きます。私が心配するのはよう
いって「アト」

「これは、出生率が低下して、経済的に豊饒する」という意味だけじゃない。いま一組の夫婦の子供は、七人の子どもの数は一・六から一・七。これでは人口が減るのは当然だが、子育ても明らか。高齢化から減少となると、民衆の活力は失われる。国民意識も変わり、血

「いや、博士は、貴族でも、中
等には夫の同僚が、必要。だから
当然夫も所を受けろというなら
ば受けなければならぬ」

—改訂の扉面の二つに、日
本製菓を庇護への道から救うた
めに、という由があげられてい
ます。

——母親は刑罰によって懲罰
理で罰せられますが、父親の責

よかったと強く思うようになった。
 いたいとも苦しいともいえず、死
 んでいった赤ちゃん。お骨も名前もな
 い。私が元気になったら、二人で供養

「しかたがない、これしか方法がない
 と思っていたのに、いざ手術を終える
 と、やはりどんなことをしても産めば

ここまで読み進むと、中絶に対する罪悪感が、胸いっぱいこみあげてくる。そこへとどめを刺すように、中絶

は曾野綾子、渡部昇一はじめ、識者の中絶反対の意見。そして中絶された胎児の、バラバラになった手や足の写真。

る」として、現在の出生減が続けば、日本人はどんどん少なくなり、やがて減びることになりかねないという、キツめて心情的な主張がはさまり、後半

ニッポン。悪用される「経済的理由」。
中ほどに「このままでは日本は滅び

にいきます。ほんとうにごめんなさい」

(国立市・匿名・大学生・21歳) 朝日

新聞六月十二日

そのあとに外国の翻訳ものらしい、きわめて練達の文章で綴られた、「胎児の日記」

十月五日 今日私のいのちがはじまりました。両親はまだこのことを知っていません。私はまだリングの種ほど小さいけれども、それでももう「私」なのです。そして私は女の子——金髪で青い目の——になるはずです。こんなに小さい私の中にも何もかもひそんでいて、私はやがて花を愛でる人となることでしょう。

十月二十三日 私の口は漸く開きだしました。一年たつたかないうちに私は微笑みはじめ、やがてお話をするようになることを考えてみて下さい。私の口から出る最初の言葉が「ママ」だということを私は知っています。

十一月二十日 お医者さんは先頃からお母さんに、私がお腹の中にいるこ

とを告げています。お母さんは幸福にちがいありません。幸福でしょうね。

十二月十日 私の髪の毛のびてきました。滑らかで艶があり輝いています。お母さんの髪の毛はどんなかしら。

十二月十三日 私の目も漸く見えはじめました。私の回りは真暗です。けれどもお母さんがこの世に出してくれるときには、回りには陽と花がいっぱいでしょう。ご存知のように私はまだ花を見たことはありません。けれども私が何にもまして見たいのは、お母さんです。お母さんは、どんな顔かたちの人でしょう。

十二月二十八日 今日お母さんは、私を殺してしまいました。

この日記をよんで、ショックを受けない人は少ないだろう。

文化祭の展示を見た人たちに配られたアンケートの回答を読むと、こうしたアピールに対する参加者の素朴で、純粹な反応がよくわかる。

妊娠中絶がこんなものということをし

はじめて知った。いのちの尊さというものがよくわかった。

ワラ半紙のアンケート用紙に、現代っ子特有の丸っこい字で、こうした印象をかきつけている人々がほとんどだ。私が高校生だったら、やはりそう書くにちがいない。そしてもし、優生保護法改正の署名用紙がまわってきたら、喜んで署名する一人になるだろう。

学園祭でこの展示を実現した春日部高校の三年生、生長の家のメンバーのT君は、「ぼくは男だから、この問題にとり組むのはちょっとためらいがあったけど、やってみてほんとによかったと思います」と語る。

浦和北高校の女生徒Kさんも、「いのちの大切さを知ってほしいと思うんです。性交渉を遊びのように思っている人も多いけれど、そうではなくて、いのちを生み出す行為だということ。いのちは物質と違う、ほんとうに大切なものということを知ってほしい」



村上正邦議員

とひたむきである。

二人とも、生長の家を通じていのちの大切さを知り、生きることの目的をつかむことが出来たという。「いのちの尊さというものを教えてくれたのは生長の家ですし、その中で、生き甲斐とか、生きる喜びとかを教えてくれたのも生長の家なんです」

とKさん。

「みんなそうですね。ほんと。だって全く不安定なんですから。ぼくなんかとくにそうでした。それが生長の家の錬成会に出て、いろいろ勉強するうちに、ほんとにそうだなあと思うようになって……」とT君はつづける。

「学校の友だちなんて、自分からほんとの友人を求めようっていう気持ちもないし、自分だけよければいいやってかんで……。話しても、しょうがない、っていうかんじなんですよ」

かといって、精神的に親が与えてくれるものは皆無に近い。

「生き甲斐はお前だけだよ、ってベターッとすがりついてくるような親から、何を得ることが出来ますか」

T君は一時、ひどい登校拒否症になって、迷惑の日々を送ったことがあった。生長の家に入ること、その苦しみからも救われたのである。

「同じような体験を持った仲間がいっぱいいますよ、生長の家には……」

登校拒否をおこす生徒には、学校生活の枠に唯々諾々とはまりこむ生徒たちより、むしろ生命力のつよい、見どころのある子が多いといわれているが、T君もその一人のように見える。

「軍縮特別会議なんていうのもやってますけど、大人は声を出せるんです。声を出せない赤ちゃんのためには、ぼくらがやらなくては……」

しらくけ人間の多いといわれる高校生世代で、私に会ってくれたこの二人は、真に若者らしい正義感と清潔感に

満ちていて、さわやかな風に打たれる
思いがする。

ひたむきな正義感。いのちを大切に
しよう、救おうという使命感。

若者のこうした心情が、宗教的、あ
るいは精神的次元にとどまるかぎり、
異論をさしはさむ余地はない。妊娠中
絶の悪を説き、害を叫んで、人々の自
発的意志に働きかけることは、賞める
べきことでこそあれ、非難すべきこと
ではあり得ない。

しかし。

問題はこうした心情が、政治の世界
にとりこまれて変質するメカニズムに
ある。

政治と宗教の結婚は幸福か

宗教は時に政治の前に膝を屈して生
きのび、時に政治の上にそびえ立って
現世を支配する。

戦争末期をカソリックの女学校の生
徒としてすごした私は、宗教が政治の

前にひれ伏す現実を目のあたりにして
いた。宗教者に対する私の不信は、遠
く少女時代のこの体験に源を発してい
る。

信仰とは、この世での私たちの生き
かたすべてを律する、圧倒的な力を持
つべきではないのか。現世の権力に、
簡単に道をゆずるような信仰が、真に
信仰の名に価するのか。

徴兵拒否を貫いて投獄されるクエー
カー教徒、身近なところでは国旗掲揚
に起立を拒むものみの塔の人々に、私
はやはり感嘆を禁じ得ない。宗教がも
し、現世の秩序への真の抵抗の原理と
して働くならば、どれほど権力が圧迫
を加えても、戦争はこの世から立ちど
ころに姿を消すはずである。それだけ
の力を持ってない宗教は、いったい何の
役に立つというのだろうか。

けれども。

現世のすべての思い、すべての行い
を律するべきものとして、宗教がもし、
国家と同じ次元の権力を振るい始めた

らどうだろう。

キリストは荒野で、「現世の権力の
すべてを与えよう」というサタンの誘
いを受けたとき、きっぱりとこれを退
けている。宗教は政治とはちがう、否
政治ではあるべきでない、ということ
を、彼はそれによってはっきりと示し
たのであった。

宗教は政治と結びつくとき、いや政
治そのものになり変ってしまうとき、
必ず墮落する。信仰は、権力を通じて
人々に強制されるものであってはなら
ないのだ。信仰は、あくまで精神の、
心の次元のものとして拡められるべき
なのだ。

近代は、いわば長い酸鼻な経験を通
じて、人々が漸くはつきりとその認識
に到達した時代である。私たちがいま
憲法で保護されている、思想、信条の
自由を得るまでに、どれほど多くの血
が流されたことか。

生長の家の人々が、妊娠中絶の罪深
さを訴え、いのちの尊さを強調するの

は決してわるいことではない。しかしそうした彼らの「宗教的」信念が、政治の場に持ちこまれるのを、無条件に認めてよいのかどうか。

こうした疑問を抱いて、政治的次元で論議される「優生保護法改正」問題を検討してみると、いろいろなことが見えてくる。

宗教の衣の下に見えるもの

まず最大の問題は、妊娠中絶をもちばら「いのち」の問題としてとり上げ宗教家としてのその悪を説く村上正邦氏が、「あらゆる中絶を禁止せよといっているのではない」と明言していることである。

しかしこの主張が、宗教者としては矛盾したものであることは、マザー・テレサの次のことばを読めばよくわかる。

——日本では、二年前の統計によると年間約五九万八千件の合法的中絶が行

われていますが……

「日本は物質的には豊かな国ですが、妊娠中絶を許しているという意味では、精神的に貧しい国です」

——ところでマザー、いまあげた数字には、不幸にも強姦されて妊娠してしまった女性も含まれています。それでも中絶は許されませんか？

「もちろんです。たとえ強姦による妊娠であっても中絶してはいけません。

（中略）子どもを殺すことには、どんな理由もつけられません。たとえ、胎児が障害児であることがわかって、中絶はいけません。（中略）私は、すべての診療所、病院、警察に『子どもを殺さないでください。子どもは全部私が引きとりますから』とお願ひしました」

このマザー・テレサのことばは、宗教者として全く矛盾のないものである。これに反し、村上氏の主張は、優生保護法の他の項目については触れず、ただ「経済的」理由だけをはずせとい

うものなのだ。

グラビア八頁にのっている優生保護法の抜粋をみても理解できるが、戦中の国民優生法のなごりをとどめるこの法律は、実におそろしいものである。障害や、悪性遺伝のある子が生まれてくるおそれがある場合は、中絶してもよい。

精神病者、精神薄弱者、未成年者の手術は、必ずしも本人の同意を要しない。

正常な血統だけを残し、そうでないものは断種してしまう、これは恐ろしい思想である。

障害者には生きる権利がないというのか。障害者のいのちは、健康者のいのちより尊くないというのか。

ひたむきに命の尊さを信じ、運動している生長の家の青年たちは、このことをどう考えているのだろうか。

イランのホメイニ政権は、すべての社会秩序の上にそびえ立つ神権国家として猛威をふるっているが、日本の場

合宗教はむしろ、唯々諸々として、政治に利用され、現世的権力となれあうことに奇妙な喜びを感じているように見える。

村上氏は自衛のための戦力を保持することを肯定している。いのちの尊さを強調しながら、国家防衛のためには武器をとって戦うことをみとめるのだ。食うか食われるかの局面において、相手を殺すことをみとめるこの姿勢は、あきらかに政治家のものである。氏も「政治家としては」とつけ加えることを忘れなかった。そして「宗教家としては」平和のために自分のいのちを捧げることをいとわない、いとも朗らかにしめくったのである。

子生み・子育ては私事ではない

優生保護法改正にかかわる村上氏の他の主張を、ここにくわしく論評するのは紙面がつかないので、他の機会にゆずりたい。ただ、村上氏及び生長の

家の人々との短い会見の間にはっきりわかったこと、それは現在の人口減少がつづけば日本の国力は衰退してしまふという危惧と、きょうだい数の多い中で育った子どものほうが、遅しく社会性があり、たとえそのために高等教育が受けられなくとも、中卒、専門学校卒で十分だということ、母親は美しくやさしく、家族を支えるために果を守ってほしいという、いわば戦前型社会に対する明らかなノスタルジーであった。

こうした型の社会を未来の日本に適用することは、明らかな時代錯誤と思われる。しかし同じようなメンタリテイを抱く男性は、あるいは組織は世に驚くほど多い。

氏の主張の中で全面的に否定できないのはただひとつ、子生み・子育ては私事ではないということであった。

優生保護法改正に反対する女性グループは、女の産む性が、明治以来つねに国家管理の対象となったことを弾劾

し、産むか産まぬかを決めるのは女の自由意志にのみよるもの、と主張する。人口政策がもつばら国家のためだけに行われたこれまでの経緯をみると、彼女たちの反撥はよくわかる。

しかし子どもは母親だけのものではない、ということもたしかなのだ。何人の子を産み、どんな子にその子たちを育てあげるかということは、私たちが個人の問題だけでなく、たしかに社会全体にかかわりのある問題である。

社会は、あるいは国家は、母性を保護し、より豊かなものとして発展させるために、母性を利用するのではなく援助しなければならぬのだ。

理在の動きは、母性の利用のみを考えて、援助を考えない、やらずぶったくりの原理で支えられていると私には思えるのである。この状態を変えるために女たちは、まだまだ力を合せて働かねばならぬだろう。

私のえらぶ画家 9 佃堅輔

野中 環

祭といえば、誰しも、あの浮き浮きした、体中が熱くなるような、一種の興奮状態にさせられよう。とくにみこしを担ぐ人たちの力強い調子づいた掛け声や汗の匂いには独特のムードがあり、その印象は強烈だろう。野中さんは、こうした祭をテーマにして描き続けるユニークな作家だ。

野中さんは、関東近郊の祭には、ほとんどでかけてゆく。祭のさまざまな光景を、写真のスナップのようにあらゆる角度からとらえて、何十枚もスケッチし、あとでそれに基づきながら画面を構成し、一枚のタブローに仕上げるという。

「祭のあらあらしく、ダイナミックな動きに、とても魅力を感じます。それに、いろいろな祭にでかけますと、その土地の風俗習慣にふれることができ、大変興味をそられます」



「祭りの中の御輿」



「祭（御柱）」

と野中さん。

野中さんの絵は、タッチも色調も激しい。その激しさは、対象をストレートに感じとる作家の豊かな感性のあらわれだが、しかし一方、人物の姿や表情の巧みな描写などには、確かな、醒めた観察眼がみられる。

野中さんは、ここ数年、きわめて精力的に作品を発表している。

かつては上野の美術団体に出品し、受賞を重ねたが、従来の団体展の閉鎖的な在り方に疑問を感じた人たちと一緒に、新しい美術団体「日本清興美術協会」の結成に参加。現在は、この会の委員として活躍。

野中さんの第一印象は、物静かだ。しかし絵には、作家の内にひめられた情熱の激しい表出がある。それは野中さんが幼少の頃すごした大陸の風土が、性格や絵の個性の一面を形成しているといえようか。

「祭りは描き続けます。できれば、日本のすべての祭を描きたいと思っています。これからの大きな課題です……」

★情報コーナー

北陸の城下町金沢から
雑誌「鄙言」が
出ました

歴史の裏側に封じ込められていく一人の人間の姿を何かの形にとどめたい——
生きていくことの意味を問い続けていく人達の作品を浮かび上がらせた——
そういう思いをもった人たちが、「同人誌」でもなく、「商業誌」でもない、「雑誌をだそうと思って」出した手づくりの雑誌です。
千二百年前辺境の守備に発った防人と、残された妻たち

の相聞の歌、

かつて平塚らいてうさんらとともに、婦人運動に情熱を傾けていた女性のこと、

北陸の伝統産業の底辺に生きる女たちのこと、

など、長い歴史の流れを通して現在に語りつがれる種々のことがらを、世に問いかけております。

わいふ一七八号「バリカンとウーマンリブ」の橋本チエ子も健筆をふるっています。

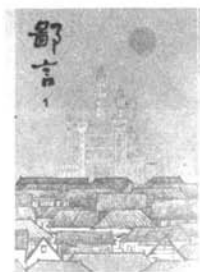
金沢で誕生して、東京では買えない雑誌「鄙言」を手がかりに、少しでも仲間が増えることを望んでいます。

直接小舎へご連絡下さい。

定価七百円

連絡先 金沢市香林坊二一
一二三五 悠々舎

Tel. 〇七六二一六三一五五
七九



「妹たちのかがり火」
第三集 仁木悦子編
発刊のお知らせ

十一年前、「この前の戦争で兄をなくした女性たちが、手をつないで自分たちの思い出を記録文集にまとめてみよう」というA紙への投書がきっかけで、「かがり火の会」

が生まれました。すでに二冊出版され、この夏三冊目が出ました。

少女期に、兄のみならず、弟、年齢の近い叔父などの身内を失った人達の悲しみや嘆き、怒りが記録され、心に迫るものがあります。

私の拙文「二人の兄の生と死」も集録されております。

ぜひご一読下さい。

定価三八〇円 角川文庫

新宿区 富沢昭子

★女の手帳★

「ネットワーク・ノオト」
一九八三年度版発行!!

私たちグループ三六六は軽く、薄く、スケジュールの書きやすい便利な「女の手帳」を作りました。

巻末には、仕事をさがす時、子供を育てる時、離婚をした

い時など困った時に、どこでどのような情報が得られるかに焦点をあてた、各種の相談機関、グループ、ミニコミ紙・誌などを二百余り特集しました。

皆さんもぜひ一冊備えて下さい。

定価七五〇円送料一七〇円
問合せ先 〒151 東京都渋谷区代々木四一二八五 東京都レジデンス四一〇

グループ三六六 Tel(片岡)
〇三二六七一六七四一

童話を書くことに

興味のある方

いらっしやいませんか

子供の成長と共に、いろいろな童話を読んできましたが、いつも自分で書きたくてたまりませんでした。著名な作家に弟子入りしたいと住所まで

調べるのに、勇気が出ず行動が起こせません。自分で投稿したこともあります。勧善懲惡のワンパターンしか書けません。同じような夢を持っている方、もう具体的に勉強を始めている方、グループを作っている方、作家活動なさっている方、いい勉強方法がありましたら、教えて下さい。

日本の連絡先 〒194 町田市

金森一八四〇一二八稲垣方

赤松羊子 Tel〇四二七一

九六一二二六八

現住所(昭和八三年三月迄)

Mrs. Yoko Akamatsu

JL. K. HAHMAD

DAHLAN 32,

KEBAYORAN BARU,

JAKARTA, INDONESIA

「親業訓練講座」

よりよい人間関係はその人の財産です。親と子の関係は、その中で基本的なものと大事なものでしょう。その親子のあり方に注目したのが、親業です。

自主性のある子、思いやりのある子に育てたい、創造性豊かな子にと願う親心が、日常の家庭の中で、適切な親の態度、愛情となって表われているのでしょうか。

カウンセリングや心理学を基盤とした、体験的に学習できるこの講座で、親としての自分をみつめてみませんか!!

十月二十八日から八回

毎週木曜日午前九時—十二時

新宿文化センターで

費用 一七、五〇〇円

連絡先 Tel〇三—四二七一

六四六九 渋谷武子

海外の女性たちと

直接交流ができます

—女性のための

エスペラント入門講座—

学びやすく世界各地に相互連絡網がある国際補助語エスペラントを使って、各国女性たちと討論、情報交換を行なっています。あなたも仲間に入りませんか。講演の終わりには文通が始まります。

とき 十月七日より毎木曜

夜六時半—八時半全十回

ところ 港区立婦人会館

参加費 五千円(教材費含)

申込み・問合せ先 〒340 埼玉

県草加市草加一—三三四

Tel〇四八九—四二一四八三三

女性のためのエスペラント入門講座

実行グループ

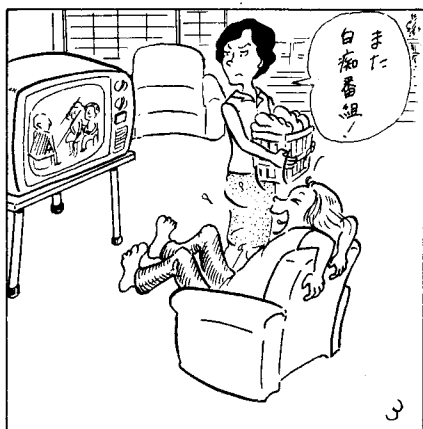


コミック・ライブラリー 絵 西田淑子

案 山本彩子

— 子殺し寸前の巻 —

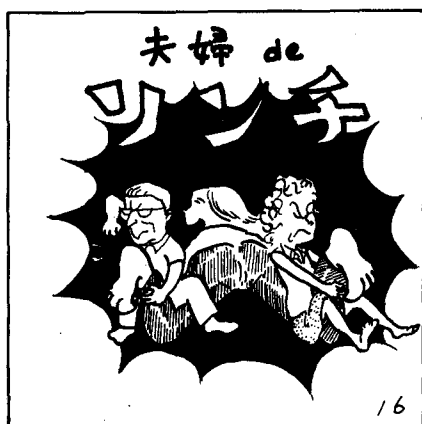
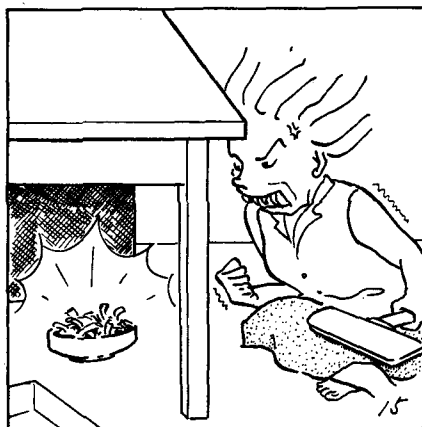
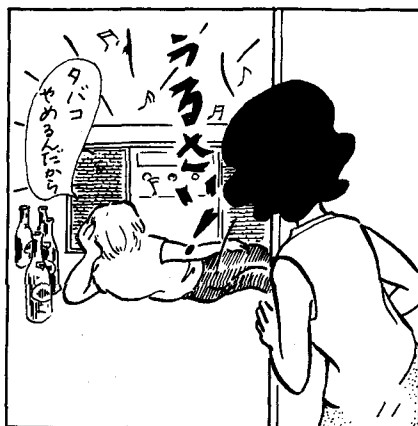
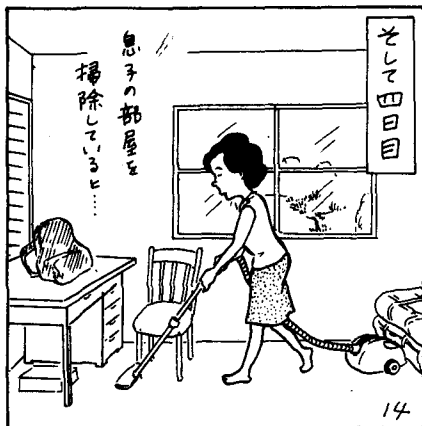
長くて 暑い 夏休み



夏休みに入ってまもないある日、地方の大学へ行っていた息子がオートバイで帰宅







バリカンと ウーマンリブ

文●橋本チエ子

「奥さんも、はよできるようにならなあかんあハハハ」と七、八年前にいったのは、忘れもしない、この客である。

そのころからもう、今と変わらないくらい髪がうすくなっていたこの客は、今も側頭部の髪を、一きわうすい頭頂

部に並べて、どうにか普通の刈り上げスタイルを保っている。

年のころは六十五・六、このあたりではちょっとしたお家柄に生まれて、なんとはなしにおうようさが身についている。そして、このおうようさに敬意を表して、この客の調髪はいつも夫

の受け持ち。私はこの客に対して椅子に直したり、顔を拭いたりの下仕事しかやらないものだから、このようなことをいわれたわけだが、私は内心「何いうてるんや、あんたさんのそのヘヤースタイルは、こちとらの得意中の得意じゃないか。人がちょっとばかり敬

意を表していればいい気になって」とつぶやいたものだ。

うちの店ではなんとなく、亭主・客やらない客が幾人かいる。この客もそうだ。もうずっと以前からの常連だが、私はまだ一度もこの客の調髪をやったことがない。この客達にはなんとなく、私達にそうさせてしまうものがあるのだ。

——私達夫婦がつい特別扱いしてしまふ客——それはどんな人？ お金持ちの人か？ どちらかといえばお金持ちに多いが、そうとばかりはいえない。お金持ちにもそういう気持ちを起こさせない人もあり、普通の経済状態と思われる人の中にも、つい特別扱いしてしまう人もある。社会的地位の高い人や、由緒ある家柄の人の場合も同じくである。

一たい、どのようなお客様にこのような特別扱いをしているだろうかと考えてみたら、なんのことはない「自分はどこへ行っても、誰でもが一目置く

はずだ、と思っていそうな人」に、御本人がなんにもいわないうちから私達は、先まわりをして特別扱いをしているようである。

思えば情けない精神構造だが、それにしても、お客様に敬意を表する時に、ただ一つ実行することが、女がしないで男がすることだなんて、考えてみればおかしいことだ……と思いつつも、その場になると、ウーマンリブを自認する私が、つい身をひいてしまうから不思議である。でもほんとのこというと、その時私は、「その方がらくだ」とも思ってしまうんだなあ。

※

私達が卑屈な気持ちで、特別扱いしてしまう客がいる反面、ちゃんと客からの注文で特別扱いさせられる場合もある。

それは決して好みやひいきから「夫に」というのではなく、男でなくては

いや、らしいのである。もちろんそんな人はごく少数だが、それはどういうわけだかいつも、「女であること」を看板として、男性をもてなす仕事をしている女性である。

日ごろ仕事の場合で、男性だけがおかすべからざる人間のように思い込まされていくからか、はたまた、日ごろのかたき思い知ったかと、男性に奉仕させたいのか……。私としては、大事な夫が後に書いたような気持ちで、彼女にサービスさせられるのは辛いところだが、同じ女としては、彼女にそれぐらいの復讐心をもってもらいたいと思っている。だがどうひいき目に観察しても、彼女達はただ「男でなくっちゃあ、いい仕事ができるはずがない」と思い込んでいるようなのである。

彼女達は、仕事以外では私に大変親愛の情を示してくれて、身辺のもの、たとえば仕事着などを如才なくほめてくれたりするのだが。

主婦だ、補助職だ、ホステスだと、

は・ほ・す・べ・ての女性が、男性の家のよ
うな場所におかれてゐる。今、現実問題
として、たとえそれを受け入れていて
も、「なあに、私のこの姿は、身過ぎ
世過ぎのための仮の姿さ。魂だけは売
りはいないんだから。だからこそ、心
ひそかに、男と同じ仕事をしている女
には肩入れするのさ」という心意気ぐ
らいは欲しいものだ。

理容師の私の場合など、客の彼女が
満足ならどっちだっていいんだけど、
相手が学校の先生の場合などは、女に
この心意気があるかどうかは、女性の
地位にばっちり影響するだろう。

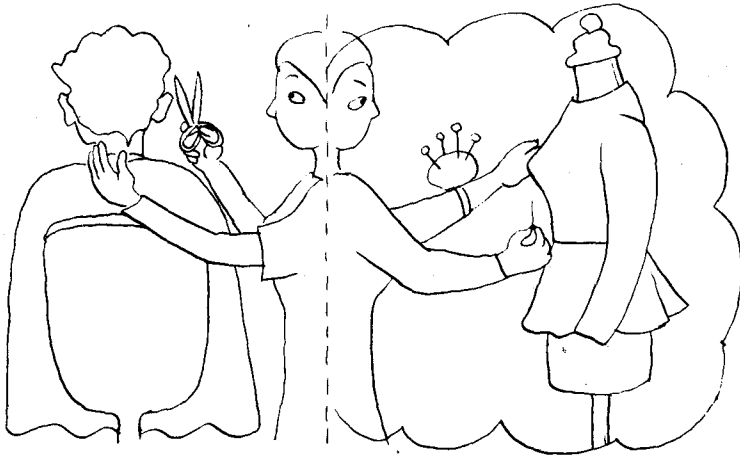
私が、ある種のお客様の前で、もう
一つ強気になれない理由は、その人達
が、「この店にとっておれは上客だろ
う。おれの頭は亭主がやるはずだ」と
いわんばかりの雰囲気をつたよせて
いるからではあるが、白状すると、私
がまだ理容師として、ここぞという時
の技術に未熟なせいでもある。

私が「理容所」という店に、はじめ

て立つてからもう二十七年。資格をと
ってからさえ二十年。普通ならばもう
とっくに一丁前にも二丁前にもなつて
いなければならぬのに、私はまだ○
九丁前。それは……

そもそも私達が——いや、夫がはじ
めて理容の店を出した時、夫はあまり
私を店に出したがいなかった。

その時五歳と三歳だった子供達に、
母を与えておこう、という気持ちから
だっただろうか？ もちろんその理由
も大いにあっただろう。けれど、それ
については、まだ六十歳にもならない
姑が、よく孫の面倒を見てくれた
し、「妻を働かせると、男のこ券にか
かわる」という理由もまたあてはまら
ない。何しろ我が福井県は、現在、女
が働くことにおいて日本一。夫が店を
出した昭和三十年ごろにも日本一であ
ったかどうかは知らないけれど、福井
県の女が外に出て働くのは戦前からの
風潮だから、日本中で結婚した女が働
きはじめてのが最近のことであること



と考え合わせると、多分そのころにも上位であつたはずで、よほど上流の家庭でない限り、妻が働くことは、少なくとも福井県の男のこ券だけは傷つかなかった。

夫が私を店に出しながらなかった一番の理由は、どうも私をたくさんのお客様の前にさらしたくない、ということだったらしい。

夫は私を、深窓の佳人としてベールにつつんでおきたかったのか、それともみっともないヨメサンやなあ、といわれたくなかったのかは、聞かないことにしているのだが……。

大たい、この理容所というところは、実にさまざまな人が出入りするところである。それも一旦入ってこられたら、少なくとも一時間は、あれやこれやと話題とともに、客と理容師がごく身近かにふれあうところだ。そこでは理容師達はかつこうの肴となつて、お客様達に料理される。お客様の問いかけには、つい正直に答えてしまうから、う

っかりしていると、プライバシーはほとんどゼロになってしまうのだ。だがそれは理容師にとつて、それほど悪い気分のことではなく、私達夫婦は、今もうむしろそれを楽しみながら、しかも生活の資を得ているのだが、その時もし夫が普通の男達のように、世間に対して妻についてのなぞを、少しでも残しておきたい、などと考えても、それはできない相談というものである。なぞ……。妻についてのなぞ……。

職業に貴賤はないというし、私ももちろんそれを信じているが、理容師をはじめ、身をもって働く労働者が、世間から格別尊敬のまなざしで見られるものではない時、どんな男にもただ一つ与えられている地位が、誇り高き夫の座。それはどんな高貴な男性とも共通する男の地位である。であつてみれば多分、妻は少しでも体裁がいい方がいいに違いない。あるいは美しく。あるいはかしく。あるいはつましく……と。

残念ながら私は、美しくもかしくもなかったが、娘時代に覚えた洋裁という手仕事を持っていた。(うちで洋裁をしている妻)というものは、少しばかりだが体裁のいいこととして夫をささえたいらしい。

とにかく、男がその妻とともに、理容所のような性格の店で、がん首並べてしまったんじゃあ、せつかくの男の救いも台なしというものだ。けれど、夫がいくら私を家におきたいと思つても、庶民の家ではとても、姑の手前、若い嫁が働きにもいかずに、子供のお守りなどをしていことはできないも



のだが、手仕事をもっていることで私は、家の中に身のおきどころがあった。

※

長い修業時代と、ビルマ戦線から帰還してからの職人時代とを、親方の店で過ごしてから、夫は自分の店を出したが、私には店に出なくていいというので、私は開店の時の御祝儀客がたて込む間だけ、床はきや料金受け取りを手伝っただけで、その後は家庭に帰った。

それからの夫は、朝早くから夜おそくまで、借金ではじめた店を軌道にのせようと、孤軍奮闘、見るも気の毒なくらい頑張った。だが理容所というところ、うんとひまだと思うとにわかになて込むので、助手がなければたちゆかない商売である。それで店をはじめた翌春からは、助手として若い衆を雇うことになった。だがこれがなかなかうまく続かない。そりゃあそうだ。他

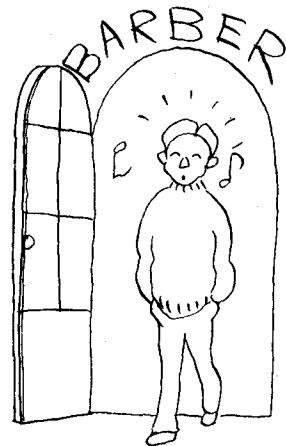
人様にはみなそれぞれ都合があるのだから。

はじめ私は、私のライフワーク（ちょっと大げさかな）である洋裁で収入を得て、その分で理容師志望の人を雇えばちょうどいい、と思っていたのに、次々と来てもらった都合八人の男女青年は、しばらくいると、ある人は一丁前として独立していき、ある人は結婚してやめていった。やっぱり家族でなければ当てにならないのだ。

幸いその少し前から私は、理容師の資格をとるための通信教育をはじめていた。「亭主が理容師なら一応私も」と思っではじめたことが正解となったのである。洋裁の内職をしながら、レポートを送り続けて二年。夫のインターン生として、店に籍を置くこと一年。やがてやってきた国家試験に、私は学科の方はともかく、（理容師の名誉のためにいうなれば、学科は多課目にわたり、これがなかなかむずかしい）はさみやくしで髪をいじることに、全く

のしろうとだった。

試験場へはモデルを一人同伴しなければならぬから、夫の弟を頼むことにして、前日になっての大特訓。実際に髪を切ってしまったのは、モデルとして失格になってしまいうから、髪をすくっては指にはさんで切る……即ち「指間刈り」のまねをすること幾時間。七・三に分けるけいこも幾十回。消毒法もゆるがせにはできないから、石炭酸やクレゾールやフォルマリンの匂いをかぎわけたり、ピーカーの目もりをにらんだり。もうこうなったら消毒した器具の扱いをはじめ、衛生面での合



理性（これはこの試験で一番重視される）で点をかせぐより仕方がないと、一生懸命頭の整理……。とさんざん苦勞して資格をとったものだ。

試験の合格通知がきた時、嬉しくて一日肌身につけていたのを想い出す。嫁である身が「試験」というものを受ける時、姑の手前もあって、一発合格への願いは切実だったのである。

そうこうして私は、青年達がきてくれたりやめていたりするすき間や、青年がいてくれてもお人手のたりない時、夫の弟子として店に立った。

※

ところが……である。夫はあまり私に仕事を教えてくれないのである。

夫が髪を刈ったり顔を剃ったりの、主な仕事を手早くやれば、補助作業をする私は、それほど手持ちぶさたにはならない。お客様を椅子に案内して、肩にタオルをかけ衿紙を巻き、白い布

で体をおおう。ここまでが「椅子に直す」という仕事。さらに熱いタオルで髪の毛を直しながら、地肌を点検して正しく分髪する。これは「くせ直し」という作業。

夫がこの客の髪を刈りはじめると私は、先のお客のシャンプーをする。クリームやヘヤートニックや、マッサージのサービスを終るころ、夫はあちらのお客の髪を刈り終り、こちらのお客のセットをする。というふうに、夫婦でやっている限り、夫は私に仕事を教える必要はちっともないのである。

第一、うちの店にきてくれるお客様は、ベテランの夫にやらせにこられるのであり、しろうと女房のけいこ材料になりくるのではないから、本命仕事をやるものと、万年助手はまことに合理的なコンビでもある。

だが――

店をはじめた翌年きてもらった少年は、もうとくに一丁前の青年理容師だ。少年がはじめて店にあいさつにき

た日、ちょうど店に出ていた私は、何も知らない少年のっている前で、下仕事ながらさも仕事になれたような顔でふるまったものだ。

※

店員がきてくれたりやめたりすき間だけしか店に出ない私。その上夫はちっとも仕事を教えない、ときているから私はいつまでたっても下準備職人。もっとも夫は、「職人の仕事は見て習うものだ。それだからこそ「見習い」というのだ」ともいうのだが、私は知っている。インターン生としてやってきた少年達には、すぐにちゃんと仕事を教え、少しずつ髪を刈らせていることを。

男の子に（そのころはもう女の子にも）職を習わせようとしてよその店に住み込ませたのに、親方がちっとも仕事を教えないでは、本人も親も承知をしないし、こちらにしたらってその少年

のために、いくらかでも費用をかけているのだから、一日も早く戦力になってもらわなければ……。というわけで、もちろん本人の心意気もあっただろうが、ともかくインターンの少年は見る見る上達して、やがて独立していった。一方、私はといえば、「仕事を教えてくれない」といって夫にすねたりする反面、インターン生達のように、夫が仕事をしている時忠実に傍らにひかえて、その手元を見つめたりする辛抱ができない。少しでも手があくとうすぐに、どったりと待合椅子に腰かけて、新聞が読みたくなるし、店のひまな時には、買物に行ったり、子供の世話をしに家に帰りたいくなる。理容師に一番大切な刃物研ぎにしたって、はじめの間神妙にやって、どうにか研げるようになったのだが、いつの間にかやらそれっきりになってしまつて、切れなくなつたかみそりは夫の前にほつたらかし。インターン生達は、いくら研いでも切れない刃物を持てあまして、ペソをか

きながらそれでもせつせと、砥石をへらし続けるというのに。

私も、これでいいと思つたわけではなかった。甘えがなかったなどは決して思わないが、人生の途中から思いもかけず理容師を志したものととって道はなかなかしんどかったのである。

第一、夫がやってくれそうなことは、夫にやつてもらわなくては、生活する上で、私がやらなくてはならない雑用が多過ぎたのである。

いつまでたつても、理容師○・九丁前の私。「仕事を教えてくれない」などといつてはみるが、つきつめてみれば、やっぱり甘えている私。いいわけのようだけれど、いやまつた方がいいわけではあるけれど、いわせてもらえば大たい、私はこの理容師という仕事に向いていないのである。

夫の方が、職業意識に徹しているからとはいえ、必要より先に、機敏に体が動いてしまうたちで、したがって理容師に向いているのに、私ときたら、



どったり坐ってゆっくり考えてからでなければ、体が動かない方、つまり理容師はともつとまらないたちである。

このような私に、結婚前、母はせつせと洋裁を習わせた。これとても母が私の適性を見抜いた上でのことではなく、たまたまそのころ流行した洋裁を、「縫物のできない女なんて、女じゃない」という思いと、「女の子にも何か一つは身につけさせねば」という思いが選ばせただけのことではあるが。

もともと、習わせたといっても、大それた学校へ入れたというわけではなく、隣の町の小さな洋裁塾に、ほんの二年ぐらい通わせただけのことだが、それでも、そのころの私のまわりの風潮からいえば、大したことであった。

しかも、それからの母はすごかった。それは昭和二十二・三年ごろのことであるから、当然けいこ材料はおいそれとは手に入らない。

塾では、各自が縫いたいものを持って行って習う方式であったから、他の

娘達がどうかすると、友達から頼まれた同じようなブラウスばかり、それも一枚の型紙で縫いつづけていたりする中で、私ばかりは違っていた。

ヘナヘナした手染めのス・フ（戦時中から出まわった布地）ではあるけれど、学童服も縫ったし、やみで手に入れた貴重品の白ネルに、スモッキングをほどこしてベビー服も縫った。うちには子供も赤んぼうもないのにである。ぼろを再生した、名ばかりのホームスパンでスーツを縫った時は、縫代がボロボロほどけて苦労したものだ。

とにかく、塾の先生が「よくもまあ」と感心する程、母は次から次へと目先の変った材料を用意した。同じようなものは二度とは縫わせなかったのである。つまり、十数人の塾生の中で、私だけが月謝を最大限に活用したのだ。

一見、素朴な母だが、現在の教育ママそののかしこさでそれをしたのである。この一事をもって、母は充分尊敬に価すると私は今思っている。余

談だが、教育ママとは本来立派なことだ。女のこととなると擲論せずにはおかないマスコミに、いつまでもからかいの材料として提供しておくことはない。みんなでかしい教育ママになって、マスコミの鼻をあかしてやりたいものだ。

私は、手先の動きは至って不器用な方だし、立ち働きの嫌いなものは洋裁にもまた、向いていないはずなのだが、一枚一枚、考えたデザインを布で実現するのがおもしろく、また、限りのある布地をうまく活用するのがやりがいとなって、なんとか「洋裁のできる人」となることができ、母は母で、娘に一つのことを身につけさせることに成功したのであるが、そのころ、母も私も、将来私が理容師になろうなどとは、夢にも思いはしなかった。（つづく）

（え・松本をきえ）

わいふ家庭科

男女共修

●簡素で健康的な食生活を求めて●

あなたの食卓診断

診断・ダイエットクリエイター
竹内 富貴子

4

聞き手・わいふ編集部
和田 好子

太り気味です、心配です

——今回はお子さん四人という大家族です。付いてきたお手紙によると体重が気になっていられるようで、現在健康だけれどもこんな体重でいいのだろうか。もし食べ方が悪く太る原因になっているのなら、改めたいということなのですが……。いかがでしょう、このご夫妻の体重は？ これでもまだ安全圏ですか。

▼ギリギリってとこですね。体格がかなりしっかりしてる方ですが……。旦那様のほうは中肉よりちょっと肉がついているようですね。

——お子さん方はやせているようで。

▼そうですね。中二の息子さんが少しお小さいようですが、ほかの方はまあまあ……。やはり太っていらつしやるのはご両親だけのようです。

——いかがですか、食事の内容は。太るような食べ方でしょうか？

▼だいたいバターをからめたというのが多いですね。ゆでじゃがいもをバターをからめ、人参も砂糖とバターをからめ、パンにもバターをつけて、お使用になつてゐるようで、だいたい……何となく太りそうなやり方ですねえ。

(笑) バランスとしてはそんなに悪くない。きちんと必要なものは召し上つていらつしやるが、どうも量的に油分が多いようですよ。コーヒーにも、子供さんは牛乳を入れているのに、太つてゐるご夫妻が生クリーム入り。(笑)——やっぱり。(笑)

▼オレンジマーマレードをお使いになつたり……よく拝見するとだいたい間食にアメとかようかんとか、甘すぎるものを召し上つてゐるし、ハム、ベーコンなどかなり上つてますね。

——この方はどのくらい太りすぎているんでしょうか？　ギリギリならこのままでかまいませんか？

▼一六一センチですから私よりちょっと小さいくらいの方ですね。私の今の

体重は四八キロです。(笑) 理想的にい

えばあと五キロ……とまで行かなくても三、四キロ……おやせになるといいですね。これでは標準体重ぎりぎりの上限ですからね。まだ四十六歳でいらつしやるから、これから太りやすくなる年代にさしかかるので、食品の選択の仕方ですとか、し好的に油っこいもの、バターくさいものがお好きなようですから、それをお気をつけになつたら？　パンブディングにもアプリコットソースをかけてゐるし、それ以外にようかんがあつたり、それで夕食後にチョコレートケーキ。(笑)

——お酒もちよつと上つてますね。ビールかなんか……これは旦那様？

▼これは旦那様ですね。

——その上お菓子も食べてる？

▼でもようかんとか、そんなものは召し上つてない。旦那様は朝、奥さんはどパンを上つてませんね。

——それは時間がないのでしょうか。

▼それに夜ごはんを食べなかつたり、

ちよつと奥さんより気を付けていらつしやるみたいです。奥さんのほうが全体のカロリーは高いんじゃないでしょうか。でもお野菜など、三芳村から共同購入なんです。それで無いものはしつうがない、という感じなんです。足りないのは農協や生協で買つていらつしやるが、どうしても野菜の種類がきまつてきてしまふようですね。

——とくに緑黄野菜が足りない……ご自分でも、緑黄野菜を必要量とすることは困難だと書いていらつしやるが、やはりもう少し、青菜など召し上つたほうがいいですね。

——パンにはいろんなものをおつけになるのね。バターと、ジャムと、サーモンペースト……びんづめで売つてゐるものですが、生クリームなんか入つてサーモンがすり身になつてゐるもの。ますますカロリーが上りますね。野菜の種類という問題ですが、なるべくたくさん種類を召し上げれば、自然にバランスがとれてきます。野菜はそれぞれに

| | | | | | | | | | | 6月27日(日) | | | | | | | | | |
|----------------|---------------------------------------|----------|------|-----|-----|-----|------------|-----------|--|-------------|----------------------|-----------|----|-----|------|------------|------------|--------|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | 合計点数 | | | | |
| 料理名 | 材料名 | 概量 | 重量 | 1 | 2 | 3 | 4 | | | 料理名 | 材料名 | 概量 | 重量 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 朝 ミルクコーヒー | 生クリーム さとう | | 20g | | | | 0.1 1.0 | | | 煮た野菜 | 塩・こしょう 小麦粉 バター | | | | | | 0.2 0.6 | | |
| トースト | パン8枚切り バター | 2枚 | | | | | 3.0 0.6 | | | 塩ゆで いんげん | | 80 | | | | 0.2 | | | |
| ハムエッグ 野菜モス | ハム 卵 油 サニーレタス にんじん バター | 少量 | | 1.0 | 0.3 | | 0.2 | | | 人参 じゃが芋 | | 20 100 | | | | 0.1 1.0 | | | |
| サーモン ペースト | | 30 | | | | + | 0.1 | | | たらこ | | 少量 | | | | 0.1 | | | |
| オレンジ マーマレード | | 10 | | | | | 0.1 | | | 大根おろし | 大根 しらす干し | 少量 | | | | 0.1 | | 0.1 | |
| | | | | | | | | | | 牛レバー | 牛レバー 油 | 50 | | 0.8 | | | 0.4 | | |
| | | | | | | | | | | ビール | | 2杯 | | | | | 2.0 | | |
| | | | | | | | | | | ワイン | | 1杯 | | | | | 1.0 | | |
| | | | | 1.0 | 0.3 | 0.1 | 5.0 | T 6.4 | | コーヒー | さとう 生クリーム | | | | | 0.1 | | 1.0 | |
| 昼 コロッケ(市販) | | 2ヶ | 90g | | | | 4.3 | | | みそ汁 | 豆腐 みつ菜 みそ | | | | | 0.3 0.3 | + | | |
| 冷や麦 | | 少量 | | | | | 1.0 | | | | | | | | | | | | |
| トースト (朝の残り) | ハチミツ | 1枚 少量 | | | | | 1.5 0.3 | | | | | | | 0.3 | | | | | |
| | | | | | | | | 7.1 T 7.1 | | | | | | 0.3 | | | | | |
| 間 ケーキ | | 1/2個 | | | | | 2.0 | | | 1日合計点数 | | | | 1.0 | 3.7 | 1.3 | 6.7 | T 11.7 | |
| ポテトチップ | | 少量 | | | | | 0.2 | | | | | | | 1.0 | 4.0 | 1.4 | 21.2 | T 27.6 | |
| 黒あめ | | 1個 | | | | | 0.2 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 2.4 T 2.4 | | | | | | | | | | | |
| 夜 ご飯 | 7分づき米 | 1/2杯 | | | | | 1.4 | | | | | | | | | | | | |
| 紅さけの ムニエル | | 1切 | 100g | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | |

できやすい、ということはいえます。

この献立を拝見すると夕食がいつも同じパターンなんです。ごはんの主菜と、サラダか煮た野菜、それに大根おろしとたらのこと、納豆と……なんかそういうものなんです、付くものがないのも大根おろし。(笑) お野菜もじやがいもとにんじん、いんげん。あとキャベツ、玉ネギ。一つレタスが入って……。一日の食品の数はたくさんあるんですが、食卓の感じが変らない。それはやはり食品の種類が少ないからなんです。わりと四群が多いですね。

——はあ、これはやっぱりカロリーが多すぎますね。(太りぎみの人なら四群は十点以下におさえたほうがよいのに、十三点、十七点など、かなり高い)

▼乳製品の一群が少ないのと、四群が多いというのがこの献立の特徴でしょうね。三群がよくとれているというのは、野菜の量というよりもおいもがかなりあるので点数が上っているという

ことがありますね。

—— おいもは普通とりにくいですが。

▼ その意味ではけっこうですね。

—— 季節的に緑黄野菜が少なかったでしょうかね。

▼ ありましたでしょうね。

—— 菜っ葉がないんですね。やっぱり誰でも菜っ葉が一ばんとりにくいみたいですね。

▼ まあ気をつけてないと……この方にはにんじんを上っているからまだいいんですが、にんじんですとどうもグラッセとか、煮物とか、あまりバラエティはつきませんね。

それから少し間食をお考えにならないと、太ってしまうが……という感じがですね。(笑) 油はよく使っているがそんなにこってりという感じでもないけれど……。トンカツ、てんぷらというわけではなく、気を付けてはいらっしゃるようですが……。

—— 納豆とか大根おろしとかありますでしょう？ これはごはんを食べるた

めじゃないでしょうか？

▼ でも二分の一杯とか、あまり食べてないですよ。

—— ご飯、あまり食べてないですか。よくおかずはおかずで食べてしまい、ご飯は塩からいもので食べるという人がありますでしょう。

▼ そうじゃないですね。この方は……でもご飯の量が少ないわりには、塩からいものが多いのね。

—— そうですね。

▼ 果物も少いですね。間食の一回分くらい、お菓子を止めて果物になさるといいんですけど。間食でいつも一食分くらいのカロリーをとってしまっているんですね。間食がないと総点数が二〇点ぐらいでおさまるんですが。

—— やっぱりちよつとカロリーがオーバーしてますね。

▼ 五、六点ずつオーバーしています。アメとかようかんとかはどうも(笑)

お砂糖ばかりですから……。ポテトチップもよくない。おいもですけど油は

多いし、塩分も入ってますから。黒ア

メにポテトチップにケーキ。(笑) プディングにようかんにチョコレート。

お昼をきちんと上がっている日は間食がないんですね。コロッケと冷や麦と朝の残りのトースト、というような日は間食をしちゃう。だからもうちょっとお昼にいろいろなお野菜とか、おかずを上がるといいと思いますね。

—— 大根おろしにしらす干しとか、なつとう、たらこ……わりとご飯を食べそうなおかずですがネ……。

▼ ご飯のグラム数を書いていらっしやらないんで、正確にはわからないです。すよね。もしかしたら一杯分が意外に多いのかもしれない。

—— お茶碗が大きい？(笑) 麦めしを食べてますね。麦めしというのはいかがなんでしょうか。

健康食品の危なさ

▼ 一割ぐらい入れていらっしやるんですね。どんな麦かによるんですが、精

| 6 月 28 日 (月) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|------------------------------------|------------------|-----|-----|-----|-----|------------|-------|--------|---------------------------------------|-------------------|----|-----------------|-----|------------|------|--------|--|--|
| | | | | | | | | | | 合計点数 | | | | | | | | | |
| 料理名 | 材料名 | 概量 | 重量 | 1 | 2 | 3 | 4 | | 料理名 | 材料名 | 概量 | 重量 | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 朝ごはん | 麦めし | 1 杯 | | | | | 2.7 | (麦1割) | 夜ごはん | | 1 杯 | | | | | 2.7 | | | |
| みそ汁 | 豆腐 みつば みそ | | | 0.3 | | + | | | 肉じゃが | 牛肉 じゃが芋 玉葱 酒・しょうゆ きとう | 80 200 1/2個 | | 2.3 | | 2.0 0.1 | | (バラ肉で) | | |
| 納豆 | 納豆 ねき・ かつお節 | 1/4 パック | | 0.5 | | | | | サラダ | レタス 玉葱 にんじん アンチョビー ドレッシング | 40 10 少量 | | 0.1 0.2 + | | 0.7 | | | | |
| コロッケ | | 1/4個 | | | | | 0.5 | | いわし目刺し | | 小2本 | | 1.0 | | | | | | |
| たらこ | | 少量 | | 0.1 | | | | | たらこ | | 少量 | | 0.1 | | | | | | |
| きゅうりぬか漬 | | 1/6本 | | | | + | | | 納豆 | | 20g | | 0.4 | | | | | | |
| みつばの きんぴら | みつば 油 さとう・ しょうゆ | 10g | | | | | 0.1 | | 大根おろし | しらす干し 大根 | 50g | | 0.1 | | | | | | |
| こんにゃく | | 少量 | | | | | 0.2 | | にぎりずし | あなご・ まぐろ | 2 個 | | | | 1.3 | | | | |
| アンデスメロン | | 中1/2個 | | | | | 0.3 | | さくらんぼ | | 10個 | | 0.5 | | | | | | |
| | | | | 0 | 1.2 | 0.3 | 3.5 | T 5.0 | 梅酒 | | 50cc | | | | 0.8 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 0 | 3.8 | 3.0 | 6.0 | T 12.8 | | |
| | | | | | | | | | 1日合計点数 | | | | 1.1 | 5.3 | 3.4 | 13.1 | T 22.9 | | |
| 昼 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| トースト | 食パン バター | | | | | | 2.0 0.3 | | | | | | | | | | | | |
| ベーコンエッグ | ベーコン 卵 サニーレタス にんじん バター | 1/2枚 1個 1枚 | | 0.3 | | + | | | | | | | | | | | | | |
| | | 20 | 1.0 | | | 0.1 | | | | | | | | | | | | | |
| コーヒー | 生クリーム さとう | 20 | | 0.1 | | | 1.0 | | | | | | | | | | | | |
| オレンジ マーマレード | | | | | | | 0.2 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1.1 | 0.3 | 0.1 | 3.6 | T 5.1 | | | | | | | | | | | |

白したものでしたら、普通のご飯と変りませんね。麦は消化がいいとか、栄養があるとかがいわれますが、ふすまが付いていけば違いますけれど、今おいしい麦というのはいたいてい精白されていますので、もう白米と同じです。だって、米を、米をお使いになれば、同じような炊き方でも栄養的にはB1とかEとかとることが出来ますから。

オートミールなんかどうなんですか？

▼同じです。かえて粉になってしまった穀物というのは、パン、うどん、おそばなど……消化吸収が早いんです。粒の穀物、米、麦とかのほうが、同じ量召し上がるんだったら、肥りにくいです。

パンはよくないのネ。バターもつけるし。

▼この方の場合とはよくないですよ。(笑) バターにマーマレードではね。このマーマレードもきつとノーワックス、無農薬などの夏みかんで作る。

りになってるんだと思いますし、はちみつは何か農園の何々、というようなものだと思えますけれど、結局、もとがいくらよくても、ジャムにして食べればカロリーが高いことは同じですから（笑）はちみつでもお砂糖でも、体に入ってしまえば同じなので、そのへんを、はちみつを使ってるから健康にいいとか、ノーワックスのみかんでなくちゃマーマレードはだめだとかいうことは、そんなに大きな問題ではないと思いますね。それよりは甘いものを食べないほうがいい。（笑）お菓子をやめて果物にするとか、生クリームを使わないで牛乳入りコーヒーを飲むとかいうことのほうが、手間をかけてオレンジマーマレードをお作りになるよりは全体から見ますといいんです。それはマーマレードも無農薬のほうがよろしいでしょうし、手作りのほうが味がいいと思いますが、食生活全体のバランスを考えれば、野菜の種類を増やしたほうがこの場合よろしいでしょう

ね。

——マーマレードというのは、栄養的にはどうなんでしょう。

▼ほとんどビタミンCもなくなくなってますから、香りと味だけで、まあし好品ですよ。手作りでも少なくとも三〇％くらいの甘味は入ってますでしょう、さもないとまたないから……。まあお菓子ですよ。せっかく作るんだったら何か他のものを……という感じですね。

——黒砂糖なら食べてもいいという考え方があるようですが、いかがでしょう。

▼多少ミネラル類が入っているということはありますけれど、それよりは砂糖をとらないほうがいい。（砂糖は栄養的には全くとらないでも良い食品）（笑）そこらへんを勘違いなさると、砂糖はヤレ三温糖がいいとか、黒砂糖は太らないとか、はちみつは健康にいいとか言って、食べれば太るし（笑）食べないより健康に良いということとは

あり得ないですよ。（笑）

——結局食べものを薬扱いするんですよ。

▼魚は紅鮭のムニエルだけ？ いわしの目刺しを焼いてますね。まあお子さんが四人だから、どっちかといえば肉料理が多くなりがちでしょうが、肉が多いと自然にカロリーが上がります。油の種類も魚はコレステロールとか高血圧とか下げる働きがありますが、肉はその逆ですし、また肉料理だと当然バターを使ったり生クリームを使ったということになってくるので、その面からもカロリーが多くなってしまう。まあ、結論としてはこの方の場合、太ってもおかしくない献立（笑）になりつつある。というところでしょう。——牛乳の殺菌の話なんですけど、現在の三〇度を一〇〇度以下にせよという運動があるということですが、その程度の温度の差は意味がありますか。▼今の牛乳はほとんど、粉と水に分けてしまっ、粉で運んできて水で溶い

ているんです。加工乳ですから。

——エー、そうなんですか。成分無調整なんて書いてあるのでも？

▼書いてあっても、ほとんど今は生産地で粉にして、それを溶かして、殺菌して出しているんです。

——生の牛乳と比べて栄養的に問題がないんですか？

▼まあないんじゃないですか。ビタミンCとか入ってませんからね。熱によってそうこわれるというものはないし、たとえば瓶のままで日の当たるところに置いとくというほうがよほどこわれますね。

何がこわれるとか、何が入っていると、あまり細かいことをこちょこちょ言うよりも、全体のことを考えたほうがいいんで、高温殺菌だから牛乳飲まないというより、そういう牛乳だって飲めばそれだけ栄養になるんですからね。飲むか飲まないかの差のほうが問題ですよ。

——ぬか漬をこのお宅では作っている

ようですが、ぬかの農薬というのはどうなんですか。

▼さあ、そのへんはあまりくわしくないけど、少々、という程度召し上がるならいいんじゃないですか。

——たくさん食べたら危ないかしら。

▼それだったらぬか漬止めちゃったらいいで、漬物というのはどちらにしてもそんなにいいもんじゃないから。

——昔はあれでビタミンがとれるなんていいましたが。

▼そんなにとれるわけないですよ。漬けとけば水分に溶けて出てしまうし。まあ、漬物は野菜と考えないほうがいいでしょう。

——塩もみの野菜を食べた方がいい？

▼なんかさっぱりしたものが欲しいのであれば、浅漬とか即席漬がよろしいですね。

——いろいろ誤解があるんですね。

▼たとえば健康食品がこのごろ、たいへんはやりますでしょう？ あのダイエット用のチョコレートというのを見

ましたら、外国品ですが、日本の普通のなら二百円くらいのものが六百円。

ダイエット用と書いてあるのに、カロリーが普通のチョコレートより高いんですよ。

——どうして？

▼入っているものは同じなんです。ただ砂糖が果糖だとか、他の種類の糖になっている。

——それじゃダイエットどころじゃない。

▼そういうものがよくあるんですよ。ビスケットなんかもありましたが、成分は普通のとそう変らないのに、ダイエット用と書いてあると食べてもやるような気がする。(笑)

——食べないのがいちばんよろしいのです。(笑)

「ペットのにわとりなぜ殺す」に答えて

にわとり論議Part II

善法寺保育園

西さんの文章、保育園の保母保父、全員で読ませていただきました。冒頭から、「寒々となって」とあるので、皆思わず「ムッ」。

西さんの文章にこたえて、私達保育園職員一同で意見を出し合いました。結果的には反論という形になりましたがその時の会話をそのままここに書き写してみたいと思います。

職場会議での話

——反論といっても、これ以上言ったって、水かけ論だと思うけど……。理屈の問題じゃないでしょ。これを書いた人は、きつときれないいい暮らしをしてる人だと思う。

——この人の家のトイレは絶対、水洗

トイレ。それもいつもブルーレット（臭い消し）のいい香りがしてたりして……。

——これを書いた人と私らでは階層が違うんやわ。生活意識がまるで違う。

——「ペットのにわとり」とちがうのに。家畜として飼っているのに。ペットでなくとも家畜だって可愛がつて育てるよ。農家の人は、自分達の家畜を大切に育てているでしょ。

——「鶏を殺して食べなければ生きていけない現実がない」なんて。この人にはまるで現実が見えてない。庭先養鶏はまだオレの田舎ではやっているよ。この人は庭先養鶏とか、養鶏場とかまるで自分とは関係のないこととして見

ている。この人の発想は、原発を都会にではなく田舎の方にもっていくという発想と同じや。原発が建つのは田舎で、そのエネルギーを使うのは都市や。都市のために田舎が犠牲になる。鶏にしたって、養鶏場とか屠殺場とかは都市に作られへんでしょ。もし都市に作るとしたら「部落」にもっていく。

——「屠殺場を見せたら」というのが、それこそ子供らはかしわの肉が食べられなくなるんとかがうかなあ。屠殺場とか養鶏場とかは、もっと悲惨やでえ。それに潰す所だけ見せるというのはおかしいよ。日々自分達が世話をする所に意味があるんやから。

——この人は養鶏場の鶏を見たらどう思うやろねえ。

——「にわとりの生きる権利」なんて生やさしいもんじゃないよ。それこそ残酷な飼いをされている。

——そういうものの残酷さは、サラップと発泡スチロールにきれいに包まれて、見えなくなっているんよ。

——これを書いた人の生活というのは、きれいなスーパーマーケットで、サラッパに包まれた魚の切り身、肉の切り身を買って食べ、それできれいに装幀された本を買って読んで満足しているんちがうかな。

——あざらしの童話の引用も、本に書かれてあることなら理解できて、何で私らのしたことが理解できひんのやろ。同じことを言っているのに。あの文章ちゃんと読んでくれたんかなあ。

——いつもきれいなとこばかり見てるから、実際の汚い部分なんて、この人には受けとめられへんのよ。

——「自然のきびしさに比べたら飼って食べるなんて甘い」って。そうやろか。甘いことかなあ。わかってないなあ。決して甘くないでえ。太へんなことやで。

——それに家畜を考え出したのは、きびしい自然を生きぬくための人間の知恵でしょ。

——それで屠殺という人のいやがる仕

事は、「部落」の人間におしつけていったんでしょ。

——書物から学ぶなんて。書物から学んだことはあくまで知識でしかないと思う。実際、オレが鶏を殺した時、血が手にしたり落ちた時のあのむなしさ。その時のオレの気持ちは書物とか写真に写したりとか、童話にしたりとかでは伝わるもんやない。言葉では伝われへんもんやで。この人は余りに「文字崇拜」やで。もっと温い感情があるんや。

——私も日々の保育の中で、書物で子供を変えることはできないということとを痛感してきたでしょ。本はあくまできっかけでしかないのに。

——知識偏重だと思う、この人。今の学校教育に寒々としたものを感じるというってけど、知識ばかりつめ込む能力主義が、学校教育を寒々とさせているんでしょう。実際の体験より書物に書かれてることの方が理解できるなんて、この人の言っていることは矛盾してる。

——にわとりを食べてから後の、うちの子供の姿、見てはしいなあ。

——前よりずっと鶏を可愛がるようになったんちがうか。

——あの子らの可愛いがりようはすごいもんよ。ひよこが水にはまった時なんか、皆で大さわぎしてすごかった。

——是非一度うちの保育園に来て下さいと言いたい。それだけ。果たしてそんな寒々としているかどうか。

……と、皆の話は延々とつきます。

ひと口に鶏を潰して食べるといっても、昨日今日いきなりできた訳ではありません。保育園でこんなことができるまでに六年七年の歳月がかかっています。それを書物に書かれた童話の世界の話と同じ次元で軽く語られてしまったものだから、皆、カンカンガクガクの話となってしまうわけです。

アジアから問い直される

私達の暮し

私はこれまでに、中国、台湾、韓国、

ミクロネシアの国々を訪れたことがあります。日本はまさに近代国家、他のアジア諸国と比べたら、生活のありようの違いが歴然とします。どこも日本ほど都市化工業化が進んでいません。たとえば台湾を訪れた時、次のような体験をしました。

ある町の食堂で鶏の鍋料理を食べた時のことです。店先には農家や行商人から買ってきた鶏が、カゴの中に入れてありました。それを店の主人が店頭で潰して、その場で料理して野菜と一緒に盛りつけて客に出すのです。はじめ、日本人の私達には、鶏の断末魔のけたたましい叫び声が耳につき、ハシを持った手が思わず止まり、ドキッとしました。はじめは何と残酷なと思ったものです。

でもこうした感じ方は日本で生まれ育った中で身につけた感じ方にすぎないのではないかと思います。そうしたアジア各地の農村や都市の庶民の生活を見ていくと、むしろ日本人のそ

した感じ方、意識のあり方の方が異質であるということが見えてきたのです。アジア各地のこうした大衆食堂では、子供達や老人夫婦が一家こぞって働いています。日本であれば、塾通いやテレビ、テレビゲームに時間を費している年代の子供達が、皿洗いや客の注文とりをして働いていました。そのきびきびと働く子供達の姿が、とても印象に残りました。

子供は親の労働を助け、店先で赤ん坊の守りをしながら、子供達同士で遊んでいます。

子供達は、書物からではなく、親や大人社会とじかに接することを通して、自立心や、生きることのきびしさ、人間が共に助け合って生きること学んでいるのです。

私達のくらしは、土や自然や生き物とじかに接することがなくなってきました。人工的なもの、電気製品、石油製品など文字通り血のかよわぬ「冷たい無機物」にとり囲まれ、人と人との

つながりがバラバラにされ、子供達はいやおうなく、人間的な感性を破壊されていく状況においこまれていきます。今の学校教育がどうして「寒々」としているのか。私たちのそうした生活のありようからまず問うていく必要があるように思います。

「わいふ」読者のみなさんへ

西さん、そして「わいふ」読者の皆さん、もう一度私達の前回の鶏の話を読み返してみて下さい。私達の保育園は、卑下というのでなく実際に、設備も貧しく外観も決してきれいな建物ではありません。しかし子供達はそこで、管理でしめつけられることなく思いきり飛び回っています。

鶏を潰して食べたことは、これは私達の保育園生活のごく一断面にしかすぎません。

私達は、今後とも、今の「寒々とした学校教育」に問いを投げかけるべく、試行錯誤していきたいと思っている次第です。

(文 浅野みよこ)

楽しきかな「家事」

原田静枝

「わいふ家庭科」のサブタイトルは男女共修。すでに両性仲良く愛読している向きには、ここにあらためて家事分担を取り上げるのも愚かと思われようが、人生の年輪を重ねると、

「家事をしていてよかった。マイナスは一つもない」と、まことに喜ばしい結果になる。

家事を「意識的に」また「気づいたら五十年」分担している、明治・大正生まれの男性二人の生活振りから、何故に家事は「男子一生の仕事」なのかを探ってみたい。

当然だった

「夫唱婦随」

《荒木家の朝》

六時半、夫そつと床を抜け出し台所へ。静かに朝食の仕度をはじめ。

七時すぎ食卓に並べ終り、湯呑みにお茶を入れるころ、妻起きてきて「お早う」の挨拶を交す。

食事をすませると、妻はゆっくり新聞を広げて読みはじめ、夫は急いで後片付けをはじめ。そして、あわただしく出勤。

毎朝のこの平和な風景が定着するまでには、夫と妻の間に三十年の歳月が必要だった、という。「やらせて欲しい」と無理矢理妻を説き伏せて、三年前やっと手に入れた「家事」なのに、「正直言つてははじめのうちは、のんびり新聞を読む妻に「何だこいつ」／＼と妙に腹が立つ。しかし／＼ついでこの間まで何十年と自分があの姿だったんだな」と思うと、気恥かしさに居ても立ってもいらなかった」

苦笑しながら話す荒木敦さんは、大正八年生まれの六十三歳。昭和十六年

から昭和五十四年三月に東京都杉並区立向陽中学校長を停年退職するまで、軍隊生活四年余りを除いて、中等教育一筋に生きてきた。

その荒木さんが妻に成り代って何故一時期でも「専業主夫」を務めたか、「元校長と家事」について語るにはやはりその生い立ちからはじめなければならぬだろう。

九州男児で役人の父は当然亭主閑白仕える母は家計を助けるために小学校教員を長く勤めた。昔の「女先生」である。給料は男性よりずっと安く、帰宅してから彼女と夫と三人の子供たちの為に、一人で家事を切り盛りしていた。

幼な心に「母は大変だなあ」と思わなかったわけではないが、だからといって働く母親が家事・育児に負担を感じているなど考えてもみなかった。もちろん手助けをした覚えもない。

昭和十六年東京高等師範学校を卒業してすぐ、地理・歴史の教師として四

国の中学校（今の高校）に赴任。まさしく「坊ちゃん」と同じ体験を楽しんでいるうちに△赤紙▽がまい込んできて応召。

中隊長として中国を転戦している間に、何度か死ぬ覚悟をする時があった。「ああ、これで俺たちは日本の女性を妻にすることなく死んでいく」

戦は天皇のためではなく大和撫子を守るため、という空気が若い兵隊にはあった。このことはいまでも続いている戦友会に出席すると必ず話題になるという。

昭和二十一年、やっとの思いで帰国した荒木さんは眼を疑った。命をかけてまで守ろうとした大和撫子たちが、アメリカ兵と腕を組んで街をかつ歩いていたのである。

「平和になった日本の未来には希望を持っていたけれど、女性に関してはもう絶望的気分でした」

家に籠りがちな毎日を送っていたある日、△この荒廃した世の中で、五人

の娘に昔ながらの良妻賢母教育をしている父▽という新聞記事が、荒木さんの眼に飛び込んできた。

「これだ！」

ピカッとひらめいて、一面識もないその家を訪ね「お嬢さんをください」。

「長女はすでに縁談成立、式を待つばかりです」

「それでは次のお嬢さんを……」

「次女もいま話がきていてダメ。そういえば、三女はまだ空いているがどうだ？」

というわけで、とんとん拍子に結婚へと進んだ。

以来三十四年、三女の節子さんと連れ添い、三年前までは文字通り「夫唱婦随」の結婚生活を送っていた。子供が生まれなかったので、妻は幼稚園の先生として働く毎日。

かつての母に対してと同じように、仕事から帰った妻が家事一切手がけることに、夫として何の疑問も抱かなかった。

教育界に變化が

起きた

教師として、戦後の混乱期を独自の理念で押し通し、あの・教科書に墨を塗る・という作業も生徒にはさせず、ガリ版刷りの手作りで授業をしてきたが、やっと世の中が落着き、その後訪れた高度成長の中、妙に生徒たちの様子が気になり出した。

それまで体育の見学者は女生徒に多く、休み時間に教室の窓から外を見上げていたのも女生徒、というのが常識であったのに、それが逆転したのである。

プールの周りに座りこんで見学している男子生徒たち、校庭で飛び回っている元気な女生徒たち。つまり教師として生徒を眺める風景が一変してきたのだ。

そのうち骨折する生徒が増えはじめ、ノイローゼ、登校拒否、自殺、非行と続出し、職員室の空気にも変化が見ら

れるようになった。

母の・女先生・時代には考えられなかったほど職員室には女性の姿が溢れ、男女同一賃金になって一見教育界は男女平等だ。しかし、男の先生たちは「やれ生理休暇だ、出産休暇だ、育児休暇だ」と女たちは休んばかりいる。その分こちらにしわ寄せがきてかなわない」と文句を言う。片や女性たちは「職場は平等でも、家に帰ると家事、育児の負担がかかってきてとても疲れる」と嘆く。

生徒たちの変化と男性教師対女性教師のトラブルを、荒木さんは「おおよそ教育とは反対の方向にいつてしまう」と感じた。そしてだんだん「これは男女の結びつきに関係あるのでは？」と思うようになっていった。

昭和五十四年三月定年退職。激務からの開放感を味わったが、逆に体の調子が心配になった。「健康のために何かしよう」と周囲を見回し、ふと「現役のころ気がかりだった男と女のかか

わりを説明するには、女房と立場を覚えてみることはないか」とひらめいて、「専業主夫」を申し出る。

突然の話に妻は驚き、猛反対。尊敬する父から良妻賢母教育を徹底的に受け、長年その教えを守り続けてきた妻には夫の意図がつかめない。やっとのことで出された条件は「家事をする姿をご近所にさらさない」ということ。

それから二年、じつくりと専業主夫を体験した。

しかし初めての家事は何から手をつけていいかわからないの連続で、妻から「ここもやってない、ここも……」と教えられながら少しずつ身につけた。トイレの掃除・床の間・窓の棧を拭くなど「妻が毎日こんなことしていたなんて思いもよらなかった」という。

積極的に家事を担当、とスタートしたにもかかわらず、はじめの半年間は「男の沽券」と戦わなければならなかった。「男のオレがこんなこととしていいのだろうか？」と自問自答の

連続で、この時期が一番苦しかった。一年たつと気持ちも落着いて、二年目はあれこれ工夫しての楽しい毎日となった。

すばらしきかな 精神解放

世間態が悪いからと許されなかった買物と洗濯もの干しを除いて、すべての家事を手がけた荒木さんは、家事を通して、人間が生きることについて次のように考えたという。

まず後始末ができないと、人間が人間らしく生きられない。自然界がそうであるように、人間の社会も生産・消費・後始末で一つのサイクル。その中の一つでも欠けると社会は循環しなくなる。

だから生産・消費にばかり目を向けて、後始末に価値を置かないことが人間を狂わせてしまった。長い間男たちは「生産することが使命」とばかりにつつま走り、後始末を男の不名誉と考え

て女にそれを押しつけた。生産から身を引いて（定年後）家庭に在る男たちが「粗大ゴミ」呼ばわりされるのは自業自得であること。

そしてこの社会の主役は男性、女はあくまでその補助者として子を生み、男の身の回りの世話、性欲のはけ口でしかない、と決めつけてきたことが対等な人間関係を育てられず、本当の恋愛が生まれなかったのではないか？

荒木さん



男女の協力のもとに築き上げてこそ文化も育つ。それを怠ったがために教育の世界にも「ゆがみ」が生じたのではないか、ということ。

「女は後始末をする習慣がついているので社会を狂わせない。それに引きかえ男は野放し、暴走族だ。いまでも事あるごとに『やっぱり女はだめねえ』と非難されるが、それは違う。今までいかに女たちがゆがめられてきたか。そこを見つめなければ解決しない」と、断言する。

いま、荒木家には専業主夫も主婦もない。幼稚園を退職して八声のボランティアVに生き甲斐を見つけた妻と、保育専門学校の専任講師として再就職した夫との「家事分担」。だから冒頭の朝の風景がすっかり定着している。

「父親を敬愛しているのはいいことですが、それだから妻はいまだにボクの家事に抵抗がある。そうわれわれ夫婦は理論的には対立です。しかし誰だって三十年も一人で家事をしていたら飽

きがくるでしょう？ 言葉には表わさないがボクの分担を喜んでいるのがわかります」

夫は、家事から解放された妻が楽しそうにしている姿を見て、「家事をやって本当によかった」と思う。自分が生活自立できたということで、妻の精神も自立する、と知った。

「ボクたちは、いま非常にフレッシュです。大きな声では言えないが、夫婦生活まですっかり変ったのです」

と、青年のような喜びを全身に表わす荒木さんだ。

若い世代に

伝えてゆきたい

四十年に渡る教員生活と、その後の家事にかかわってきた経験から見えてきたものを講義内容として、男性と女性の問題を追求する『人間関係論』、これが保育専門学校での荒木先生が担当する講座名だ。

はじめのうちは「こんな話が意識の

高いといわれる若い世代に受け入れられるのかな」と不安であった。家事分担などいまごろ何を、と言われそうだという心配もあった。

ところがある日、講義のあとに書かせた感想文を読んで驚いた。女子学生の意識が旧態依然、妻のそれと少しも違わないことがわかり、またまた考えさせられてしまったのである。

六割の学生が「社会のしくみや家事分担が男女のかかわりにまで及ぶなんて、いままで教えられたことも考えたこともなかった。いまから取り組んでみる」という答え。

二割は「今までの男女分業が本当の姿だと思う。私は愛する男性と結婚して家庭に入り、尽せるだけ尽したい。先生の考えには反対です」

一割が「そんな話、われわれの専門に関係ないじゃありませんか」

最後の一割が「当然です。先生ももっと積極的に行動してください」と、非常に意識が高い。このグループはそ

の後、女性問題の新聞切抜きを持ってきてくれたり、集会・講演などに荒木さんを引っ張り出して刺戟を与えてくれる。

しかし男女の役割分業を当然と思っている八割の女子学生を、荒木さんは責めることはできない、という。

「なにしろ小さい時から男と女は別のもんとして育てられ、家庭の中の父と母の姿をずっと見てきて、知らず知らずのうちにそう思い込まされてきた」

その彼女たちに、ここで考えさせることができればどんなにいいか。いざれ保育の場に仕事を不得いく彼女たちには、特にそれが必要だと思う。

荒木さんの家事体験がある新聞に掲載されてから急に身辺騒々しく、

「後に引けなくなつて無理をしている。いづれ音を上げるさ」

「元校長の肩書きがマスコミの格好の話題になっているのでは……」などなどの声も聞こえてくる。

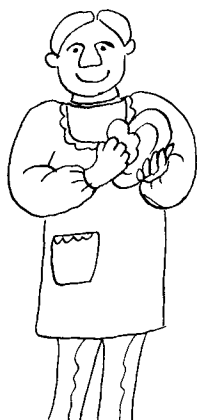
しかし荒木さんは家事が楽しくて楽

しくて、「人間として蘇生したような喜び」を味わっているのだ。職員室でのお茶汲みは、また新たな体験だが、「雑務は年をとっての大事な仕事、体いいし周囲が喜んでくれる」と笑う。女の園の数少ない男性として何の抵抗もなくやっているお茶汲みも、同輩の女性たちには驚異。しかし妻とのかわりでのように「ボクの入れたお茶を何気なく『ありがとう』で飲んでもらえる日がいずれは来る」と信じている。

いつの間にやら

家事分担

意識的に家事とのかかわりを持った荒木さんは、それが夫婦の関係に大きくプラスしたのであるが、結婚生活五十十年の鈴木薫（七十六歳）・千代（七十四歳）夫妻は、若い頃から「家事分担」。外を歩くとき、どちらからともなく手をつなぐ習慣に、周囲の人がみな笑うほどの仲の良さ。



東京・世田谷のお宅を訪ね、家事分担のきっかけを聞いてみたのだが、あらためての質問にはじめは戸惑い気味であった。

「はっきりした意志でやったわけじゃない。いわば、自然体でつてところかな」

とは夫の薫さん。

「手をつないで歩く、なんてどちらのお宅でもそうでしょう？」

と、困ったような表情の千代さん。

話している間にも夫の方がすーっと立ってお茶を入れたり、果物の皮をむいたり。と思うといつの間にやら妻の姿が台所へ、といった具合。それが少しも不自然ではない。「なるほど」と感心する。

ポツリポツリと話されたことをまとめてみると、二人は千葉県に生まれたが新婚生活は京都。昭和九年当時、関東から関西へ移り住むことは、いまだは想像できないほどの大変化だった。

夕方魚屋の店先に立つと、見たこともない魚がずらーと並んでいる。聞いてみたところで、言葉が理解できないのだからわかるわけがない。長い魚（鱧）や赤い色の魚がうらめしかった。故郷の青身魚が恋しい、関東のねぎがなつかしいと思った。

以来買物は夫に頼る。独身の銀行員として一足先に京都在住していた夫は帰宅の途中、まめに買物をしてくれて、休みになると連れ立って市場に出かけ、必需品を整えた。異郷に二人っきりの想いが強いから京都の寺々を散策するのも手をつなぎ、何故か声を揃えて讃美歌を歌いながら歩いていたことを思い出す。

頼れるのは夫であり妻である。その時のいたわり合いが、今日までずっと

同じトーンで続いている。十二年ほど前、妻の千代さんが入院生活を送ったときも家事の一切を夫がやってくれるので「安心して病気をなおせました」。

いまも特別なきまりはなく、お互いが好きなように家事をやっている。しかし足が少し不自由になった妻のために、買物だけは毎日欠かさず夫の役割だ。商店街の人たちともすっかり顔見知りになり、世間話をしながらの買物は楽しい。

具合のよくない妻が台所に立つてくると追い出して一人愉快に料理もしてみせる。糖尿の出た妻の食生活管理も夫の方がはるかにうまい。

こう書く「病弱の妻をいたわる健康な夫」のイメージだが、夫も昨年心筋梗塞を患って命拾いしたばかり。いつまで生きられるかお互いわからないのだから、助け合っていこうという。

「若いときから家事に慣れておくといざの時あわてなくてすみますよ」

最近肉屋で見た光景——「妻が風邪



で寝込んでやって……。何を作ったらいいか教えてくれませんか。それから野菜はどこに売っていますか」と店員に聞いている初老の男性——が薫さんは忘れられない。男たちは商店街のシャッターが下りている早朝に出勤して深夜帰宅、ではどこに何屋があるか知るはずもなく、妻に寝込まれておたおたする。

「とても気の毒になったけれど、これも因果と思うねえ。妻が元気で夫の後を看取ると保証されている夫婦なんてどこにもいないのに……」

シンも手がけるほどの家事ベテランでさえ、その昔子供のおしめを絞ったまま干して「縄がかかっている？」と妻を驚かせたこともある。経験を積

み重ねていつてはじめて「パンを焼かせたら天下第一品」と妻や子供たちをうならせるようになるのだ。

*

夏休み前の子供達が学校から持ち帰る「お便り」には、必ず「家のお手伝いをしましょう」(小学生)、「家族の一員として積極的に家事に参加し、働く価値を認識しよう」(中学生)と書いてある。

ところが二学期の父母会に行くと、これまた必ず「お手伝い」が話題になり、「やっぱり難しいですね」「男の子ですからはほどにと思ひまして」などという母親が現われる。

家事の主導権を握っている母親たちは、学校側からの宿題に従ってはみるものの、子供に家事を「してもらおう」意識だから遠慮したり、手際の悪い仕事振りにイライラしたりで、早々と宿題を子供と一緒に放棄してしまうので

はないか。

『家事は手伝うのではなくするものである。子育てには男女を問わず生活技術を身につけさせて社会に送り出す親の役目が含まれているのだから……』と聞いたことがある。確かに学業だけでなく生活技術を身につけておくことは、荒木さんの言うように、後始末の大切さを知っている人間になれるのではないか。

荒木さんは「男性が牛耳っている現代社会のあらゆる面で、行きづまりやあがきの様相がみられるが、それは人間として根無草になった男性が暴走した末路の姿といえないだろうか。この

修復のため、女性の活性化、社会進出、女性解放運動が、天のなせる業としてあらわれてきた」という。

確かに私もそう思うが人間として根無草になった男性、彼等を育てたのはその母親たちでもある。幼ない頃から「男の子」というだけで家事から遠ざけられ、家事がどんなものかを知らずに育った彼等を責めるのは酷だ。

また最近家事を趣味化して一人楽しむ母親も増えている。こうなると、たとえ娘でもその領域に入るのはタブーだから、家族は遠巻きにその趣味を眺めているばかりとなり、根無草はますます増えていくようだ。

鈴木さん



この九月十日、東京・新宿文化センターで行われた、「女の自立と老い」を考えるシンポジウム」の分科会、
『家庭の中の老い』で話し合われたことの多くは、男性老人の生活自立のなさである。

鈴木さんの話にあったように、統計上は女性の方が生き残る率が高いのはあるが、妻に先立たれる夫も大勢いる。そうなった場合の、夫はお茶一つ入れられず嫁や娘・介護者の手を待つばかり。私は発言者の一人の「何もできない夫にした妻であった母を憎みます」という言葉が非常に印象的であった。

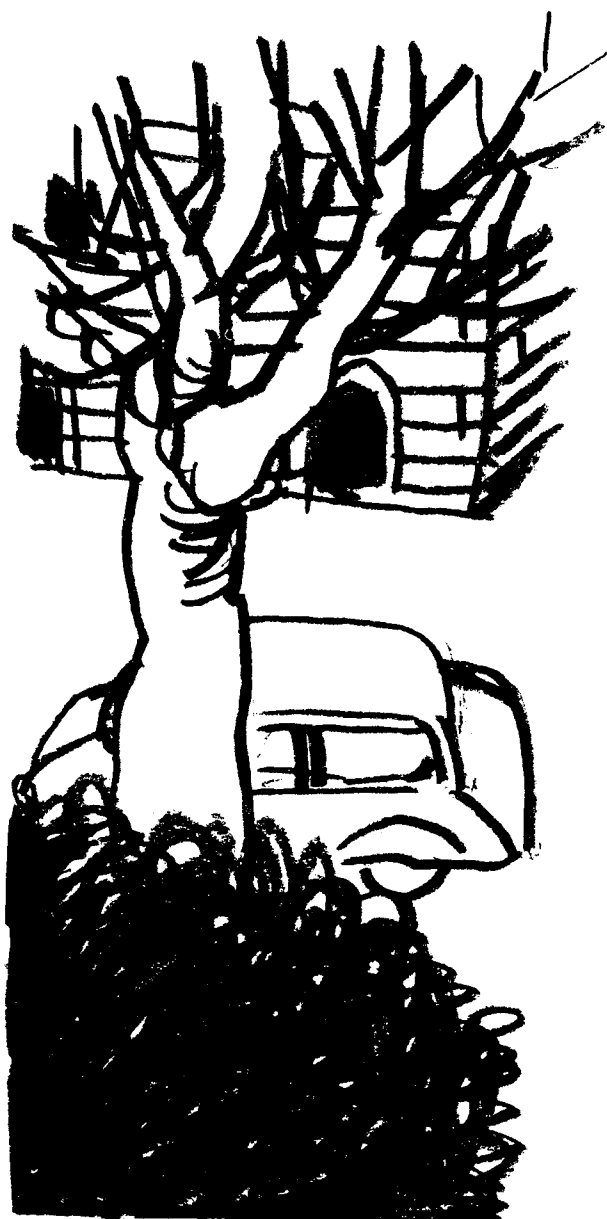
家族が不幸な人生を歩かないために夫は夫の「家事」を、妻は妻の「家事」を、そして子供たちはそれぞれの「家事」をしていきたい。

何より「家事分担は夫婦の和合のもとである」という嬉しい結果も知ったのだから……。

(元・松本をきえ)

人形の家を出でて

木下 律子



人形の家を出でて

去年会ったときは長く垂らしていた髪を、彼女は機能的なショートカットに変えていた。「美しき人形の家」（一七四号）のひと押尾れい子さん（33歳）と再び会うことができた。

あのとき、彼女は大手商社の社宅に住み、そこでの女と子供の暮しに疑問を感じて、共同保育などの活動に参加、そして周囲から異端視されながら、産休補助教員として働き続けていた。

彼女は今も同じ町に住み、同じ仕事をしている。変わったことは、社宅を出て独身女性になったことだ。れい子さんがまだ社宅で共働きをしていた時点から、この話は始まる。

夫は海外へ

恐れていた転勤発令の日は意外に早く来た。行き先は東南アジアのある国の首都。上司からは二年間で本社に帰れる予定と聞かされた。当然、家族を連れて赴任するものと思われている。

彼女は、子供と一緒にここに残ろうと考えた。二年のちに一家そろって暮せるものなら、自分の仕事や地域活動を手放すことはないだろう。そう夫を説得し、しぶしぶながら承諾を得た。

だが会社には、海外勤務は妻を同行すべしという方針があり、寝たきりの姑の世話をしている場合や、進学期の子供がいるケースだけしか例外を認めていない。妻の仕事と活動を続けさせるため単身で赴任したいなどと言ったら、精神に異常をきたしたと思われることだろう。

ちょうど長男が小学校に入学しようとしていた。これが進学期といえるかどうか疑問だが、口実に使えるのはこの子しかない。大切な時期だから、二年間のことなら日本の小学校に入りたいと申し出て、単身赴任が認められる。社にとっては異例といってもいいケースだった。

受験生をかかえてるわけでもないのに、あの奥さんはついていけないそうよ、とまたれい子さんは、社宅の話題を集めるはめになった。

さて、夫が出立する日。タクシーを呼んで家族だけでそっと出発するつもりであったが、階段を降りて外に出ると、社宅の奥さんがたが続々と出てきて、「がんばってきてください」とあいさつする。

空港に着いてみたら、夫の上司や同僚が見送りに来ていた。あの支店は誰それがいるから大丈夫だよ、君の仕事のあとはこう処理するからね、といった会話の輪の中に夫は包まれ、部外者のれい子さんは黙ってひ

かえているしかなかった。塔乗の時間が迫ってきてても夫と私的な会話をするきつかけがつかめない。家にいるときにもう何度も言ったことだけど、もう一度視線を合わせて「水に気をつけて」「お酒を飲みすぎないで」と言いたいと思い、彼女はイライラさせられていた。

前に社宅のなかで聞いたことがある。海外へ夫を先に送り出すとき、空港では夫婦での会話なんかとんでもない、奥さんは会社の人々へのあいさつに手落ちがないよう気を使って、陰でひっそり見ているだけよ、と。

まさにその通りになろうとしていた。入隊する男性を送り出す光景を彼女は思い浮べる。手柄をたてて来いよと、日の丸の旗を振りにかけつけた人々の接待に妻は追い回され、二度と会えぬかも知れない夫に私的な感情を表明することもなく、別れのときがくる。

欧米だったら、こんなとき夫婦は抱きあってキスすることだろう。日本では、今なお人前で男が妻への思いを見せるのは、めめしくはしたくないことなのかもしれない。

夫は会社の人々の「がんばってやってこいよ」の聲に送られゲートに入ろうとした。すると、夫の下でアシスタントの役についていた女子社員が、かけよって

涙をポロポロ流した。

これを見ていたれい子さんは、頭をガーンとなぐられた思いがした。決してオフィス・ラブというような意味ではないが、毎日妻よりもずっと長時間夫と接し、一緒に苦労してきた女子社員は、夫と強い精神的な結びつきを持っている。自分と夫との間には、これに匹敵するほど一緒に生きたといえる蓄積があるのだからかと疑った。

小さくなっていくジェット機を見ながら、夫はもう会社に奪われてしまった、と思えてならなかった。

任地に着いた夫から手紙が来た。

——他人である部下の女の子でさえ、あんなに別れを惜しんでくれたのに、妻である君は何とひやかだつたことだろうか。

夫も、空港での別れかたに不満だったのだ。だけど私の立場をちっともわかっていない。会社のことばかり話している雰囲気の中かで、妻がどう取り乱すことができただろう。同じ光景を見ても、ふたりのとらえかたがちがっている。女子社員の涙によって、夫は妻としての思いやりの不足を言いたてた。妻のほうは、自分たちの関係の貧しさを読みとっていた。

妻の会社訪問

人形の家を出て

この会社では、海外勤務を命ぜられたとき、まず本人だけが先に出発し、家族があとから追いかけていくのが通例になっている。夫を送り出した直後、「出立に際しては大変お世話になりました」と妻が会社へあいさつに出かける習慣であった。

勝手に夫を遠くへやっておいて、何でもこつちがお礼を言いに出かけなきゃならんのだと彼女は不服だった。だが、夫の任地へ出張に出かける同僚から、何か届けものでもあればことづかっていきますと声をかけてもらったこともあって、都心の会社へ出かけていった。

通されたのは、社の応接室。そこらの家具屋では見ることでもないようなしゅう入りの豪華なソファに座らされる。周囲の壺や置物をながめ、財閥系の企業は戦時中に中国の骨とう品をワンスと持ち帰ったそうだけどもこれもそうかな、と余計なことを考えた。

夫の上司に通りのあいさつをしたあと、夫の赴任地は、治安の面では心配ないのでしょいか、と聞いてみた。それから、二年間というお話でしたが、それ以上延びたりしないでしょうかとも尋ねた。夫のことが心配だし、一家そろって暮らせる見通しもほしいし、率直に話してみただけのことである。ところが、この会話が、あとで大評判になってしまった。

——あんな奥さんは今までひとりもいなかった。治

安がどうだと会社の方針に疑問を持つようなことを言ったり、いつ帰してくれるのかと、社員でさえ口にしえないことを聞いた。あの性格では、亭主についていけないと我を張るはずだ。まったく、しっかりした奥さんだよ。

会社で「しっかりした奥さん」といわれるのは、「悪妻」と同義語である。彼女の率直さは、上意下達の企業の体質と相入れないものであった。社員の妻たるもの、亭主がどこに送られようが、だまってついて歩いて内助をつくしていればいいのだ。家庭には家庭の都合があるんだから、約束通り夫を帰してくれなきゃ困るんだけど、などという態度は、家庭と会社を対等の位置に置こうとするものであって、神をも会社をも恐れぬふるまいと受取られていた。

夫の海外赴任直後の会社訪問というのは、妻たちにとって緊張に満ちた晴れがましい儀式とされているものであったらしい。夫のカゲにいろべき人間が、この日だけは会社の大切な客としてもてなしてもらえただから。

よそいきの服をまとして一分のスキもなく着かざり、会社のおかげで私どもは幸せに暮らせていただいております、というような恭順の意を全身で表現しなければ、儀式は成立しない。れい子さんというと、仕

事と活動と子育てにとびまわっているうちに簡素な服装で通す習慣になっているから、——ジーンズ姿での訪問を済ませたのである。

社宅に残った母子三人の暮しが始まった。学童保育クラブと保育園に通っている息子たちは、夕食と入浴をすませたあと八時には眠ってしまう。家事をササッと片付けてから、長い夜をじっくり読書して過ごす。

不思議なことだ。フルタイムの仕事をして、小さい子らの汚れものをどっさり洗って、こんなにゆとりのある時間を過せるとは。何かに熱中しているとき、夫に言いつけられた用事で中断、というのがないせいだろうか。彼女は、時間を自分のものにして使いこなす快適さを、結婚してから初めて味わっていた。

子供たちも、おはしや茶わんを食卓に並べたり、汚れた食器を流しに運んだり、能力に応じて家事を分担している。母と子の自律的な生活スタイルが着々とつくられていった。

海のむこうにいる夫は、快適とはいいたい生活をしている。仕事でもイライラすることが多いらしい。届く手紙には、妻への批判が書きつらねてあった。

——なぜオレは、こんなさびしい生活をしなければならないのか。これは君のせいではないか。

任地でのつらささびしさの元凶は、妻であるお前だといったげである。夫と妻との往復書簡は、生きかたをめぐる継続討論といった色彩を帯びてきた。

彼女にとってもうひとつの心配は、父親と離れてくらすことが、子供にどんな影響を及ぼすかということだ。パパに手紙を書くおね、と子供たちをうながし、つながりが断たれないようにと気を配る。

だが日が続つうちに、驚くべきことが見えてきた。父親の不在が、ほとんど子供の心にひびいていない様子なのだ。

これまでの父と子のつきあいかたをふりかえてみる。遠距離通勤のモータリ社員である夫が帰宅したとき、たいてい子供は寝ていた。起きていたとしても、子供のはうへは行かずまっすぐテレビのスイッチを付けに行き、横目で見ながらネクタイをはずしていた。

子供と遊ぶのは好きではない、とはっきり言い、妻の演出なしでは子供と接触しないタイプの父親だった。日曜日、寝そべってテレビを見ている父親のそばで、子供までゴロゴロするのが気に入らず、お天気がいいんだから、あんたたちとパパとで散歩してらっしゃいと強引に追い出したものだ。そんなときも、ゴルフ番

人形の家を出でて

組が始まる時間だからと、あつという間に帰ってきた……。

主体的に子供とつきあうことをしなければ、血のつながりがあるって同じ家に住んでいても、父親として子供の内面に入りこむことはできないものなのか。

突然の帰国

それぞれの思いを抱いて暮すこの一家は、やがて予想もしなかった事態に直面する。

夫に突然帰国命令が出た。赴任してまだ八カ月、彼は仕事といえるほどの仕事をしていない。急なことで帰りぎわに観光地を回ったり特産品を買い集めたりするゆとりもなく、本社へ戻されたのであった。

どうして夫は、こんなに早く帰されたのか。いろんなところから入ってくる情報によって、れい子さんはこう推測する。

——家族が同行しなかった場合、予定よりも早く帰されるケースがいくつもあったと聞く。自分と子供があとから追いかけていって現地に落ちつくようなら、五年でも六年でもあちらで仕事させる腹づもりが、上司にあったようにも感じられる。会社を訪問した際、あの奥さんではついて行きそうもないと判断されたの



ではないか。現地で夫はイライラしがちだったから、「女房が世話せずには男は一人前の仕事ができぬ」という社風と照らして、やはり単身で来るヤツはダメだ。外国では使えないと判断され、はやばやと帰国させられたのではないだろうか。

夫の解釈は、妻とはちがっていた。

——オレがあそこが必要だから行ってくれと頼まれてオレは行ってやった。なのに現地のダメな連中は、この有能なオレを使いこなすことができなかった。仕事もさせずに帰されるとは不当だ。

会社の決定は、闇の中で行なわれるものだから、本当のところはどうだったのか、永久にわからない。

ともかく、夫は帰ってきた。一家四人そろって暮すようになったのだが、家の中がどこかギクシャクしている。

たとえば、さあど飯の用意をしましょうとれい子さんが声をかけると、子供たちがサッと手伝い始める。母子三人の時期に築いた、みんなが協力して家事をする光景がそこに現れる。そんなとき子供が、パパってどうして何もしないの、と言うと、夫は不快さをあらわに顔に出し、ムッと黙りこむ。そんな態度は大人げない、手伝わらないなら手伝わないなりに、当意即妙の返事をして、その場を切り抜ければいいのにと彼女は

思う。夫の、子供とのコミュニケーション能力の不足を感じさせられるのだ。

夫のほうも不満である。妻が子供にあんなことを言わせていると彼は思う。オレはさんざんつらい思いをして帰ってきたのだから、暖かく包みこんでくれる家庭にしてくれてもいいではないか。

子供を預けて働き始めたころ、夫婦ゲンカをくり返して、夫も少しは家事に参加するようになっていた。洗いあがった洗濯物をベランダに干せるところまでできていたのだ。しかし東南アジアで広い住居に住み、二、三人のメイドを使う生活をしているうちに、自分の出した汚れものは、召使いがきれいにしたりあたりまえだとする感覚が身についてしまった。ささやかな自己変革は、あとかたもなく消えうせていた。

生身の夫はどこに

ある夫婦が別れに至ったとしても、これこれこういう事情で離婚しましたと、明確に言葉にすることができないものではない。人間関係のなかの言葉にならない部分が、地殻を動かすように作用しているのかも知れないのだから。

ただ、現象面においては、この単身赴任がれい子さ

人形の家を出でて

んたちにさまざまな影響を与えた。

夫には、どうしても妻を説得したい一点がある。

——もう海外へ一人で行くのはごめんだ。今度は絶対一緒にいてこい。

——一緒に行ったとして、私がいまやってる仕事や活動が続けていく場があるんですか。

——とにかくついてくればいいんだ。君の生きがいだの何だのは、オレの知ったことか。

彼女は、夫と自分とがどの点でお互いが必要としているのか見きわめねば、もとの日常生活にもどりたくないと思っている。といつても女の自立のために何が何でも突張ろうという姿勢ではなかった。今持っている固有の人生を手放し、サイの河原の出発をするとしても、夫の心の中に、自分の生きかたに寄せる共感があれば、転勤先について歩く生活をしたかも知れないところが、夫との生活を続けても、自分に残るものは何もないのではないかとさえ疑うようになっていた。

——お前はあれこれ言うが、オレは会社の批判はしない。ここで出世したいと思ってるんだから。そのために、家庭がこんなふうに自分を支えてくれることが必要だ。君にはこうしてほしい。

彼女は生身の夫と向かいあおうとしているのに、目の前にいるのは、わが社の方針を力説する企業人だけ

だ。夫の背中の上しろに、上司がいる、あの都心のビルがある。個人としての夫といつまでも出会えないもどかしさがあった。

夫の帰国から一カ月ばかりのうちに、彼女は別居を決意する。良識派タイプの人が聞けば、彼女は性急すぎると批判することだろう。ただ忘れてはならないのは、夫婦が同居しているというのは、性生活を共にするということだ。話を通じず、心が融け合わないままに、身体だけの結合を求められる生活に耐えられない女性もいる。彼女は、同じ部屋に夫が入ってこない安全地帯へ行くことを強く願っていた。

社宅を出る法

別居するとなれば、れい子さんは社宅を出ていくことになる。夫も、妻に去られたまま社宅にとどまることなどできない。

ひとまず一家そろってどこかへ引越し、そこから夫一人が出ていく形にしなければならなかった。彼女は、仕事と子育ての都合を考えて、学童保育クラブに近い場所に、2DKの民間アパートを契約する。

そうして社宅を出ていくのが一苦勞だった。彼女は社宅の中に無農薬野菜のグループを作っている。あと

に迷惑が及ばないよう、グループの一人に社宅を出ることを話したところ、あそこは共働きだからマイホームを買ったらしいと評判になってしまった。マンションですか、一戸建てですかと見当ちがいの質問を受けて、しかたなくあたりさわりのない返事をする。

「いいえ、共働きの都合で、子供を預けている場所に近いところへ移るだけです。おんぼろアパートなんですよ」

相手はけんそんだと受取って、全然信用しない顔をする。ところで、この会社では、早く家を買った社員はにらまれるのである。どこへでも派遣できるように身軽であることが求められ、とくに、一戸建ての購入はさしひかえさせる空気があった。若い社員が庭つきの家を買ったとたん、遠くへ転勤させる見せしめ人事がしばしば行なわれていたから、その意味でも関心を持たれたのだ。

世間には、押しつけがましいほど強引に持ち家政策をすすめる、ローンで社員の忠誠心を確保する会社も少なくない。社風によって、「家を建てるようなヤツは男じゃない」から「家も建てられないヤツは男じゃない」まで、価値観はさまざまである。

さて社宅を去るにあたって、五十軒全部にあいさつ回りをする不文律がある。一軒チャイムをならすたび

に、どこにマイホームをお建てになったのですかとやられては、ただでさえ疲れている神経がもたない。彼女はあいさつ状を印刷し、品物と一緒にポストに入れておく方法を使った。

そこに刷られた新住所が、「〇〇荘」とアパート然とした名になっているのを見て、社宅の住民がどんなとりざたをしたのか、それはここを出た彼女には、もうどうでもいいことであつた。

貧乏くじの経済学

夫も妻も新しい住居を借りるのだから、経済の問題に突きあたらないわけにはいかない。

彼女の夫は、はっきり言って浪費家であつた。収入は一円残らず使ってしまう人物である。妻が産休補助の教員として収入を得るようになったら、それをあてにしてますます金使いが荒くなった。

飲み屋に何十万円の借金をこしらえ、一回分のボーナスをそっくり持っていられる。部課長クラスなみに、ゴルフにお金をつぎこむ。

これは矛盾ではないかと彼女は内心思っていた。女は家にいるべきという考えを変えずにいて、妻の収入に平気で頼るのはおかしい。そういう思いを彼女は決

人形の家を出でて

して口にしない性分だった。女の自分だって一家の生活費を半分稼ぐ責任があるはずだから、これでいいのだと思ってしまう。自分が夫に干渉されたくないから、自分も夫にそうするまい。ゴルフに大金を使いたがっても、それが夫の欲求であるなら、かなえてあげようと考えなのだ。

彼女の生真面目な理想主義は、ちっとも夫の浪費癖の抑止力にならなかった。むしろ自立度ゼロの妻が、実家や仲人のところへかけこんで泣きわめいたほうが、彼のような男性には効果的だったのかも知れない。

単身赴任の際も、生活費をいくら送ると約束していたのだが、すぐにその額を下げられてしまった。半日パートの主婦の月収程度しかもらえず、留守宅の彼女は自分の稼ぎで子供と生活していたのである。

子どものことをどうするかと夫婦で話し合う。オレは育てる力はない、もし引取ったとしたら、田舎のおふくろを呼んで育ててもらうだけのことだから、やはり母親と一緒にいい、と夫は言う。といって、そのかわりオレは経済的に子供を支えようなどというセリフは、決して出てこない。もう杜宅に住めなくなつたし、世話してくれる女房がいなくなるのだから、会社に都心部にアパートを借りて高い家賃を払わなきゃいけない。だから養育料を出すゆとりはないという言い分だ。

将来また相談しあう余地を残しつつも、当面養育料はゼロ。彼女が自力で子供を育てることになった。子供への誠意があれば出さだろうし、出さなければそういう人だと思うしかない、とこの件も淡々と受入れた。このとき彼女には九十万円の貯金があった。全部自分の給料から積みたててきたお金である。母子三人の新生活の資本金にする予定であった。ところが夫はそこからまた五十万円を渡せという。アパートの敷金や何かでまとまった現金がいるという理由だ。彼女は要求通りの額を夫に差し出した。

このあたりの話を聞くと、第三者は平静でいられなくなる。夫は大企業の中堅社員、妻は収入の不安定な産休補助教員。妻が二人の子をまるごと養育しようとしているのに、女の細腕でたくわえたお金を半分以上持っていくというのだ。

——私もこのお金だけは渡す必要ないと思ったんだけど、オレは離婚にしぶしぶ同意したんだから慰謝料もらってもいいくらいだと言われると、もういいやつて気になってしまって。私は貧乏くじを引くようにできてるんでしょうね。

二人の関係について真剣に話し合っていたころ、夫は「それならもう離婚しよう」「これでオワリだな」というような言葉を軽々と口にしていた、めんどくさそ

うに話を打ち切ったものだった。それがいざ別れるとなると、被害者顔になる。やはり離婚している彼女の友人が、男はどたん場で未練たらたらになって、ありとあらゆるいやがらせをするものよと話してくれたことがあった。そこまできなくとも、彼もまた別れの場では、いさぎよい人間にはなれなかった。

この夫婦はどちらにも大きな過失がない。家裁へ持ち込んで財産分与や養育費のことをきちんと取りきめるのは無理だと彼女は考えた。古くさい連中に家庭をこわすなと説得されるに決まっている。相手の悪口を言い合って血みどろになって何年間も費やすのはもったいない。だから自分達だけで処理し、彼女が次々に貧乏くじを引くことで事態をすすめていくのである。

一家そろって同じ町のアパートに移ったのち、夫は都心のアパートに去っていく。結婚してから買いそろえてきた家財道具のほとんどを、彼女は夫に渡した。テレビあんなに好きなんだから持っていくたら？ 背広がいっぱいあるんだから洋服ダンスはすぐいるでしょ。私の服はダンボール箱に入れとけばいいんだから。一緒に暮らすことができないめぐりあわせになったが、夫に憎悪をいだいているわけではない。思い出のある品々を分配するのは、大変な精神的苦痛であった。つらいから、ますます彼女は金品に拘泥せず、気まえ

よくふるまってしまう。

自分の貯金の残り四十万は、アパートを借りるのと引越し費用とで、すっかりなくなつた。すっからかんである。住居費がこれから重くのしかかってくる。鉄筋2DKの社宅を三千六百元で借りていたのに、もっと狭い木造の2DKで家賃四万円。実に十一倍にはねあがつた。

経済的にゆとりがないから、児童扶養手当を早く受取るために、棚上げになっていた離婚届を、いそいで出すことになり、正式の離婚が成立した。

夫がいらない女になっても、自分を見る目を変えない友人がいっぱいいた。——これが何よりうれしかったことだ。地域活動や職場で結んできた人間関係は本物だったと立証された思いだった。

勤務している学校の校長は、あなたの仕事ぶりを見ていけば、戸籍がどうなんてことは関係はありませんよ、と言ってくれた。

ある友人は、彼女の住まいに、お米やしょうゆをどっさり届けてくれた。お金に困つたらいつでも言つてと申し出てくれた人もいる。子供たちに、ほとんど痛

人形の家を出でて

んでいないおさがりの服やクツをもらう。

教員の給料は女にしてはめぐまれていて、だからこそ離婚に踏みきれたのだけれど、産休補助というのは短期契約をくり返す形になっているから、時折無収入の月がある。そんなときは児童扶養手当や少しできてきた貯金を使い、子供たちとたっぷりつきあったり、友人に紹介された短期アルバイトに出たりして、ずいぶん他人との良い人間関係だけが財産のような暮しだ。友人の助けを受け、自分もできることをして助ける側に回り、ずっとやっていければいいがと思っている。

女所帯がアパートで暮していると、神経を使うことが多い。玄関に男物の靴を置いておくだけで、新聞の勧誘員の態度がずいぶん違うことも発見した。そういう苦労はあるけれど、社宅を脱出した解放感はずばらしい。もう社宅夫人のオホホ調の話につきあわされずにすむし、あの会社に人生を支配されることもなくなった。

ある日別れた夫がひょっこり訪ねてきたことがあった。なぜ別れたのか、お互いにわかりきれない部分を残しながら、それぞれの人生はもう別のものになっている。

こんど結婚するときは、私と全く違うタイプの女性にしないさい、と言うと、オレのいいなりになってくれ

ないと困るけど、そういうタイプじゃもの足りないしむずかしいなあ、などと答える。両方の生活がもっとと確立したのちに、友だちとしての会話ができる日がくるかも知れない。

世間の通念で見れば意外なことだが、彼女は、母子家庭の母というのは実に気持よく遊べるということを見つけた。遊ぶといってもぜいたくをするわけではない。同じような立場の子連れの女たちと一緒に、おいしいものをつくって食べ、分担してかたづける。女はみんな手が動くから、男性が飲み食いするそばでその主婦が疲れているというような上下関係がなくてさわやかだ。

子供たちを寝かしたあと、気持の通じる友人たちと徹夜で語りあかす。主婦としての門限はもうない。自分の稼ぎで子供を育てている女は、誰にも気がねせず最高の遊び人になれる。

いまれい子さんは、結婚の枠の中にいたころよりも、ずっと屈託なく笑えるひとなっている。

(え・岡田正子)



魔女的文学論

駒尺喜美著

名作を読んでいないとカッコ悪いと考えて、せつせと読んだ時期があなたにはないだろう。か。「暗夜行路」というのは、そんな少女時代につかり、なんだか重厚な感じだし名文みたい、やっぱり名作なのね。と納得して通りすぎる作品の一つかもしれない。

ところがいま、自ら魔女と名乗る駒尺喜美さんの道案内で「暗夜行路」を読むと、大シヨック!! 内面の苦悩をかかえて生き、悟りにいたる主人公時任謙作というのは、実はひどい男であったのだ。

不義の子である惨めさを解消するため、彼は自分が全面的に優位に立てる女たちとのいる遊廓へ向かう。遊女に身請けしてやると約束したのをすぐホゴにして、相手の心をもてあそんだ痛みも感じない。強姦に近い形で従兄に犯された妻に対しては、くり返しヒステリ

ーをおこして、殺人すれすれの乱暴狼藉。理想の男性像謙作は、男は女に対して何をしても許されるという通念の上に造形されていた。このように女の視点で著者は、夏目漱石、宮本百合子を読み、イブセン、ホーソーンを論じる。本書のうち「魔女が読めば」と「悪妻にめぐまれた漱石」の章は、わいふに掲載されたもの。

そしてもしあなたが「アンチ橋田寿賀子派」だったら、NHKドラマ「夫婦」の縦横な批判の章に快哉を叫ぶことだろう。

これほど面白くてタメになる本はめったにないから、読まなきゃソンソン、と言いたい。

三一書房 一四〇〇円 (鈴木由美子)

子育て・子離れ・老後

主婦のための女性問題入門第三巻

樋口恵子・武田京子

永畑道子・中島通子著

いま、第一線で活躍している四人の女性が横浜朝日カルチュアセンターで十六回にわた

って行った講座をそのままとめた本であるが、生き生きとした語り口の中に、それぞれの講師の面目が発揮されていて、息もつかせず読み了ってしまう面白さがある。

樋口氏の「子どもの性差教育」は、生まれた時から女らしさ・男らしさの枠にはめこまれて行く子どもたちの育ち方を、氏一流の観察眼で活写している。

武田氏は、現代っ子の体と心のひよわさの現状をつぶさに描いて、自立できない人間を作りあげる専業主婦のありかたをえぐり出し、永畑氏はしごとと子育てのはざまで苦闘しつつ生きた自分の半生をしみじみと語りながら、生きることの重さを伝えてくれる。

法律の専門家である中島氏は、ドライな語り口で、結婚制度の中で夫の被扶養者である妻の権利が、法的にどのように保障されているかをさまざまな角度から解剖してとかく「妻の権利」について幻想を抱きがちな私たちの妄を聞いてくれること大である。女の

「自立」について考えを深めたい方に一読をすすめたい。

教育史料出版会 二二〇〇円 (田中喜美子)

女が仕事に生きるとき

高橋瑞恵著

最後のページに「管理者の皆様へ」として「本書は特に男性管理者の方々にお読みいただきたいと思います……意識も意欲も高くなっている女性達を、組織が如何に活用するか……男性の女性に対する意識改革こそ急務」とあって、著者高橋さんは、「日本コンサルタント・グループを経て現在、奥住マネジメント研究所チーフ・インストラクトレス」という経歴の人。女子販売員能力開発、販売促進、などで企業を指導する仕事である。

著者は本書で二十七人の女性の「仕事と人生」を取り上げ、聞き書き風の読みやすい楽しい文章で、彼女たちの生活をつづっている。職種は多岐にわたっていて、タイピスト、看護婦など今までに女性の職業として確立されていたものから、タクシー運転手やサラ金の貸付掛(この人は国立大卒だ)など男の分野に乗り込んだ話、さらにバーのホステス(まじめにやれる場合もある、らしい)まである。

つまり女がこういう気持ちで、こういう職業で、能力を十分発揮しておりますよ、と企業コンサルタントらしく「女」を販売促進しようというのが本書の目的なのである。女を売り込むなどとは今まで考えられなかったことで、女の職業進出の本格化が感じられる。

同時に、これから職を得たい女性のための、格好の「職業案内」になっている。

同友館 九八〇円 (和田好子)

シンデレラ・コンプレックス

コレット・ダウリング著・木村治美訳

友人が電話をかけて来た。自分も働きたいと言う。なんだか人生が色あせてきたし、こうして年を重ねてしまうのが残念だと言う。でも才能も、腕に技術もないし、家族のことも心懸りだとは話が続く。そのうちに「働きたいのヨ」と言ったのと同じ位力強く、何故自分が家から出られないのか、何故働けないか……を説くのだ。彼女は自分の本心が解っていない。働きたいわ、という言葉が、「本当は働く気なんてないのヨ」という言葉と同意語だということに気づいていない。

彼女だけの矛盾ではない。主婦といわれる立場の人ばかりでなく、既に職を持ち、才能

もある人ですら、自立をとえながらも自立しきれない。何かわからないが真の自立を自分達の中で抑圧するものがある。なぜ、女は自立をこだわるのか……それは幼児から積み重ねられた、他者によって守られていたという心理的依存状態の結果だとこの本はいう。可愛がられ、甘やかされ、救いの王子様をひたすら待つ様に育ってしまった女性たちが、年をくくっても中味は幼児で、うっかり強いところ見せたら世間様が何と見るだろう……と最初からガードしてしまうというのだ。

筆者はアメリカ人だが、本の内容は日本人にも思い当ることばかり。

知らず知らず自立から逃げようとする女性たちを、作者自身の体験をふまえてズバリと正面から切り込む鋭さで、料理して見せてくれている。ちょっと意外に思えたのは、現代女性の特徴として、消極性。依存性。自負心の欠如。を挙げているが、アメリカ女性もネエと興味深い。自立したいが……と悩む女性にはぜひお推めしたい。このページの何処かに必ずあなたの姿がみつけれられる。昨年度の全米ベスト・セラー。

三笠書房 八八〇円 (宮城道子)

わ い ふ ス ク ラ ツ プ 帖

キリヌキ菌保菌者同盟

教科書フィーバー
をふり返る

この夏の新聞は、何といっても教科書に始まり教科書に終わった感じでした。まともには切り抜いていたら、あっという間に教科書問題だけでダンボール箱が山積みになってしまいうから、ただホレッツとながめていたのですが、ニュース、社説、連載コラムなどはともかく、教科書関連の投書の多いのはびっくり。(とくに毎日新聞) 後から後から出るわ出るわ、まるでウンカみたい。いかに我々が教育問題に熱心な国民かということなんですかね。でも、新聞社

としては「ほらこの通り一般国民も怒っているゾ」と言いたいのもかもしれないが、読む側としては、新聞記事の主張をただ素人っぽく言い直しただけ、というのが多すぎてウンザリ。新聞の投書欄というのは、プロの記者の目の届かない、市民の日常生活の中からの問題提起のある所だと思っていたのですが、最近は一億総評論家気取りによる社説の援護射撃、てなことになるようです。

ところで、教科書関連でダントツに面白かったのは毎日の「外から見た教科書」シリーズ。たった五回の連載でしたが、「自民党は教科書偏向と騒いだが、それにもかかわ

らず驚くべき保守の長期政権、教科書が国民の思想に影響ないことを証明したことになるじゃないか」という米国の大学教授、「これまで著者や出版社との交流を続けてきたのに、日本政府は、文部省の介入でこじれた。政治問題化したのは日本の方だ」と怒るソウル大教授、「教科書をもっと自由にして、選挙公報のような、教科書評集」を作り教師の選択にまかせたら……しかしフォークランド、勝利、に酔う英国の国民としては、日本政府を批判する資格はない」と語る、ロンドン大のドリア教授。この方は日本の受験戦争を日本の専門家の誰より明せきに論評して話題にな

りましたよね。この連載ではないが、八月十六日の毎日「世界の目」に登場した英国人記者の「軍国志向は日本ばかりでなく、レーガン政府もサッチャー政府も同じ。ただ日本では選挙区制度が悪いため、自民党の長期政権の弊害があまりにも強く、教科書問題の根元もここにあるが、国民にそういう視点がなさすぎる。民主主義の危機はむしろそういう無関心さにある」という指摘も鋭い。別に外人さんの意見ばかり有難がっているわけではないのですがね。

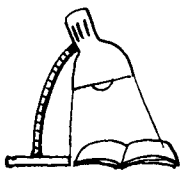
新聞の中では最右派で、反核運動についても批判的なサンケイも、中にはうなづける記事もありました。八月十六

日「正論」の法眼晋作氏の論、侵略は侵略としてとらえると共に、平和の機会はあったのについて戦争を回避できなかった、その経過をもっと詳しく次の世代に伝えるべきだというのは全くホントにその通り。「和平の機会」なんて教わった覚えないもんね。居眠りしてたのかもしれないけど」

それはそうと、教わる立場で考えてみると教科書に「侵略」と書いてありや、あーそうか侵略したのか、悪いやつだなー、「進出」と書いてありや、あーそうか進出だったのか、そんなに悪くなかったなー、というタイド、限りなくアホに近い素直さというか、それこそ、民主主義の危機、なんじゃないだろうか。そういうことから日本じゃ秀才でもおとり捜査なんぞに

手もなくひっかかるのだよ。

こういう視点からの論はずっとなかったけど、ついに京大の森毅センセが言うてくれはりました。(毎日夕刊八月二十一日)教科書の右傾化はコワイが、もっとヤバイのは教科書信仰、そして教わる側の(標準)志向。終戦直後のスミヌリ教科書を見直そう、スミヌリ記念日を作り、だれでもその日は自分の教科書を好きなようにスミヌリしようだって拍手!! こういう教授がいるといないでノーベル賞学者の数に差がつくんじゃないかしらね、東大さん。



公正な「良い教科書」を作るのはもちろん大事だけど、

それはずいぶん手間ひまかかる作業のはずだ。それをカバーするのが、現場で教える教師、教わる生徒双方の、柔軟な思考力と意欲だと思うのですが、文部省という所は、実に陰湿にそういうものをつぶしかかっているとゾーッとさせるニュースがあります。

教科書問題とは比較にならぬ小さな記事ですが、愛知県春日井市の神谷小学校で、水道方式の手作り教材を作った教師が「勝手なことをして和を乱した」と担任をはずされ訴訟問題になっているとのこと(毎日七月十五日)。春日井市は名古屋のベッドタウンで「わいふ」のサークルもたしかでかかっている所だと思えますが、現場報告お待ちしています。ニュースソースの

秘密は守ります。

教科書関係で今後の報道に望みたいこととしては(突然大きく出るのだ)各国の教科書事情を知りたい。ヨーロッパでは、教科書に関する特別の評議会があって、各国間で比較検討が行われ、基本的な歴史用語の辞書まで作られているそうです。(毎日「論説ノート」六月三十日)また米国でも、ベトナム戦争の記述をめぐる批判が出ているとのこと。(サンケイ八月二十六日)そして国内では、教科書が教師と生徒の手にわたってからの後のことについても、きめ細かいレポートがほしい。さらに、ぜひやってほしいのは、戦前、戦時中のマスコミの実態についての証言構成。毎年、夏になるとどこかの新聞で特集が出ないかなと思うんですが、ないですねえ。曲

わ い ふ ス ク ラ ツ プ 帖

キリヌキ菌保菌者同盟

げられたベンの軌跡——億総決起から総ざんげまで」なんて（超能力みたい？）

新聞って、ありとあらゆることのつていっているように思えますが、意外に限られた情報なんです。全国の保菌者の皆さま、教育問題に限らず、これが知りたい！ こういう記事をキリヌキたい！ という声をお寄せ下さい。

ツケの回った
保母不足

古い読者なら覚えておられるでしょうが、「わいふ」一五一号に坂戸市の高橋裕見子さんが、通信教育で保母資格を得たにもかかわらず、いっ

きよに年齢制限を七年も下げるといふ行政の暴挙により、再就職の道をはばまれた経過を書いておられました。「オバンが入ると何かと新卒保母とモメる」とかなんとか言っていて、子育て経験者をしめ出した結果がどうなったか、毎日新聞八月十七日の千葉県版を見てみよう。坂戸市と同様新興住宅地の柏市での話。「同市には現在、市立保育所は二十カ所あり、二千百人の子供が保育され、二百五十人の保母さんが働いている。しかしこれら保母さんは保育所が七カ所も増設された五十三年から五十五年にかけて採用された人が多くを占め、ちょうど結婚、出産適齢期……ここ二、

三年間は年間四十人以上の産休が届けられるという状態」あわてた福祉部保育課では、広報や、有資格者との直接交渉で代替保母集めをしているが、この代替保母、雇用がひどく不安定なため、資格があっても「採用まで待ち切れない」「私立の方が給与がよい」と逃げる人が多く、頭を抱えているという。やっと気づいて曰く「（代替保母は）いつ採用されるかわからず生活はいつもフリーにしておかなければならない。いまだきそんなヒマな有資格者を臨時に確保しようとする方がおかしい」まことに、雨がふったら天気が悪いというような当り前の話で、何でこういう事態が予

想できなかったのかねえ。馬鹿か。増設時の大量採用時、高橋さんのような再就職希望組も多かったろうに新卒ばかりとつまつたんでしょ。亭主もち、子もちの女に処女膜と仕事の意欲はない！ と信じこみ、どんなチャランポランな使い方をしたって平気と一方的にお役所の都合をおしつけた結果がモロにあらわれたのだ。

とは言っても、保母不足で現実には困るのは働く母親と子供だから、「ザマーミヤガレ」とうかれてばかりもいられない。すみやかに代替保母の給料アップと、臨時雇いから正職員への道が開かれ、不足が解消されることを祈ろう。

たのきんもまっ青!! マコトファイルに群がる 熟女軍団

別名全日本奇女連盟とも呼ばれるキリヌキ菌保菌者同盟では、「老人問題」「教育」「再就職」など、スクラップファイルのうちマジなのは大体共有ですが、ユニークなのは各保菌者が個人的に保管しております。そのひとつが、「マコトファイル」。いうまでもなく、一七六号のわいふインタビューでサッソウと登場の話題の中年、椎名誠のすべて!! というファイル。硬派中の硬派として雑誌作りとケンカにあぐら、ロマンスの香りなど無縁の青春時代を回想される椎名氏であります、実は今のような売れっ子にならずと前から、全国の人妻

の間では熱烈な、かくれマコトファンが潜在しており、一部では、椎・杉(良太郎オジンのこと)戦争などというウワサもとびかっていたのであります。全国から送られるマコト様に関する新聞・雑誌の切りぬきや写真(着衣・非着衣共)は増える一方。(何さあんなのしよせんはチンピラ男)という、高齢化わいふ編集部のがミヤツカミの声をしりめに、マコトファイルは「いちだんと充実度を増し日の目をみる日が一步近づいている」(担当保菌者の弁)

いつの日か、武道館に真紅のたれまきがかかけられ、椎名誠を囲む熟女軍団の狂熱乱舞の宴がくり広げられるであります。 (三十歳未満は入れてやらないからね!!)

△今月のキリヌキ・ ア・ラ・カルト▽

各紙記事の中で、キリヌキ菌保菌者同盟が厳正なる独断と偏見により拍手バチパチでおすすめるものです。貸し出し希望者はご遠慮なくお申し出下さい。

「雑誌づくりの旗手」

読売 6・7・10・11

「報告・学校給食」

朝日 5・24・7・6

「売・買春の構図」

毎日 7・12・7・19

「アメリカ性教育事情」

毎日 6・10・6・24

⊕同盟の宣伝

キリヌキ菌保菌者同盟は、マスコミ情報を受け手から送り手へのフィードバックを通じて、価値の多様化時代の情

保菌者大募集

前号の保菌者募集をみてお声をかけて下さった方々、有難うございました。意外にキリヌキをしている方、多いんですね。別にスクラップをやってなくてもいいんです。新聞や雑誌の記事をみて、驚愕、憤激するクセのある方、おたより下さい。

○四七三(四五)七八六二

(電話は) 亀山和枝まで
〒277 柏市増尾三六二二八

(手紙は) 四方愛子まで

サークル だより



● 渋谷サークル だより

渋谷サークルはこの冷夏というか酷暑というか、変な夏をうまくきりぬけ、九月十三日に永福町の恒川宅にて九月例会を開いた。

新鋭の根本由香里さんを加え、話題は止まる所を知らず、と言ったところだが、まず、我々の体についてから始まった。

優性保護法改悪問題。
我々は一体我々の体について何を知っているのか。又、悪徳婦人科医と良い医者？の情報もないこの現状をどうするか、それ

ぞれの婦人科体験を語り合った。

一つの話だが、ある人が流産した時、A産婦人科ではもう生まれる事もない子供を欲しい子かどうかとアンケートを取って、欲しくないと書くところでは手術代六万円を持って来るように指示された。同じ時にB産婦人科では流産して子供はもう駄目だからそれから後の母体が大丈夫か否かで手術か薬による治療かを決めた。この実話を聞かされ、我々一同何とも形容しがたい気持ちになった。

又、子供を産み終った後の婦人科のイイカゲンな事。

お産の時の非人間的あつかい等々。私達はまた「産婆物語」(島和春著)の時代を終わっていないのだろうか。

それにしても世代の断絶と言うか、何も知っていなかった若い頃を思うと、我々の世代が若い人達にもっと知らせなければならぬし、又、婦人科医や助産婦達にももっと我々の気持ちを伝えなければもっと悪い状態になってしまうと、痛感した。雑誌「わいふ」に期待したい所だ。

次に毎日新聞九月十日付の「パートと主婦の自立」の田中喜美子編集長の記事の切り抜きを読み、「これはもしかすると我々の事ではないか」ノ、それでは専業主婦否定であるこの意見をどう思うかで話し合ったが、我々サークルの中でもイマイチはつきりせずと言ったところ。

八月は休会したので我々サークルは輪読を始めた。本は藤村美津・伊藤雅子共著「育児力」。来月の例会ではこの本をテーマに話し合う予定である。我々の会も井戸端会議をイヨイヨ脱却の時であると思っている。

高野 貴子



フリータイムコーナー

らうんどてーぶる



私の再就職



再就職失敗の巻

東京都杉並区 友松 悦子

学校を出て会社に就職、お茶くみや雑用などの仕事すること三、四年。結婚して退職し、家事と育児にあげられる。中堅としてアブラガのり、忙しい忙しいと言いながらも、はりきって出勤していく夫……。でも主婦は、子どもにもあまり手がかからなくなると、とり残されたような焦りと不安を感じる。もう一度職場に戻って「仕事」をしてみたいと思う。そこで新聞の求人欄をさがす。買いついでに本屋に寄り、就職情報誌を求める。だが、これぞと思うような仕事は見つからない。あったとしても、「年齢三十歳以下」というものばかりだ。

私を含めて再就職を願う多くの主婦たちは以上のような過程を経てきたのではないだろうか。今すぐ働かなければ、生活していけないというわけではない。しかし家庭の中で、その家庭を守るだけに終始する生活は、本当の充足感を与えてくれない。夫が社会的に成長すればするだけ、自分も経済的に少しでも自立したいと思う。社会の一個の単位としての自分を見出したいと思う。夫に食べさせてもらう存在から脱皮して、自分の分は堂々と自分で稼いでみたいという欲求にかられる。

しかし、主婦の再就職をはばむものは、な

かなか根が深い。まず第一は、就職口がないこと。これは前記のとおりである。第二には子どもの問題。幼児をかかえた核家族では、子どもが保育所に入れないければ、就職は不可能に近い。なのに現在仕事に就いてないのだからという理由で、保育所入所の必要なし、とあっさり断られる。私も何度か福祉事務所に足を運んだが、その二律背反の壁の厚さを思い知らされるのみだった。第三は、夫や子ども達を含め、社会全体が「主婦は日がな一日家庭にいるもの」という前提の上にコトが成り立っている、という点である。この役割分業的な感覚は、当の主婦自身にもあって、

夫や子どもに不自由な思いをさせてしまおうことを、何となく後ろめたく思う。そして、二の足を踏んでしまうのだ。そういう自分自身にもどかしさを感じればその分だけ、一方で再就職のユメは、文字通り「ユメ」としてふくらんでいく。

職業研究所の「既婚婦人の就業と生活に関する調査」（八〇年）によれば、四人に一人の主婦は「働きたい」と考えている。なのに彼女らの求職活動は、「新聞のチラシや求人広告をみている」「二九・一パーセント」「家族や知人と情報交換したり頼んだりしている」「一六・四パーセント」「職安に求人申し込みをした」「五・四パーセント、そして「特に何もしていない」「六三・五パーセント……」ということになってしまふのだ。

こんな紆余曲折を経て、私は二年数カ月ほど前、ある広告企画会社でアルバイト程度の職を得た。フリーという形でリライトや雑文書きの仕事。長い悶々の末、比較的ラッキーなすべり出しだったと言えよう。何よりも、家に仕事をもち帰り、家事をやくりりしながら仕事を続けられるという事が嬉しかった。

「どだい女はやっぱりダメだ」

「子持ちの女なんか、だからダメなんだ」と言われないうちに、私は必死で頑張った。

そのうち、機関紙の構成と記事書きの仕事もまわってきた。レギュラーで毎月、宣伝用の機関紙を作る仕事だ。タブロイド版で四面、全面を埋めることを任された。小学校や中学、高校の受験情報についての記事を書かなければならないのは不本意だったが、子ども向けの良書の紹介、子どもの心身の健康について、子どもとの接し方など、本や資料や自分自身の日常生活から、必死に知恵を動員しては納期に間に合わせていた。

しかしつい最近のこと、この機関紙が廃刊になってしまった。クライアントである某ゼミナールが、資金ぐりの苦しさからもう発行できなくなってしまうのだ。当然私は失職。ポカンと仕事がなくなってしまった。

ささやかなアルバイトだったが、家事、子どもとのつき合い、地域活動、婦人問題の集会参加などとうまくみ合わさって、私の生活の一部となり、ちょうどジグソーパズルの一コマのような役割をそれは果たしていた。その一コマをはめ込まないと、生活のパズルは完成しない。なくなってしまうたその一コ

マを早く埋めなければと、私は少なからずあわてふためき、度を失った。

しかし一方で、優雅な、時間帯が増え、私はいそいそと家事に精を出した。今までも在宅の主婦ではあったが、家事にさく時間を極度に節約しなければならなかった。納期の数日前になると、家中うすうす埃がつもる。流しは朝となく夕となく洗う物が貯まり、子どもにも「あっちで遊びなさい」「あとでね」「早く寝なさい」ばかり……。

ところが今度は事情が変わった。家の中はいつも整理整頓されて心地よく、久々にカーテンもきれいになった。手づくりのケーキに子ども達は大喜びする。長い間気になっていた押し入れの中のコタゴタも、すっかり整理ができて……。

しかし一日一日そうした生活が積み重なってくると、私は何だか不安でたまらなくなってきた。もともと家事が好きな私のこと、このままだらうたら、どっぷりとめり込んでしまう。スカートを縫ったり、ケーキを焼いたりする愉しさを、あんなキツイ仕事に奪われたくないと思うようになってしまわないだろうか。主婦の座をいとおしむあまり、そこに

あぐらをかいて居座ってしまう自分の姿が想像される。何よりも、私が朝から晩までせせと家事に精を出すことで、家族はすっかり安心しきってしまった。これが定着してしまつたら大変だ。もう待つてはいられない。なくしたパズルのコマをさがさなければ……。

私は焦っていた。たった一カ月で、無収入(今までだって大した収入ではなかったのだが、ほんのわずかでも収入があるのと、全く無いのとはエラク違う)の主婦という精神的状況を、とことん味わってしまったのだ。こういう時のために、今までも失業対策として密かに貯金をしていたのだから、それを大いに活用するテだつてあったものを……と、今になつてそう思う。けれども、とにかく私は焦つていて、何にでもとびつきたい、といった心境だった。

そんな時、ちょっとしたチャンスが訪れた。今までと同じように、宣伝用の機関紙の構成と記事書きで、しかもフリーでやれる仕事だ。新聞の片隅の、小さな求人欄にそれを見つけた私はさっそく応募することにした。電話を試みると、とにかく委細面談という。履歴書をもって、面接に行く。渋谷の街の、ビルの



一階にその事務所があった。どうぞ、と通されたのが、奥の小さな応接室。会長という人物が、そこにどかつとすわっていた。

「新しい教育機関の創設ということで、今回の機関紙担当者を募集しているとのことですが、どういう教育機関なのでしょうか」と私が質問する。すると会長は、

「今の時代は、知識をつめこむだけの、知育偏重の教育が主流です。でも、そういう教育の行きづまりがあちこちに現われています。ノイローゼになったり、ちょっとしたことで挫折したり……そこで知育偏重のそうしたつめ込み教育ではカバーできないものを我々はやっていくというのです」

……(そうか、わかった。精神主義の、いわば宗教みたいなものだ、これは)と内心思う。でも当方もしたたかもの。そういう気持ちを表面には出さず、一応の面接を受けた。自分の経歴、今までの仕事のことなどを話した。前に多少の教員経験がある。教育問題については、少なからず関心をもっている、機関紙の経験がある、などが相手の気に入ったのか、感觸はなかなか良好。しかし私の方は、心の中でもうすっかり興ザメで、早く帰りたい心

境だった。

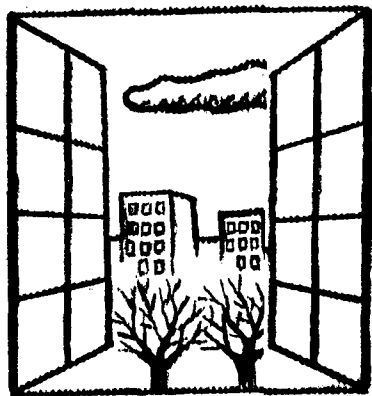
「こちらの資料や何か、読ませていただいてよろしいですか。コピー文を書くにも、あまり体質の合わないものについて書くのでは、いい機関紙になりませんし……とにかくこちらの機関のことをもう少し知りたいのです」と私。

「本当にその通りです。でも今我々は、非常に多くの支持者を得て、全国に組織が広がっています。この本にそのことがよく書いてありますから、どうぞ読んでみて下さい」と、会長は一冊の本を私に手渡してくれた。これを読んで自分達の主旨を理解した上で、どうぞお手伝い下さいと言う。三日以内にお返事します、と言って、私は事務所を出た。玄関には、次の面接者が待っていた。

どっと疲れが出て、帰りの電車の中ではぐったり。渡された本を開くと、こんな言葉が目にとまった。

「私は、生命の喜びを売る事業家として生きる」

「……こうした悩みを解決する最良の方法は、頭を空っぽにすることである……。そして後に述べる、行、をやることである」



——ああ、ダメだ。こんな考え方にはとてもついて行けそうもない。人間が自らの頭で考えることを禁止するような思想には、私は体質的に違和感を感じてしまうのだ。一人一人の人間の心の浄化で、この混とんの時代を超越できるとも思えない。宗教であれ、あるいはたとえ社会運動であれ、狂信的な考え方にはついていけない。皆が皆、疑いもなく同じ方向に向いているような運動体には、それだけで危機感を感じる。確かに教育の混迷の時代ではある。子どもの心身症一つをとりあげても、そこには根深い病果がひそんでいるだろう。しかしだからといって、考えることをやめ、教条のようなものを唱えて解決したいといった思想は、何かキナクさい……。

しかし……とも思う。願ってもないフリーという形で、機関紙をやらせてくれるといっている。しかもその夜の電話では、「何人も応募者がありました。が、厳選の結果あなたにお願いすることにしました。さっそく仕事の打ち合わせをしたいので、明後日おいで下さい」と言う。年齢制限をオーバーしているにもかかわらず、他に競争者が何人もいたにもかかわらず採用されたというのは決して悪い

気持のものではない。よほど人材が集まらなかったのだらうとは思いますが、私にとってはチャンスである。ペイも、こちらの希望を充分考慮すると言っている。ふつうの職場では、しかも主婦の再就職というハンディをしょって、とてもまかり通りそうもないこちらのわがままも、聞いてもらえそうな気配である。三十路をはるかに越えた女に、こんな条件のよい仕事があったとあるものか。次のチャンスへの足がかりとして利用したっていいじゃないか。亭主に食べさせてもらっているといった、あの屈辱感から抜け出せられるんだから……。大体、仕事をあれこれ選んでいる甘さが主婦にはあるのだ。だから女はダメだ、主婦はダメだって言われるんだわ……。そんなふうにも思う。わいふ一七四号の「主婦の再就職のアンケートまとめ」に、警戒心ばかりでは、何が生まれると言うのでしょうか、と書いてあった。本当にその通りだ。私のこの甘さが、再就職をねらう他の多くの女たちの足をひっぱることになる……。

だけども……とも思う。これはただ、タイプを打ったり、物を売ったり、毒にも薬にもならないリライトの仕事をするのとはわけが違

う。オピニオンを宣伝する文を書かなければならない仕事なのだ。そのオピニオンが、自分と相入れないものとわかっていのに、それをあえてやろうというのは、お前さんの思想の墮落、知性の後退だ。お金のためには、キワドイことも平気でやる男の働き方と、これではまるで同じではないか。そんなふうにも思う。断わろう。こんな仕事をするくらいなら、無職の主婦に甘んじていた方がまだしもだ……。ああ、でもこの「こんな仕事をするくらいなら……」というのは、私が日頃いやがっていたせりふなのだなあ……と思う。全く堂々めぐり。

思いあまって編集室の田中さんに電話する。田中さんの答えは明快だった。

「私だつたら断わりますね。そういった類の教育がこの頃流行っているし、喜々としてそれについて行く人が多いけど、私も何かそういうのに危機感を感じているの。そういうところには、良い人材は集まらないのだということ、彼らにわからせなければダメ。確かに主婦が、主婦という座にどつたりとあぐらをかいているようでは、女の状況はいつまでも変わらないとは思うけれど、あなたの

場合は、あぐらをかいてそれを肯定してしまっているわけではないんだもの。私はこのところ主婦の甘さには確かに厳しくなっているけど、この場合は甘さとはまた違うようね。あなたには、今はかにやれることがあるはず……」

本当にこの言葉、どんなに有難かったことか。

翌々日、再度この事務所を訪問。人間が、人間らしい生活を送るために、感謝や無欲、謙虚といった個人レベルでの精神主義ですべてが解決できるとは思えない。むしろそういう志向に私は危機感をもつ、せっかくのお話、申し訳ないが私にはできそうもない、と述べて、私は席を立った。

かくして私は、また専業主婦に逆もどり。時間が浮いたその分だけ「婦人問題」に顔を突っ込んでいる。「主婦」の状況をとことん考え、問いだしてみたいと思っている。

対話のページ



根本由果里様「障害児T君のこと」へ

大阪府岸和田市 小出 久子

障害児教育に足をつっこむ者の一人として、お役に立てたらと思いいペンを取りました。

根本さんの困惑していらっしゃる様子が目にかぶようです。そうなんです。私共、オトナの、しかも教養ある人だからこそ、より以上にこまってしまうのです。理性ではそう

は、彼らの「生やさしくない状態」をある程度、そのダボハゼでもって許容していかなければなりませんので……。

あつてはならじと思うものの、実際彼らに接してみると理性が言うような「生やさしい」ことではありません。でも、もう一歩つっこ

T君は小学校一年生とのこと。私の知る限りのことから判断しますと(文面より)、決して重度の子供さんではないと思います。彼のいろいろな奇行は、まず、きつと充分話すこ

のできる、訴えることのできる能力があるのなら、「遊びたいのに」とT君は表現すると思います。それを彼らは言えません。だから自分が思いつき、考えられることでもって行動しているのです。それが私共の目には奇行としてうつるわけです。

とのできないT君なりの「ことば」だと思われまふ。自分が根本さんのお子さん達と遊びたいという気持を、それらの行動でもって表現しているのだと思います。私達へ話すこと

奇行として、我々の常識での判断をまず少し変えてみてはいかがでしょう。T君、一体何が言いたいのかしらと考えてみてはいかがでしょうか。そうすれば、パズルを解くように、T君の行動の意味がわかってくるのでは

それには、知ってやろうという好奇心、ダ

現しているのだと思います。私達へ話すことないででしょうか。

そして「嫌悪感」のことですが、この中には不潔なということも含まれると思いますが、きつと、何をするかわからない、わが子に何をされるかわからないという恐怖心が大きく含まれていると察します。

一般に、彼らは人に危害を加えるようなこ



とはめったにありません。しかし敏感です。人の感情に対して大へん敏感です。自分に対して敵として向かってくるか自分をかわいがつてくれる人なのか、本当にすぐ反応します（危害を加えることではありません。よく知っているとということです。感じるという意味

です）。

そして、次に実際上の奇行への対応策ですが、いけないことはいけないと、はっきり言わなければならぬと思います。障害児であろうとだれであろうと、他人に迷惑をかけるようなことは許されぬと思います。ここでオトナは「言ってもわからんだろうから」ということでそのままにしておきます。これが最も彼らによくない結果としてでてきます。いけないことはいけないと、はっきり言うべきです。

しかしここで、言うべきであっても問題になるのは、その言い方です。彼らの特質を知った上でのほうが効果があると思います。

まず、ゆっくりと難しいことばを使わないで短く言った方がよろしいかと思えます。三歳くらいの幼児の言い方が適切です。

例えば早朝や夜更けに遊びにきた時には、「Ｔちゃん、帰るなさい。〇〇ちゃんは、ねむっているからね。Ｔちゃんとは遊べない。あした遊ぼうね」

というような意味のことを言えばよいと思えます。彼らは長い文は理解できません。主語と述語くらいがいいです。でもいけない理

由ははっきりと言ってあげた方がよろしいのです。

そして何度も何度もくり返して、何回も言わなければなりません。一回ではわかりません。というより忘れてしまうのです。彼らの思考には「時」が不明確です。そしてすぐに忘れてしまう傾向があります。彼らにあるのは「現在」です。きのう、あしたということばはなかなか理解できません。ということは時間の概念というものは非常に高級なことなのです。

きのうも言ったのに、と立腹なさらず、根気強く、同じことをくり返して言っているうちに、わかってくると思います。

Ｔ君は決して乱暴な子供さんではないと文面より判断します。その上、自分から友を求めただけの社会性を持つ子供さんであると思えます。小学校一年だけでも、三歳くらいの子供さんでもあるナと思つてつき合つていけばいいかでしょう。

障害児だから……ということを意識して、肩に力が入りすぎているのではないでしょう。いろいろな子供がいるな……って軽く考えるところでしょうか。

近代がこわすもの

神奈川県横須賀市 松本 弘子

一七六号日下恵子さんの「ヤップ島滞在記」を興味深く読ませて頂きました。それと前後して私もこの一、二年、島に関する本を集中的に読んでいましたので、ほんの少し付け加えさせて頂きます。

近年、ヤップを初めミクロネシアの島々の十八歳から二十歳までの男性に自殺が増加していると、「ミクロネシアの小さな国々」という近刊の本で知りました。家族や村単位で暮らしていた時代は、のんびりやっているといても、イモ掘り、魚獲り、屋根の葺きかえなど、日常生活ではそれぞれ各自の役割分担があり忙しく暮らしていた。しかし、そういう伝統的社會が崩壊した今日、若者達は仕事も見い出せぬまま、お金ばかりかかるアメリカ式教育や消費生活に追われ、生きる価値を見失い、ノイローゼや自殺に追い込まれていくということです。

似たような話を、日本の石垣島で一年近く

暮らした知人からも教えられました。生活様式が根底より覆えられ、中央志向の學歷社會がここにも押し寄せ、子供達は東京及び沖縄の學校に進學する。そのお金を稼ぐため、両親は別々な場所へ出稼ぎに行く、その結果、家庭崩壊を招いているということです。

何百年も前から大自然の恵みを糧として、宮々と平和な暮らしを続けてきた太平洋諸島の人々にとって、ずかずか勝手に踏み込んできては島民の生活を踏みこじる文明人という名の他國の人ほど迷惑な存在はないでしょう。

わけでも、核実験場、核基地とされたビキニ、エネウェトク、ウーリツク、ロンゲラツプなどマーシャル諸島の人々の苦悩はいかばかりでしょう。一九五四年三月一日に雪（米核実験による死の灰）が降ってからというもの、住み馴れた故郷を追われて流浪の旅を、全く別の生き方を強いられた上に、今迄見た

こともなかった病氣——ガン・白血病・甲状腺異常——に見舞われるようになった島民達の苦しみを大國はツユほど考えたことがないのでしょいか。

もっぱらこの海域で日本の漁船は、私達の食卓に載せるマグロやカツオを採っています。それにもかかわらず、日本もこの地域を核のゴミ捨て場にしようとしています。

他人の身を思いやることなく身勝手な続け、地上の樂園を地獄と化する者に、そのツケは必ずまわってくるでしょう。

あこがれの南の島のどこへもまだ行ったことはありませんが、いつか訪れ、のんびり、おおらかに暮らしている人々にめぐり会いたいと思っていますが、もはや、そのような島も島民も文明の波に流し去られてしまっているでしょう。

岡本恭子様「いらぬお節介かもしれないけれど……」へ

千葉県千葉市 岩間笹百合

文中に、「いつぞや、ご近所の家の前にお惣菜持ち込み会社の車が止まっていたのを、目ざとく見つけた次男、現代っ子ゆえ、おそらく『わが家でも試食』と思いきや、開口一

番『どこの家だ、あんなものっているのは』

と非難の口ぶり、私は黙っていたが内心では私の手作りが一番だと思っていると解釈してはっとした」と書かれてありますが、ここには、坊やちゃんの意見だけで、お母さまのそれに対するご意見が書かれてありませんが、私は、今流行のお惣菜屋さんの利用、決して悪くはないと思います。

私の近所でも、あんなもの利用するのは、無精な主婦がやることだ。また、あんなものをとるのは、共稼ぎで一日中職場にかんづめにされている主婦や、自宅で仕事を持っている人たちで、一日中家にいる専業主婦が利用するものではない、ときびしい批判をされる。しかし私は、そうとは思えないと思う。

専業主婦といっても、それぞれの事情があり、病気などで外気にふれて買物に行かれないことだってあるし、年がら年中利用しているわけではないのだから……。

私自身も、前に一カ月（八月の暑い最中）

ほど、心臓の病が悪化してお惣菜屋を利用したことがあるが、全く買物にでられない状態の時には、どうしようもないのではないかしら。店屋物とはちがって、献立にあわせた材料が届くだけで、料理は一人前にするのだし、たしかに、材料は、自分の足で歩いて自分の目で確かめ、手にとって吟味したものに比べたら多少はおちるかもしれないが、中には中々の献立もある。一流のレストラン並みの和風ハンバーグもあるし、どうしても同じ傾向になりやすい献立に、新鮮味を加えてくれるプラスの面もあり、一概に否定すべきものではないと思う。まずは一度おたしかめ下さい。批評はそれから願います。



おしゃべり



△あなたはチャンスを

つかみますか▽に寄せて

東京都日野市 西 良子

三人の子供たちも一応自分の手でできる限りのことをして育て、下の子はまだ二歳ですが、この夏には三歳。私も、今のうちにもう少し自分の力を発展させることができたらし…と思いはじめています。

子供たちには、「お母さんは、いつ働きに出るかもしれないのだから」と言い言い、家事を分担させたり、意識を持たせるように努力しているのですが、なんといっても結婚以来十年、一度も働きに外へ出たことのない私にとっては、期待と共に不安もあることは確かです。

当時は、編集の第一線でとび回り、仕事こそ生き甲斐と思っていた充実感も、いつのまにかうすれ、人に、「あなたの子育てはすばらしい」などと言われることに慣れっこになっでしまい、せっせと幼児サークルなどに力を注いでいるのです。オヤツは手づくりで、洋服はすぐ捨てたりせず、必ずつくろって着せ、朝晩のぞうきんがけ、料理もゼイタクこそしないけれどまめに作り、洗濯は時間も手間もかかる溜めすぎ、毎晩本を読んで聞かせ、昼間はドッジボールやら野球やらの相手もし…というふうな生活が十年。今さらのごとく、十年の重みを感じます。

最近、親の自立、子供の自立、などということばがさかんに使われます。「自立」って

一体何だろうか。『母性をひらく』という本を書かれた木村栄さんは自立について、①経済的自立、②生活的自立、③性的自立、④情緒的自立の四つをあげて、すべての自立の基盤になるのは、経済的自立であると断言しました。

大人の女が、自分で働いて自分で得たお金を持ちえないことはおかしい、と私も最近考えるようになりました。それまでは、精神的に自立していれば、夫の給料に頼った生き方でもよいではないか。むしろ、その給料の中で、家を守り、子らを育てることはすばらしいではないかというふうな、半ば自分を納得させていたのです。

ところが、それはちょっと違うなと実感と

してわかったのは、なんとこの『わいふ』を購読しようと思った時なのです。実は、私が『わいふ』を知ったのは去年の秋でした。どうしても読んでみたい（それは、伊藤雅子さんの書物に引用されていたからです）と思ったから、実際にこの雑誌を手にするまでに半年もの間悩んだのです。

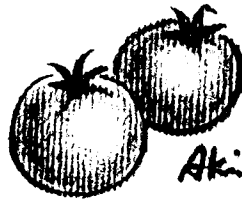
三千六百円というこのお金が私には払えなかったのです。貯蓄も、ひとなみにできる家計ではあるのですが、でも、この三千六百円を「自分のため」に使うことが、なんとも決心できなかったのです。

この気持は私自身にとっても意外でした。「自分で得たお金が今五千円でもあったら、私はすぐに購読を申しこむのになあ……」と歯ぎしりをする思いでした。「何かを学びたい、したい、と思っても、そこにまっすぐにとびこめないなんて……私の家庭の中の立場なんて、こんなものだったのかなあ」と、暗澹とする思いでした。

ベティ・フリーダンのように、「外へ外へ」とは叫びきれない私ですが、このままでは、大人の女としての自分ではない、と思い始めているのです。

野菜作りを始めて

東京都杉並区 根本由果里



前に図書館に通いつめ、家庭菜園のイロハから勉強して、あれこれ頭の中で理解したつもりになっても、「知っている」と「経験した」では大違い。怪しげな野菜作りを始めて四カ月が経つ。

農家や、でなくとも庭付きの家などに生まれ育っていれば、ごく当り前に身近にしているはずの自然界のことなど、都会の真ん中で、アパートとマンション住いを転々としていた私には、新鮮なショックだった。

たとえば季節の移り変わりや天候の変化。植物やそれを取り巻く虫達は、これに敏感に反応し、野菜も種蒔きの時期や花とか葉を出す具合が大いに影響される。私もつられて暦と天候と野菜の出来具合を比べて一喜一憂。

先日の渥美半島から本土に上陸した台風十号では、収穫間近だったとうもろこしを始め、茄子も不断草もササゲも一夜のうちに倒れ、あるいは葉が枯死して、大打撃を受けた。種を蒔く前の土作りから心を込めて育てあげた植物達が、たとえ台風で傷だらけになっても、ひとつひとつ拾いあげて食べてやらなくちゃ可哀想だと思ったのも、私にとっては新鮮な経験だった。

また、たとえば大地。あの豊かに、黒々と潤った柔らかな畑土が、実は太古の昔からの、動物や植物の骸の積み重なりで、色々な微生物やバクテリアの働きによって土に還元されていく。そして、考えるのすら汚らわしく感じてしまう動物の排泄物とか、死体とか、落葉の腐ったのとか、そういうものの全部が土の肥やしになって、植物や野菜を豊かに実らせ、私達の食べ物になる。

今まで雨上がりの道で出会うと、わざわざ遠回りをしたほど嫌いなミミズ君だって、畑にとつては大歓迎。雑草の繁みなんかにウジャウジャ出てきたら、そこは土が酸性化されていないし、よく食べよく動いて、畑を耕やしてもくれるはず。

また、野菜をめぐる小さな生き物達。農薬、農薬と嫌われて、今やその有害性を知らない人はいないほどだけれど、いざ無農薬で、となると、一匹迷がしたらあつと言う間に増える害虫君達を、一匹一匹捕まえる作業の大変なこと。近眼の私には砂をまいたように見える汚れが、実は小っちゃな害虫の集まりだったり、先日など茄子の茎から妙に色あせた枝が伸びているので、摘んでみると、生暖か

く、実は薄紫色の保護色を隠れ蓑にしたながい芋虫くん!! どっと吹き出る汗を拭きつつ、それでも大事な茄子を食べられまい、と、必死で取り除いたり。それにしても、天敵のクモやテントウ虫はどうしたんだろう。自然界は害虫も多いけれど、それに見合った天敵が、ほど良いバランスをとって生息しているはず。案外テントウの幼虫なんて、それと知らずに退治しているのかも……。などなど。

こういう経験を積んでみると、スーパーに並んでいる野菜も、当然見る目が変わってしまふ。大量生産しているプロの農家で、あんなに虫喰いのないキレイな野菜を作るには、どれくらい農薬をまいたか、この季節にある野菜が出ているなんて、どうして作っただろう、どうしてこんなに形のそろった果物ばかり並べられるんだろう……とか。

でも結局、買い手である私達の、文明的感覚の問題なのか、流通機構に踊らされているのか、とにかくキレイで形の整った野菜や、季節はずれの野菜が、よく売れるのだ。だから、作る人達も、有毒性を承知で農薬をまいたり、ビニールハウスで無理をしても、コスト高で栄養価の低い野菜を作らざるを得なく

なるのではないか。

欧米では、自分達で食べる野菜ぐらいいは、自分で栽培している家庭が少なくないといわれている。むしろ、国土の広さが比べものにならない、一戸建ての家に住むことさえ難しい日本で、彼の地と同じことを求めるのは、無理かもしれない。でも、ひとりひとりが、生きることにも少し自立して、つまり人間が生きていく基本である「食」を他人任せにしないで、自分も原点から関わってみる——野菜を作るのもいいし、海へ行って魚や貝を獲るのもいいかもしれないし、鶏を飼って食べてみたり、とにかくお金を出して買うのではなく、自然から生命の糧を得る経験を、生涯に一度で良いから骨身にしみてみたら、スーパーでパックされたキレイな野菜や肉に対して価値観が変わるかもしれない。そして、「食」に関する社会の流れを変えるような新しい何かが生まれてくるかもしれない、と今切実に感じている。

新潟だより

新潟県新津市 柳本 綸子

残暑お見舞申し上げます。

こちらは、お盆がすぐてから急に暑くなり、本当の夏ってこんなだったのかナと、改めて思ったりしています。私も「わいふ」の届くのを楽しみに、ただ時間をみつめて読むだけという毎日で、残念です。

こちらはお祭りのまっさかりです。

山車の素晴らしい、花火の豪華さ、お宮での舞いなど、伝統的日本の美に感嘆しております。

また余裕ができたらし書いてみたいものです。前号の恋愛体験、男性の座談会、とてもおもしろかったです。

幼稚園で新聞をつくっていて、良い仲間めぐり会え、「わいふ」のまわし読みをしています。そのうち読者増えると思います。

中学校でも広報部の役員をして、新聞づくりをしていて、コツコツとやっていくつもり

です。

今は仕事に追いまわられて、ニッチもサッチもいかなければ……。

何のために働く？

東京都練馬区 H・Y

毎日新聞に載った再就職セミナーの記事、興味深く拝見しました。

女性がフルタイムで働くということは、大変なことなのだろうと思います。私も結婚前六年間ぐらいフルタイムで働いて、いやになって、パートに切りかえました。

自分の本当にやりたいことならいいですが、ただ自立のために、経済的理由だけで働くことにむずかしさを感じます。

何のために働くのか、仕事イコール生きがいなのか、そのへんのところをつきつめていかなければいけないのではないかなどなどないきなことを考えたりします。

年上女房とは

千葉県船橋市 中島志げ子



私は一歳年上の女房です。主人とは職場結婚ですが、外見はおとなしそうで仕事は真面目、親孝行、人の噂もとてもよく、どちらかといえば二枚目な顔立ちの主人でした。

四十二年前の十月のある日、上野不忍の池

の辺で「満州に転勤になるので一緒に行ってくれないか」と言う彼は二十二歳でした。私は女学校を出たら体操学校に行こうと、父に相談すると「女のくせに」と反対され、当時の職業婦人になってしまいました。その頃、私の生家は使用人を八人ぐらい使って仕事をしていたので、私は箸より重い物を持ったことのないお嬢さんと会社でも言われ、それが私にとっては大へん嫌なことでしたので、彼の満州行きはとても魅力でした。満州の広い荒野で彼と二人きりの生活、夢みるような気持で両親に話すと、父は一度逢ってみようと言いました。彼を連れてゆくと、父は一目見るなり私に「あの男は童貞だよ。安心してついてゆきなさい」と太鼓判をおしてくれました。

彼の希望どおり十二月三十日に結婚式をあげて、出発の日を待っていました。一月の半ば頃、突然満州行きは同僚のMさんに変ってしまっただけです。それからの私は、舅、姑、小姑の中で、涙の毎日になってしまいました。

ある日私は主人に、「何故私と結婚したの」ときくと、「健康そうで、仕事もきちんとして、優良事務員の表彰を二回も受けている

ので、きつといい嫁さんになると思ったから」と返事はこうでした。愛していたから、好きだからなんてことは一言も言ってくれませんでした。そうです。結婚しても親兄弟が大事人でした。結婚後聞いた主人の話では、子供の頃から家が貧しくて、弟や妹を自分が学校にあげ、親には仕送りをしていたとか、こんな話をきくとすぐ立派な人のようですね。でもそれはうわべだけ、浮気、暴力、酒乱と、ギャンブルも適当にやる、こんな隠れた性格の持主でした。

四人の子供ができましたが、一向に直らない主人の行い。私は「そうだ、お金を持ってきたくれる機械だと思えば」と、決心したのが二十六歳の時でした。でも、それに徹するに三年かかり、ある時は涙で三貫目も減ってしまいました。別れようかと思いましたが、子供のをみるとただ我慢しかなく、とうとう四人の子供も独立して、今は孫も八人のおばあちゃんになるまで、そんな主人と暮らしてきてしまいました。

今は運命と諦めて暮らしています。子供達は、「何故別れなかったの」と口々に言いますが、大正初期の女性の気持はわからないと思いま

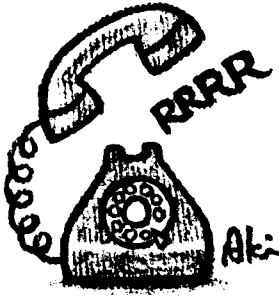
す。でも子供達は私の苦勞をよく知ってくれ、長男はお酒が入ると、「俺はお母さんに感謝する。お母さんがいなかったら俺達はどうなっていたかわからない」と言ってくれます。この言葉は私の苦勞を帳消しにしてくれるのです。

今私の思うのは、子供の頃、青春の頃、家のためにあまり苦勞した人は、結婚して妻や子供達に、思いやりがないということです。

精いっぱい親兄弟に尽してしまい、疲れているのでしよう。おかげさまで私の子供四人は、皆思いやりのある主人や、やさしい嫁との生活で、幸せに暮らしています。子供達は私に、「いつでも面倒みるから安心していてよ」と言ってくれます。有難いことです。苦勞した甲斐がありました。でももう少しの間、わがままな主人の面倒を見なくてはならない私の義務があるように思います。一歳年上女房は鐘太鼓叩いてさがせとは、男の側から言う言葉でしょう。

私の電話料金奮戦記

東京都三鷹市 高橋美智子



三年くらい前のことですが、その頃のわが家の電話料金は、毎月、大体一万円から一万五千円くらいでした。二人共郷里が九州のわが家では、どちらかの実家に冠婚葬祭があったり、病人が出た時はやはり集中的に長距離電話をかけることになりましたが、できるだけ九時以降のサービスタイムを利用して二万円をこえることはありませんでした。

ところがその年の二月に三万七千円、三月に二万六千円という額を請求され、余りの高さに何かの間違いではないかと局にかけ合ったところ、局の方でもおかしいと思っていたらしく電話機の故障、その他の場合を考慮してこの二カ月分の料金を一時保留ということにして三カ月ほど度数メーターをつけてみることにしました。その後の料金は一万円をこえることなく、四カ月目に通話状況を記録したコピーを持って局の方から責任者が来ました。しかしそのデータは、何日に何番へ何分かけたかということが数字で示されているだけで、取付けたメーターがどのように動き、指示しているかについては何の説明もなく、部外者にはお見せできません、メーターに間違いはないのだからとにかく払って下さいの

一点ばりで、私は納得いきません、しぶしぶ七月末の支払いということで承諾してしまいました。しかし、どう考えても使っていない電話料金を夏のボーナスで六万も払うことは何とも腹立たしく、一体これをどこに相談すればいいのか、それさえわからず悶々とした日を過ごしていました。

そんな時、サンケイリビング新聞で電話料金をめぐるトラブルの特集記事を見て、その解決法の一つとして消費者センターに持ち込んだ例を知りました。それからすぐに私も消費者センターに出向き事情を説明しました。二、三日して局から電話があり、この間は円満に話し合いがついたのにいまさら第三者を介入させるとは何事だ、約束が違うじゃないかと少々すぐみのある声でいってきました。私としては、決して納得して了解したわけではないこと、途方にくれてセンターに相談したことを重ねて話し、同じ払うお金ならば納得の上で気持よく払いたいことを伝えました。局側で再検討した上で知らせてくれることになり、数日後に、二月分の三万七千円の方だけを半額支払いで、三月分は請求書の通りの支払いでどうだといってきました。私には何

とも解せない考え方なので、その後何回か話し合い結局双方歩みよりという形で二カ月分共半額ということで一件落着きました。それ以後もわが家の料金は一万円前後といった状況で、やはりあれはおかしいとは思えませんでした。

こうした私の体験からいえることは、自分が納得いかなければ局側のいいなりになって払うことはないし、何らかの手だてをみつけて解決することです。それにはめんどろがらずに、まずできることからやってみることが第一で、そうすればまたそこから道は開けるものなのです。それにしても今の世の中で一枚の明細書も請求書も出さずに、支払いだけを命じてくる企業があるでしょうか。親方日の丸の独占事業だからといってこのままでいいものでしょうか。人間も企業もライバルがあればこそ努力をし、そこから改善や進歩が生まれてくるのです。私はそれ以来電話料金の銀行引き落としを止め、送られてきた請求書を見て払い込みに行くようにしています。この事件が何かのお役に立てば幸いです。

無鉄砲でしょうか

神奈川県平塚市 小清水玲子

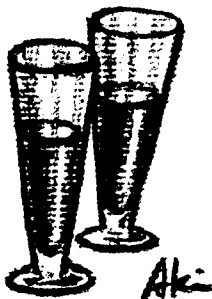
今年の四月に息子が入園し、「さあていよいよ！」と思っているところへ、「役員をやってくれませんか」と先生がやってきた。せっかく英会話でも習おうかと思っていたのに……と胸内で舌うちしたけれど、予想できることだったので、引き受けました。子供は一人きりなのですから仕方ありません。

役員会があるという。出席すると、会長副会長を決めるといふ。なるほど、そうでした。けれど私は関係ありません。今年入園したばかりなのだから、と拝聴をきめてみました。ところがところどころが、この会長なかなか決まら

ない。役を押しつけられそうになると、「副会長なら」「会計なら」と回りだけが決まって会長は決まりやしない。時間はどんどん経つ。ワタシヤ子持ちだから早くしてくれ、と言いたいのをジッと堪えて、皆様のゴシヤゴシヤ言うのを聞いていました。

前会長は「私は会長をして自分のためにな

りましたから、皆様もご自分のために会長をなさったら」と盛んに商品のごとく勧めている。さらに「来年は連合会（私立幼稚園の）役員もしなければならぬだろうから今年お引受けになった方が案ですよ」と言うてられる。何をあせったか私、こりや大変と思いましたがね。来年も役員を引受ける予感でしたのです。私言いました。「会長をします」全役員、先生に意外の雰囲気ありあり。それでも決定。後で前会長様の言うこと「会長というのは幼稚園の顔ですからね」と。この方には不信任だったようです。私の会長としての仕事がつてくるにつれ、この方は何故か私と顔が合うのを避けるようになりました。どちらかといえば私、愛想は悪い方ですが……。



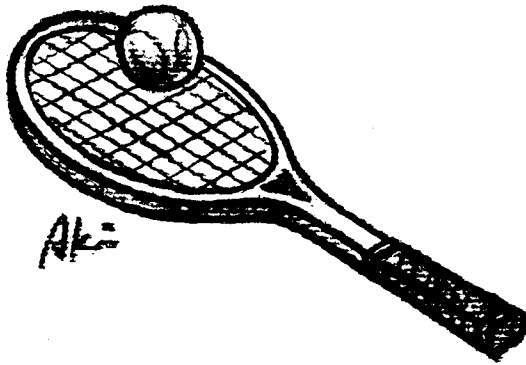
ただ今 立腹中

東京都目黒区 木村 道子

この頃、私は怒りっぱくして仕方がない。

日々やたらと怒りをおぼえる。友人は「欲求不満じゃないの」とニタニタ笑うが、全部、というわけにはいかないが、まあ、その色々の欲求は、満たされている方だと思っている。

では何故なのだろう。腹の立つことが多いからである。一つ一つ挙げたらきりがながい、自分のことを棚に上げて並べれば、①自分勝手に興奮し悪いことはすべて誰かのせいに転化する未成熟人間、②他人の不幸に同情しつつ、いつまでものぞき続ける興味本位人間、③よその慶びごとくに水をさすジョーロ人間、④子供の分際で、らしさのないミニ大人、等々が多いためであると思える。特にきょう日の子供は目に余る。家の子とか、よその子というのではなく、一般的に。外で会ったおりなど「元気なの」「あらコンニチワ」とニコニコ笑顔で声をかけたって目を合わせればよい方。



胸中知るよしもないが知らん顔。急ぐでもなければ、下を向くでもなく、恥ずかしいなんてとんでもない。平然とすれ違っていく。特に男の子なんて特権階級のように。女の子だって中流以上とおぼしき優雅なご家庭で育つと、お母さんの友達とか、ヨソのおばさんには近づくナ、話をするとかバイキンがうつると思うものらしい。時折しつづきが良いか、優しい子なのか、会釈をする子に会うと、もう必要以上にうれしくなってしまう。いきおい家へ帰るなり、上の子には「相手がしやうとしまいと必ず目下の方から挨拶しなさいよ、小さい子には笑って声をかけて上げるのよ」といい、下のチビには、「アノネ、ヨソのおばちゃんに会ったら、コンニチワ」っていうのよ、バイバイ、アリガトもいえるね」と、つい真剣にハツ当りしてしまう。まったくこの頃の子は……と口をついて出るのは私がイヤラシキ中年オバンになったということかしらね。でもね。子供様方よ、笑ったって挨拶したって顔も口も減らないよ。そして育児担当者の、同志の皆々様、お点前のお稽古の初めに「まず形から入って心に入る」と教えられたことが、十年半以上経てか

ら本当にそうだと思えてきました。

「今の予ってシラケ時代の申し子で……」とか「シ、カト、（無視）するの得意ね」などと笑いながらボヤいてないで、この辺でしっかり基礎をエチケツトとして指導しておこうではありませんか。子供にいった手前、お手本を示さざるを得ませんものね。お互いに。

——この辺が私の怒りの本音かな——

残念／購読中止

熊本県五和町 藤本 妙子

不足金千八百円送ります。

なお、生活苦のため、しばらく購読を中止しようと思います。五人の子育て、働きたくもない仕事、女一人で生きていくことのきびしさの中で、どれだけ『わいふ』がはげみになったことか、本当にありがとうございました。また『わいふ』にお会いできる日を楽しみにがんばろうと思います。貴社の発展をお祈り申し上げます。

最近のわたし

茨城県八千代町 中山 芳美

その一 福引のこと

まあ、聞いて下さい。私、この間、生れて初めて、特賞が当たっちゃったんです。いつも赤玉ばかりで、ティッシュペーパーしかもらったことがないのに、三回やったうち三回目にはポロリと、白玉が出て、受付の女の子たちが驚いちゃって……。

ところが、その景品が二人乗り用ゴムボートで、買うと七万円くらいするそうでした、でもね、当たったとたん私、一等の景品（レジャーボックス）と取り替えてくれませんかかって、頼んでみたんです。なぜなら、うちはまだ、子供は小さいし、ボートなんて、そんなに必要なものじゃないのね。どんなに高いものでも、利用価値が少ないのでは無意味でしょ。当選して注文つけちゃ悪いけど、実用的なものとか、もっと夢のあるものの方がよかったのになあ。

その二 息子たちのこと

今年から、わが家の息子たちも、揃って保育園に入った。年中組と年少組にである。私は毎朝、園児服に着替えさせる時、きまって、こう言う。「今日も、うんと遊んできてね」って。さて夕方、保育園のバスから降りる二人の姿は、案の定、母の言い、つけを忠実に実行してか、よく遊んできたということが、一見してわかる姿で帰ってくる。特に、下の子の汚し方は相当なもので、園児服なんて、着て帰ったことはなく、カバンの中に、クシャクシャにまるめて入っており、くつ下なんかどろだらけになって脱いできちゃう。そんなことだから、クツなんて砂が入っちゃって毎日おとりかえである。はなはだしい時は、パンツから上着、半ズボンに至る一式を着替えさせてもらってくる始末。「マーちゃん、今日何して遊んできたの？」ときくと、子供は、目を輝かせて、「どろんと遊び」と答える。これが相当面白いらしく、話し方に弾みがあって、きいていると、おもしろく嬉しくなってくる。

保育園に、私は、これといって期待するこ



できたのだと思って、安心と同時に、のびのび育っているなんて、実感するんです。

その三 わいふのこと

このごろ、わいふが届いても、以前のようにすぐ開こうとしない。そして、次第に読むページも少なくなり、ため息がもれる。「つまらない」なんて言ったら、一生けん命努力して、少しでも多くの読者に喜んでもらおうと頑張っているスタッフの皆さんに申し訳ない気がして……。以前は、何か書きたいと思ったら、文章なんて下手でも、身近に書ける親しみももてた。今は、気軽な投稿の建て前が、よくよく考えての投稿に変化しつつある気がして、わいふ誌が遠のいていく感じがする。わいふのレベルが上がったと喜ぶべきか、面白くないと思ったら、やめるべきか、今、思い悩んでいる。

梅雨の季節

岐阜県大垣市 K・H

家族揃って健康なわが家の買物物は週三回ほどで、四十路を迎えた私は自分の時間とし

て大いに楽しんでます。町へ出るのに片道はバスで行き、片道は歩いて帰ります。経費節約と健康のためです。それにうっとうしいこの季節は家にいても洗濯はあまりできないし、掃除といっても簡単に済むし、縫い物をするにも辺りが暗くて明るい日のようにすっきりした気分にもなれないという理由でそれならば買物にゆっくり時間をかけようと思った次第です。最初はバス通りを歩き、車で何分、徒歩で何分などと時計の針にとらめっこしていたのですが、バス通りを歩くと車の騒音や排気ガスでつい急ぎ足になり、家へ帰ると疲れが残る、何となく体がけだるい感じなので、少し遠道ですがまわり道をして、車の入れない路地裏のような通りや美しい空気の田んぼ道の細道を選んで歩きます。

その日の気分次第で、道を変えて歩くのですが、途中の家の庭には、鉢植えやプランターの夏菊やグラジオラスそして私の名も知らない花々が、色とりどりに咲き乱れています。石庭に枝ぶりの素晴らしい松石で囲われた花壇を眺めると、しばらく立ち止まりたい気分になります。また雨降りにはあじさいが美しく、犬のいる家では、親子の犬が檻おとりの中で仲

とは何もないが、ただ、大勢のお友だちの中にいて、迷惑をかけずに（けんかはしてもいいが、自分から先に手を出してケガをさせたりしなければ）、仲良く、夢中になって、うんと遊ばせたい。字なんて読めなくても、書けなくてもいいのだ。そんなのは、時期がくれば、ひとりで覚えようとするだろうから。毎日、毎日、私は、一、二度水洗いしなくては、洗剤を入れて洗えないほど汚してくる子供たちの洗たくに追われているけれど、汚しは帰ってくれば、くるほど、一生けん命遊ん

良くたわむれていて、生後何カ月ぐらいたろうと思ったり、手に持った荷物やこうもり、それにレインシューズのはき心地などすっかり忘れ、とても気分爽快です。

また、この季節、青田の成育を見るのも心楽しいものです。最近ではほとんどが機械植えて、細かい植え方だないと感心させられます。手ではこんなには植えられないだろうなあと思いつつ眺めていると、縁の方を見て唖然とさせられました。機械植えだから、隅から隅までという具合にはいかないものなのでしょうか。随分乱雑な植え方なんです。土が見えていて、まだまだ植えられるのにも思いました。作物を作る土地がなく、土手などを開墾した私達の幼少時代を振り返ってみると、腹立たしくなります。少しあらいた植え方だと思ふ田圃は、手で植えられたところなんです。こちらは、隅から隅まで満遍なく植えてあり、これが本来の田植えのやり方だと思われるように、土地というものを大切に、最大限に利用してあり、心豊かな気分にさせられます。町から田舎道、それぞれ美しい景色に見とれ、足取りも軽やかにわが家へ帰り着きます。するとどうでしょう。わが家の庭の欠点と

いうものがはつきりわかり、花壇の中もあでしょう、こうしようと狭い耕作地ながら希望に胸がふくらみ、小半時の散策も有意義なものになるのです。冬の寒さの中や夏の猛暑の中は、とても歩けそうもない年齢になってしまった私ですが、梅雨の季節をこんな楽しい過ごし方で暮している私、私の足どりと同じく軽やかにうっとうしい梅雨の季節が過ぎていきます。

仕事考

神奈川県川崎市 野村 純子

宝塚からここ川崎の下町に移って、私の仕事感がかなり変わりました。そして「わいふ」の中の職業意識に何かひっかかりを感じていたのですが、それがはからずも一七七号の園さんの「甘ったれてる」また吉岡さんの「ゼイタク」という言葉に「これだ」と思ったのです。

いつか新聞で「大都会の華やかな文化生活を支えている地方の犠牲」について、例えば近代的大病院の恩恵を受ける都会人と、そ

パートで働ける職場です

アシスト

タイプ・事務代行業

東京都中央区入船1丁目6-3
朝日八丁堀マンション209号
03 (551) 2249

職種は、地味な和文タイプと事務代行業ですが、女性ならではの有機的な職場にします。

勤務時間は、一日二―三時間から隔月など、その他相談の上。

●乳児に限り同伴可。(但し短時間を希望のかた)

●働く意志が明確でしたら、構えずに、慣れてみてください。

●やがてプロとして巣立つためのステップにどうぞ。

●女の作る、女のための職場です。

●まずはお電話をどうぞ。

れを支える地方出身の看護婦の仕事を読んで
それまで自分が求めていた、条件もかつこう
もいい仕事とは何だ、そんなものを求める姿
勢はどうだと思ひ始めていたのです。川崎に
来て劣悪な条件下で黙々と働く人々を見まし
た。五十年前も前までは人はその日の糧のため
または子供達の養育のために身近にある仕事
を何でもやってきたのではなかったか。仕事
が生きがいだなんて思ひ上がるな、甘ったれ
るな、そんなつもりで、割のいい仕事を、エリ
ートの妻がとって、まわりまわって多くの
淋しい老人、薬漬けの病人、目のいきとどか
ない子供が増えて、そして後始末の地道なつ
らい仕事をだれかにやらせる、それでいいの
かな？

私はマンションに入居して、共有部分の掃
除が業者に委託され、掃除ぎらいの私にとっ
てうれしいことに、私は勞せずしていつもピ
カピカのエレベーターやホールを利用できる
のだが、他人に、きらいな汚れ仕事をやらせ
て自分は楽できるというこの都会のパターン
に罪悪感をぬぐいきれないでいるのです。こ
う書いていると女は家にいて子供を育てよ、
家を掃除しろ、老・病人を看よと能力ある女

の足を引っぱるようで筆が進まないのだけ
れど、人間の日常生活にかかわるドロドロし
たつらい仕事をどうするのか。社会全体が職
業の中身の見直しをして欲しい。人のいやがる
尊い仕事をしている人に、それが報われるよ
うな仕組みを、利潤追求が第一で公害や従業
員、近隣住民の人間性を無視したり、危険な
食品、いかげんな衣料品、心をむしばむ玩
具などを作るような仕事に正しい規制を加え
られる仕組みを考えて欲しい。

私達主婦はガッチリ社会機構に組み込まれ
て夢中で働いている男達より、自由に物を見、
それら社会の矛盾に気付けるのではないか。
だから利を追い求めることより、たとえ精神
的なものだけと思われても命をいづくし大
事にする営みの方が価値ある仕事だという主
張を持ちつづけた。ともすれば社会が人間
を忘れ心をおきざりにし、易き欲に流される
ところをふんばらねばならないと思うのです。
では実際に何をするか。私は求職にふみき
らないで、その何か新しい仕事を模索して思
い迷っている最中です。

(え・鈴木昭宏)
(中・扉・伊福部薫子)

月刊 森の教育

10月号 発売中 / 定価480円 発行●毎日新聞社

■特集

校内暴力こうして断つ 抑えるよりも内面の理解を……青木一

●読者応募手記・全文掲載

「校内暴力-私の対策」入選作品

■愛知の教育—その⑨

このいびつな教育状況の数々

◆進路指導とカネ……田辺優文子

◆武蔵大学からみた“大学論”岩田麗子

◆留年統出の米国の小学校 G・オーマチ

●11月号予告●

〈特集〉女教師はなぜ嫌われる

「わいふ」の誌名について

あなたのご意見をぜひ!!

「わいふ」ってなに？ 人妻ボルノじゃないの？」

ある本屋さんの、衝撃の発言。

ここまでいかずとも、「わいふ」という誌名の持つイメージについて、これまでとかく批判的な声がよせられていました。

曰く、「専業主婦をベッタリ、肯定しているイメージ」「大正時代の古くささ」「トマケチャップと文化住宅のにおい」「泥くさい自己満足のかおり」等々……。

昭和三十九年に兵庫県宝塚市で生まれ、約十年続いたいわば第一次「わいふ」をわたしたちが受けついでるときも、この誌名をそのまましておくかどうか、大議論がかわされたものです。

しかしともかくにも、それまでの「わいふ」の伝統と路線を受けつごうという思いがつよく、「わいふ」の名は無事に生きのこりました。

最近「わいふ」を女性問題のナマ資料として評価して下さる方も多く、「わいふ」の名はすっかり定着し、読者、投稿者の数もふえる一方なのですが、いまこの時に当って、私たち編集部は改めて「わいふ」の名にこだわりたいと思うのです。

第二次「わいふ」が発足してからもうすぐ、七年。この七年のあいだに、主婦の生活はおどろくほど変化しています。

「わいふ」の誌面ははたして、その変化を忠実に反映しているだろうか。そしてまた、

これから未来に向って、ますます変化しつづけるにちがいない私たちの現実をあらわすのに、「わいふ」という名はほんとうにふさわしいのだろうか。

一年ほど前から、編集部ではこのことが問題になっていたのですが、考えてみれば、これはわたしたち編集部だけの問題でなく、わいふの読者、投稿者のみなさまに関わる大きな問題です。

まずみなさまのお考えをきかせていただくことから始めたい、と思います。

「わいふ」という誌名を、どうお思いですか。これから先もずっと、この誌名で通すことがよいかどうか、ご意見をお寄せください。

もし、変えろとすれば、どんな名前がよいかということも、併せて提案していただければ、たいへん嬉しいです。締切十一月三日。

編集部

投稿規定

定期購読者はどなたでも投稿できます。
(定期購読は直接編集部へお申し込みください。)

対話のページ・エコー(千二百字まで)
わいふ誌上の投稿、記事についての感想
反論、批判など。

私の視点(千二百字まで)
問題提起、何でも自由に。なるべく体験
的実感のあるものを歓迎します。

子育て会談(千二百字まで)

——乳・幼児期から思春期まで——

子どもを大きくするまでの体験、苦しみ、悩み、楽しみなどを寄せて下さい。

おしゃべり (八百字まで)

おたよりその他、気楽なおしゃべりのページです。編集部へのおたよりをそのままのせさせていただくこともありますので、掲載をご希望でないものは「私信」

と必ず明記してください。

情報コーナー(二百字まで)

あげます、貸します、こんなこと一緒に
しませんかなど、何でもお知らせ欄。扱
つていらつしやる商品やおしごとなどは
「私のPR」として一括します。

私の再就職

あなたの再就職事情、職場体験をお書き
下さい。(四百字詰十五枚以内)

以上は紙面の許すかぎりすべて掲載。

持ちこみ原稿(長さ自由)

評論、ルポ、ずいひつ、詩、小説。

ぜひ力作をお寄せください。

コミック・ライブラリー

身近かでおきたケツサクな話をお寄せく
ださい。編集部でくわしくお話をうかが
ってからシナリオを作りますので、コマ
漫画の構成になさる必要はありません。

テーマ原稿(四百字詰十五枚(三十枚))
規定は投稿募集欄でお知らせします。

*

●紙上匿名は自由ですが、原稿には必ず
住所氏名を明記してください。

●投稿は必ず原稿用紙に書いて下さい。
書き出しは一字あげ、句読点は一マス
分を取って、その下は一マスあげずに
すぐに次の字を書いてください。

●紙面の都合上原稿は削らせていただく
ことがあります。あしからずご了承ください。

●サークルだよりをお寄せになるかたは
なるべく六百字までの原稿にしてお送り
ください。サークルのパンフをそのまま
お寄せ下さると、どの部分をおのせして
よいかわかりますので、よろしくお願ひし
ます。

テーマ原稿募集

一八〇号のテーマは左のとおりです。

『父親はほんとに必要なか?』（仮題）

幼稚園に行っている息子が、「お父さんで、どうしてここにいろの?」と言って、父親を驚かしたという話があります。子供にとっていつも留守の父親なんて、いてもいなくても同じこと、なんでこの人ときどきテレビの前でごろごろしてるのだろう? なんのためにこの家にいるのかしら? としか思われな

いのではないでしょうか。

最近「あなたも息子に殺される」という本が出て、これが当たり、二十万部も売れたといわれ、金属バットでなぐり殺される父親もある一方、登校拒否や家庭内暴力の息子を「思い余って」絞め殺す父親もある。

子供が小さいときはなんのためにいるのか分からず、思春期になれば殺されたり殺したりでは、父親とは何なのか? まったく考えさせられてしまうではありませんか、私たち母親としては、

このさい、わいふ、得意の根源的思考に基づき、父親はなぜ必要かをテッタイ追究してみよう。そりゃ子供をつくるためには必要だ。その他お金を持ってくるため? 子供と野球するため? お菓子やおもちゃを買ってくるため? 母親がヒス起したらなだめるため? あなたの家族の中の父親の役割、必要度をよく考えてみて下さい。

やっぱり必要だ、という方、よく考えてみたらいてもいなくても大差ないという方、いないほうがいいという方、彼の役目は給料稼ぐだけという方、それぞれの「父親像」を具体的に活写していただきたいのです。もちろんあなたや子供の登場する家庭内のドラマ、という仕立方で、たのしくおもしろい原稿（たのしくもおもしろくもないかな?）をお寄せ下さい。

締切 十一月三十日
枚数 十五枚〜二十枚
テーマ原稿のみ採用分に薄謝をさし上げます。

お友達に（わいふ）をおすすめ下さい

新しい読者をご紹介下さった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介下さることに、誌代プラス送料とも一回延長。

（六人ご紹介下されば、翌年の誌代・送料とも無料になります）

〈わいふ〉年間分をプレゼントにお使い下さい

●ご結婚のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。

お申込みいただければ、まず新読者にきれいなプレゼント・カードをお送りしてお知らせし、以後毎回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介と同様に、お一人につき一冊分延長させていただきます。

編集だより

●短くて暑かった夏がすぎました。今年は編集室の改築で、てんやわんやの一夏をすごしましたが、ようやく八月初めに完成、移転

さわぎも一段落して、以前の倍近くなった空間で、やっと呼吸が楽につける感じです。

●というところで、これから二か月に一度ずつ、投稿者、読者のみなさまと編集部の人バーが親しく語らいを持つための面会日をもうけることに致しました。

面会日は偶数月の第三火曜日、時間は午後一時半から五時ぐらいまで。とくに個人的に御相談のおありの方は、前の日にでもお電話下さって、午前中にどうぞ。編集部としては、皆さまの一人お一人に親しくお目にかかりたい気持ちでいっぱいなのですが、別々の日にいらしていただくのでは、仕事ができなくなるおそれがありますので、日を決めさせていただきます。十月は十九日です。

●九月十日、毎日新聞に掲載された編集部の田中の文章をめぐってさまざまの反響がありました。最近の主婦の生活の多様化はほんとに目をみはるものがあります。働きはじめた

方々の生活は手いっぱい、「わいふ」への投稿どころではないかもしれません、そういう方たちの体験をぜひ、誌上で伝えていただきたいと痛切に思います。ご投稿をお待ちしています。

●再就職セミナー以来、企業からのひきあいが多く、それが縁で、主婦にもできる形で働き出した方が何人かあります。今回も140頁に求人広告が出ていますのでお見逃しなく。

●築摩書房からこの十月に「女が生きる職業」という全三巻の本が出版されます。この第三巻「再就職」の中に、わいふの投稿者の柳本倫子さん、桜井淳子さん、鈴木恵子さん、その他の方々の文が入っています。わいふで書くことを始めた方々の文章が、こんな形で社会的に認められていくことは本当に嬉しく、これからのこうしたチャンスをつまやそう、努力するつもりです。

●講談社文庫の村上信彦著「明治女性史」全四巻を譲って下さる方ありませんか。絶版になって手に入りませんので至急声をかけていただければ嬉しいのです。どうぞよろしく。

●読書の秋。読むばかりでなく、ふるってご投稿をどうぞ、ではまた。

□購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。
すぐ本に振替用紙をそえてお送りしますの
で、折返しご送金ください。バックナンバー
のご注文も同様に。二冊以上まとめます
すと送料が半額以下になります。

わいふ

1982年11月1日発行
印刷・浩文社印刷

定価 450円

(年間購読料送料共 3600円)

発行所・樹グループわいふ

編集・わいふ編集部

東京都新宿区加賀町2-4 〒162

TEL (03) 260-4771

郵便振替 東京5-110430

銀行口座 三菱銀行神楽坂支店

普通預金 052-4348909

□購読中止は……

かならずお申出ください。送金をお忘れになる方が多いので、誌代が切れても引き続き送本しています。お申出がないと、お送りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

国が一つの方向に進もうとする時には、いつでも女を管理しようとしてきます。それはある時は産まれ、ある時は墮させられてきた女の歴史をみれば明らかです。

戦前は富国強兵のため、子供を産むという方向で管理し、敗戦後は経済復興、すぐに使える労働力の確保等、適度に産み、墮ろさせるといふ方向で管理してきました。そして今「胎児の生命の尊重」という美名のもとでの

優生保護法改悪が、右傾化の中で出されてきていることを忘れてはなりません。

もし、「経済的理由」が削除されたら、そしてそれが厳密に運用されたら、中絶をした女のはとんどが、刑法の墮胎罪にあてはまり、徴役一年以下となります。もしそれが厳しく運用されなかったとしても法律は法律です。その時どきの政策によって厳密に運用したりしなかったり、国は女の体を管理する一つの

手段を持つことになります。

女の体を管理することによって、国民の質と量、労働力、福祉の後退（家庭基盤充実政策 福祉を切り捨てた分だけ家庭内の女に負わせる）経済までも支配しようとしています。産む産まない権利を女が本当に自分の手に入れるために、女の産む機能をこれ以上、国に利用されないためにも、優生保護法の改悪を、できうるかぎりの力を集めて阻止しなけ

優生保護法改悪反対に女たちの力を！

ればなりません。

東京では各グループまたは個人の参加で、「82年優生保護法改悪阻止連絡会」結成し、阻止のため行動をおこしています。優生保護法の歴史、改悪の意図するもの、闘い方など詳しく書いてあるパンフレットを発行しています。また十一月三日には反対の大集会を予定しています。

優生保護法改悪の恐るべき意図をこのまま進めさせてはいけない！ そう思った女たちが、一人の行動から、より大きな「改悪反対」の輪を広げていきましょう。

▽なんでもわかる画期的な「優生保護法とたたかうために」パンフレット

編集 優生保護法改悪と闘う女の会
定価四〇〇円 送料一七〇円

▽11・3「優生保護法改悪反対集会」

82年11月3日 東京・渋谷・山手教会

△連絡先▽

東京都新宿区若葉1の10

グリーンマンションD号「ジョキ」気付

82 優生保護法改悪阻止連絡会

TEL 03 (355) 0429

郵便振替 東京7174055

優生保護法改悪と闘う女の会

松本エミ子



Be a get-out.....

あなた自身への美しきチャレンジ



団欒……戻りました。

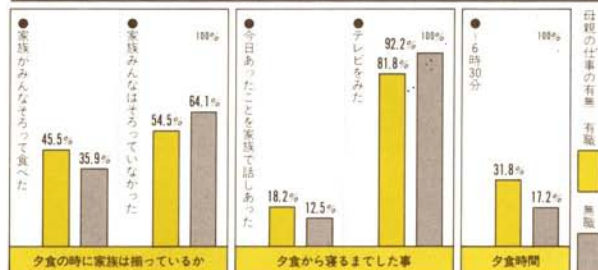
「家族そろって夕食をとる」「テレビを見ないで今日あったことを家族同志で話し合う」——大切な家族コミュニケーションは、母親が働きに出ている家庭の方がより豊かに行われています。このうれしい事実は「be able」NO.3(マンパワージャパンが発行している働く女性のための情報誌9月発刊)が、都内の小学校高学年生徒男子・女子100名を対象に「母親が働くことが子どもたちの生活にどんな影響を与えるのだろうか」をテーマに調査し明ら

かにされたものです。母親の不在は家庭の崩壊を招くという見方はまったくの誤解であることがわかります。専業主婦の家庭にくらべ、かえて家族の協力度が高く夫、子どもそれぞれの立場からの思いがより深いふれあいを求めるためでしょうか。多くの面でけじめのある生活態度がうかがえます。働く母親へのあたたかい眼差しが家族を新しく結びつける絆となっているといえましょう。

応援します。

マンパワージャパンは、自分自身のために働こうとする女性のために望ましい職場と環境、さらに働きやすい条件を整えていこうとする会社です。もし「あなたが働きたい職場で、働きたい時間だけ、しかも、あなたの能力にふさわしい収入を得たい」とお考えなら、マンパワージャパンにご相談ください。現在、マンパワージャパンでは、6500人もの女性がスタッフとして、およそ4400の優良企業で働いています。

●母親が働きに出ている家庭の方が家族コミュニケーションはより豊かです



●マンパワージャパンの窓口は全国10ヶ所。最寄りの支店へお電話ください。経験豊富なサービスレプレゼンタティブがご相談に応じております。

- 東京/銀座 ☎562-4271 ●赤坂 ☎478-6311
- 新宿 ☎342-5555 ●横浜 ☎314-1222
- 札幌 ☎222-4881 ●名古屋 ☎962-7771
- 大阪 ☎222-6300 ●神戸 ☎321-5951
- 広島 ☎223-1100 ●福岡 ☎741-9531

あなたの経験と時間を生かします。

世界最大の事務業務請負サービス
マンパワー

マンパワージャパン株式会社 本社/東京都港区赤坂1丁目11-45第3興和ビル

16